

岩手県文化財調査報告書 第120集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成16年度)

平成18年3月

岩手県教育委員会

序 文

本県には豊かな自然とともに、集落跡、古墳、城館跡など多くの遺跡が残っています。

埋蔵文化財は、地域の歴史と文化に深く根ざした国民共有の財産であり、物質的な豊かさの追求から教育・文化等の内面的な充実が求められるなか、人々の埋蔵文化財への関心は高まりを見せています。先人の残したかけがえのない埋蔵文化財を正しく理解し、次代に引き継ぎ、地域で積極的に保存し活用していくことは、現代に生きる私たちの責務でもあります。

埋蔵文化財にとって、現状のまま保存することが最善ではあるのですが、近年の大規模な開発事業等によって現状保存することは、難しい場合が多くなってきており、発掘調査を実施し、記録保存しているところです。このような現実の中で、埋蔵文化財保護と各種開発事業との円滑な調整を図るには、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示し、周知する必要があることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて、昭和52年度以来、遺跡の分布調査を実施していますが、現在確認されている遺跡数は1万2千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成16年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果を主にまとめたものです。本報告書の活用により、文化財の保護に役立てば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導御協力をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成18年3月

岩手県教育委員会

教育長 照井 崇

例　　言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成16年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘トレンチは実線で示した。
- 6 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の鎌田 勉文化財専門員、藤村 節文化財調査員、音 常久文化財調査員、相原 伸裕文化財調査員、日下 和寿専門学芸員、小山内 透文化財行政研究員が担当した。
- 7 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目次

序文

例言

I 発掘調査

1 ほ場整備事業八重畠地区（大西遺跡）	3
2 ほ場整備事業増沢東部地区（金打造跡）	10
3 ほ場整備事業 満倉地区（兵法田遺跡）	17
4 一般県道水沢水沢線満倉地区歩道設置工事（兵法田遺跡）	19
5 緊急地方道B（雪寒）事業（大道口遺跡）	24
6 遠野警察署土灘駐在所庁舎新築工事（蓮池遺跡）	27
7 稲貫田排水樋管改築工事（駒板遺跡）	29
8 国営いさわ南部農地整備事業（一の台遺跡）	35
9 国営いさわ南部農地整備事業（一の台Ⅲ遺跡）	37
10 国営いさわ南部農地整備事業（一の台Ⅳ遺跡）	39
11 国営いさわ南部農地整備事業（二の沢遺跡）	42
12 国営いさわ南部農地整備事業（屋敷遺跡）	45
13 ほ場整備事業 戸塚地区（大曲遺跡）	49

II 試掘調査

1 一関遊水地事業（衣の間遺跡）	55
2 一関遊水地事業（潤畑遺跡）	56
3 一関遊水地事業（接待館遺跡）	57
4 一関遊水地事業（六日市場・細田遺跡）	58
5 一関遊水地事業（坂下遺跡）	59
6 一般国道4号花巻東バイパス改築工事（下通遺跡）	60
7 一般国道4号渋民バイパス改築工事（星久保V遺跡）	61
8 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事（中屋敷上遺跡）	62
9 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事（野里上遺跡）	63
10 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事（野里上Ⅱ遺跡）	64
11 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事（野中遺跡）	65
12 一般国道4号平泉バイパス改築工事（瀬原I遺跡）	66
13 国営いさわ南部農地整備事業（台I遺跡）	67
14 国営いさわ南部農地整備事業（台Ⅲ遺跡）	68
15 農用地総合整備事業 下閉伊北地区（普産IV遺跡）	69
16 農用地総合整備事業 下閉伊北地区（千束南遺跡）	70
17 ほ場整備事業 御所野地区（L E13-2334遺跡）	71
18 ほ場整備事業 神橋地区（田屋遺跡）	72
19 ほ場整備事業 戸塚地区（蒲沢遺跡）	73
20 ほ場整備事業 八重畠地区（荒野遺跡）	74
21 ほ場整備事業 八重畠地区（大西遺跡）	75
22 ほ場整備事業 八重畠地区（大西Ⅱ遺跡）	76
23 ほ場整備事業 八重畠地区（大西橋II遺跡）	77

24	は場整備事業	八重畠地区（中村遺跡）	78
25	は場整備事業	八重畠地区（中村遺跡隣接地）	79
26	は場整備事業	大明神地区（上野々遺跡）	80
27	中山間地域総合整備事業	介天地区（貝沢野Ⅱ遺跡）	81
28	は場整備事業	更木新田地区（駒板遺跡）	82
29	は場整備事業	更木新田地区（M E 36-2330遺跡）	83
30	は場整備事業	更木新田地区（M E 36-2352遺跡）	84
31	は場整備事業	更木新田地区（M E 36-2342遺跡）	85
32	は場整備事業	江釣子第一地区（新平遺跡）	86
33	は場整備事業	江釣子第一地区（芦萱遺跡）	87
34	は場整備事業	前沢古城地区（要害遺跡）	88
35	は場整備事業	前沢古城地区（亀田遺跡）	89
36	は場整備事業	増沢東部地区（岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡）	90
37	は場整備事業	白山地区（合野遺跡）	91
38	は場整備事業	白山地区（川前遺跡）	93
39	は場整備事業	白山地区（道上遺跡）	94
40	は場整備事業「大森3期地区」	（可能性ありNo.5）	95
41	は場整備事業	猫川左岸地区（林崎Ⅲ遺跡）	96
42	は場整備事業	猫川左岸地区（火尻Ⅰ遺跡）	97
43	中山間地域総合整備事業	日頃市西地区（上騰生遺跡）	98
44	広域農道整備事業	軽米九戸2期地区（板子屋敷3遺跡）	99
45	一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備	（川口Ⅰ遺跡）	100
46	緊急地方道路整備事業（館Ⅱ遺跡）		101
47	一般国道455号北山バイパス事業	（果子Ⅶ遺跡）	102
48	市町村整備代行事業	（大平野Ⅱ遺跡）	103
49	通常砂防事業	（沼里遺跡）	104
50	緊急地方道路整備事業	（伏屋Ⅱ遺跡）	105
51	中山間地域総合整備事業	日野沢地区（ウチマ鉄山跡）	106
52	は場整備事業	更木新田地区（市ノ川Ⅰ遺跡）	107
53	は場整備事業	更木新田地区（小川屋敷遺跡）	108
54	は場整備事業	更木新田地区（六日市遺跡）	109
55	は場整備事業	更木新田地区（市ノ川Ⅱ遺跡）	110
56	は場整備事業	更木新田地区（山口遺跡）	111
57	畑地帯総合整備事業	藤崎地区（十文字遺跡）	112
58	農用地総合整備事業	下閉伊北地区（大岩遺跡）	113
59	下水道施設整備事業	（薄前遺跡）	114
60	試掘調査出土遺物図版		115
61	分布調査一覧		120
62	試掘調査一覧		124
III 写真図版			134

I 発掘調査

1 は場整備事業 八重畠地区

大西遺跡 (ME 06-2345)

所在地：石鳥谷町八重畠第15地割内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年8月20日～9月1日

平成17年3月14日～3月16日

本遺跡はJR東北本線花巻空港駅から東へ約2kmの北上川左岸の低位段丘上に位置する。この遺跡を含む範囲は、は場整備事業に伴い(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって本年4月から8月中旬にかけて発掘調査が実施された。その結果、遺構が存在する範囲が当初見込みより拡大することが判明したため、今回の県教育委員会による発掘調査実施となった。調査区が2つに分けられていることから北区、南区と呼称した。

なお、調査対象は工事、耕作によって遺構が損傷する標高までとした。

発掘調査は埋文センター調査区に隣接している約370m²が対象である。調査の結果、竪穴住居跡1棟、溝跡1条、ピット類36基、焼土跡2基、遺物包含層1箇所を確認した。調査では、遺構確認面が2面確認されており、それぞれ平安時代、純文時代晚期～弥生時代後期のものであることが判明した。

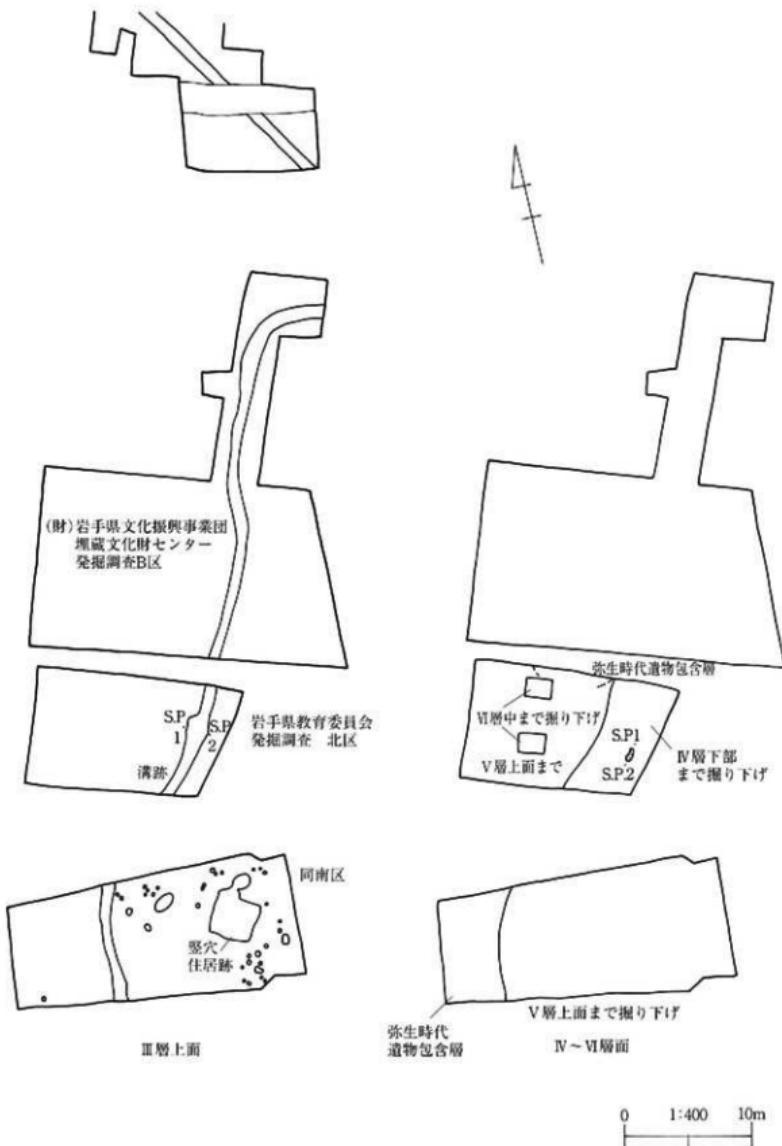
平安時代の遺構はⅢ層上面で確認された。溝跡は埋文センター調査区のものと同一のもので、調査区南側ほど掘り込みが浅くなっていた。また、一辺が3m～3.5m程の方形基調の竪穴住居跡は床面に長径0.8～0.9mの焼土2基が確認されているが、カマドは存在しない。焼土は、掘り込みをもつものではなく、廃棄されたものであった。住居跡埋土は3層で約0.2mであり、上部が削平を受けていたと推定された。ピット類が36基確認されている。そのうち規模が大きいものは4基で、楕円形、円形基調のものである。土坑1は長軸1.7m、短軸1.1mで、底面にピットが存在する。土坑4は竪穴住居跡に切られており、正確な形態は不明である。焼土1は長方形を呈しており、厚さは8cmほどであった。溝跡は、埋蔵文化財センター調査区のものと同一のものと考えられ、南北に延びている。幅は広い箇所で1.5m、深さは0.5mほどである。周辺及び遺構埋土から平安時代の土師器が出土した。

IV層は弥生時代後期の遺物包含層、遺構確認面である。北区では土器、剥片が出土した。IV層下部で焼土1基を確認した。規模は長軸0.8m、短軸0.4mで、炭化物が多く含まれていた。確認面から弥生時代のものと判断した。その下のV層中から縄文土器が1点出土した。南区でもこの広がりが確認できたが、本来V層に含まれると純文時代晚期の土器と、弥生時代後期の土器が混在して出土した。

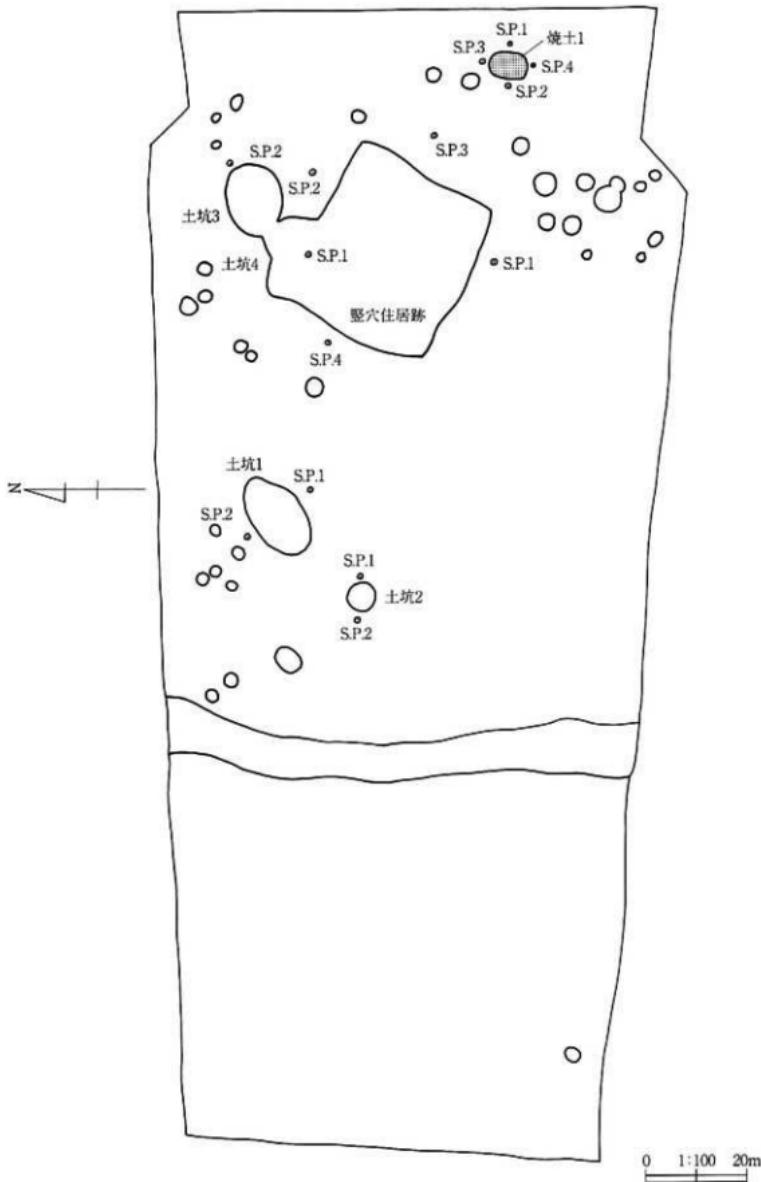
なお、上記発掘調査の他、一地点の発掘調査も実施しており、陥し穴状遺構2基等を調査した。対象箇所はバイブルайн、砂利敷農道予定箇所であったが、1号陥穴状遺構については確認調査とした。バイブルайн予定箇所の2号陥し穴状遺構は発掘調査を実施した。1号陥し穴状遺構は長さ約3.5m、幅0.2～0.3mの溝状の形態であった。柱穴（直径約40cm）も1基、確認調査を実施した。2号陥し穴状遺構は、長さ3.6m、幅役13cm、深さ1.1mであった。両者とも遺物の出土はなかった。基本層序は第1層・耕作土（約15cm）、第2層・黒褐色土（約6cm）となり、検出面はⅢ層上面（褐色土）で、長軸方向は東北東～西南西であった。



第1図 大西遺跡位置図



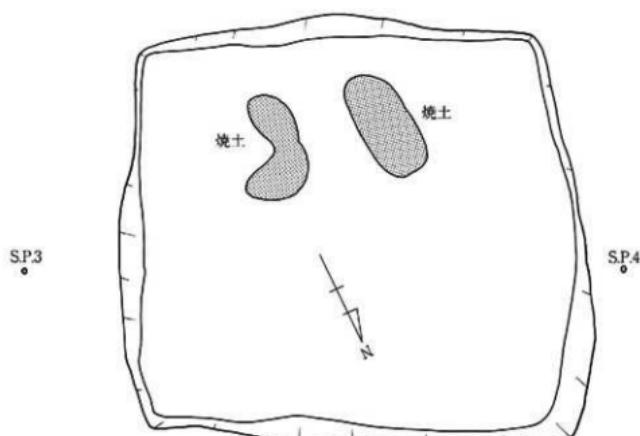
第2図 大西遺跡((財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査区隣接)調査区域図



第3図 大西遺跡Ⅲ層上面造構配置図

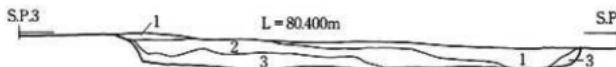
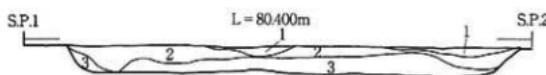
堅穴住居跡 平面図

S.P.1

 $S = \frac{1}{40}$

堅穴住居跡 断面図

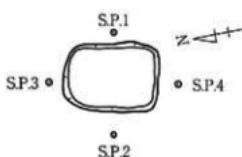
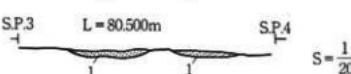
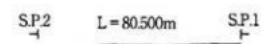
S.P.2

 $S = \frac{1}{40}$

- 堅穴住居跡
1. 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性中、しまり中、5mm前後の炭化物を5%含む。
 2. 10YR4/4 褐色シルト、粘性ややあり、しまり中、5~10mmの炭化物を10%含む。
10YR3/3暗褐色土をブロック状に少量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性あり、しまり中、5~15mm大炭化物15%含む。

焼土1 断面図

焼土1 平面図

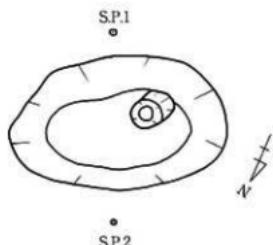
 $S = \frac{1}{40}$  $S = \frac{1}{20}$

焼土1

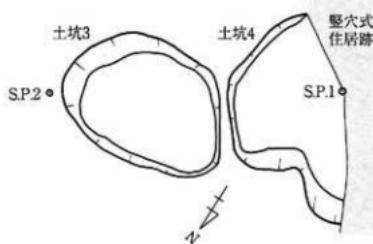
1. 2.5YR3/4 暗赤褐色焼土、部分的に赤灰色を呈する。

第4図 大西遺跡南区Ⅲ層上面の構造(1)

土坑1



土坑3・4



土坑1



土坑1

1. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
3~5mmの大粒化物を少量含む
2. 10YR3/4暗褐色 粘性ややあり しまりなし
5~10mmの大粒化物を15%含む

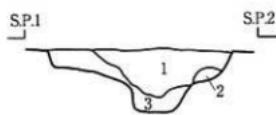
土坑3・4



土坑3・土坑4

1. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 5~10mmの大粒化物を7%含む 暗褐色燒土粒→ブロックを少量含む
2. 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまり中 3~5mmの大粒化物を少量含む 焼土粒を少量含む

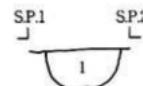
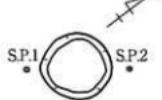
溝跡



溝跡断面

1. 10YR6/3に近い黄褐色 稕質シルト しまり弱
粘性弱 1層より黒味がかかるいる 上層を含む
礫は少ない
2. 10YR5/4に近い黄褐色 稕質シルト しまり弱
粘性弱 1層より黄味がかかるている
3. 10YR5/4に近い黄褐色 稕質シルト しまり弱
粘性中 1層より黄味がかかるている

土坑2



土坑2

1. 10YR3/4暗褐色シルト 1~2mmの大粒化物を少量含む

IV層下部 燃土



焼土

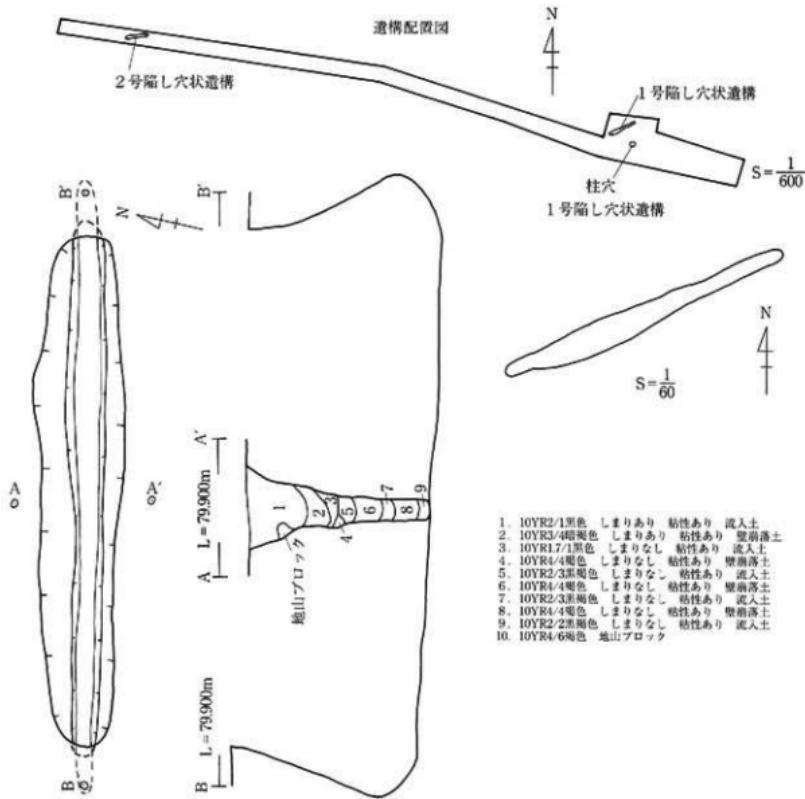
1. 10YR4/2灰黃褐色シルト しまり中 粘性中の土が主体で
炭化物が多く混じる 道物なし 一部に炭化物を含む

0 1:40 1m

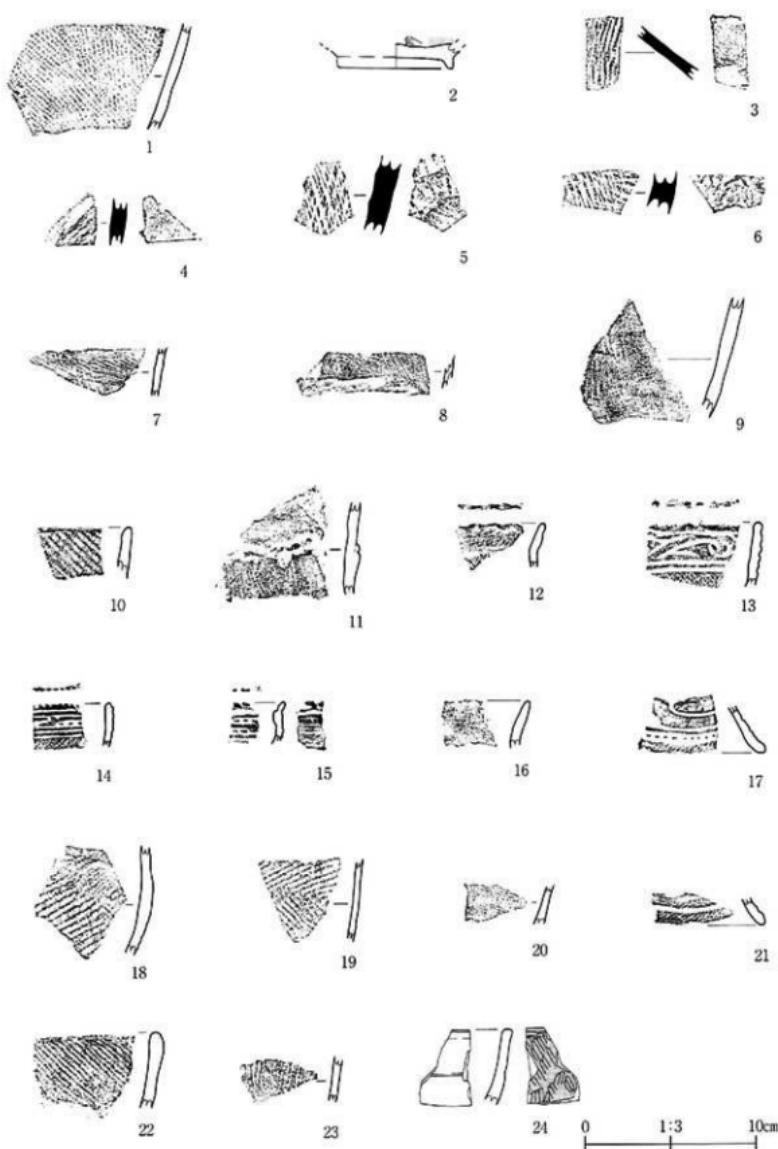
第5図 大西遺跡南区Ⅲ層上面の構造(2)・IV層下部の構造



第6図 大西遺跡 バイオライン・農道予定箇所調査区位置図



第7図 大西遺跡調査区位置図・遺構図



第8図 大西遺跡 出土遺物

2 ほ場整備事業 増沢東部地区

金打遺跡 (ME97-1314)

所在地：江刺市岩谷堂金打地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備課

調査期日：平成16年6月1日～3日

7日～11日

14日～17日

(延べ12日間)

本遺跡は、江刺市役所の北東約2.8kmに位置し、人首川右岸の沖積地微高地に立地する。

遺跡の標高は51m～54m前後を測り、現況は主に水田と宅地になっている。今回の調査は、試掘調査の結果埋蔵文化財が確認された水路の埋設箇所が対象である。

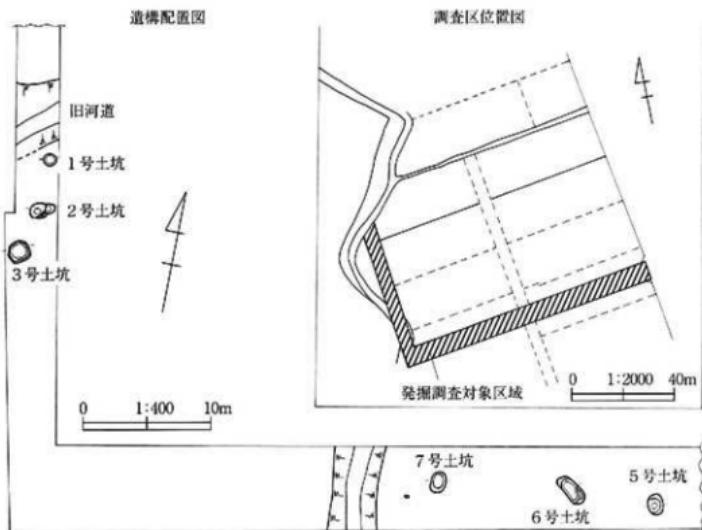
調査の結果確認された埋蔵文化財は、土坑7基、焼土遺構1基、包含層1カ所であった。1号土坑の規模は、長軸0.97m・短軸0.94mで深さは0.38mで埋土は黒色粘土質シルトであった。2号土坑は重複しており、西側をA土坑・東側をB土坑としたが、断面観察からA土坑が新しいと推測された。A土坑の規模は長軸1.30m・短軸1.07mで深さは0.67mで、B土坑の規模は長軸0.95m・短軸0.84mで深さは0.43mであった。埋土には微量の炭化物を含んでいた。3号土坑の規模は長軸1.72m・短軸1.64mで深さは0.75mであった。2層には炭化物の層が見られ、3層には0.3m程の疊と0.3m～0.7mの木片が多数出土した。水が絶え間なく湧き出ていることと形状から井戸跡である可能性が高い。使用しなくなつてから疊や木ぎれ、何らかの炭化物などを投棄したものと思われる。5号土坑の規模は長軸1.65m・短軸1.25mで深さは0.37mであった。1層の上面には少量の縄文土器を含んでいた。6号土坑の規模は長軸2.60m・1.22mで深さは0.34mであった。1層の上部には少量の縄文土器を含み、酸化鉄がわずかに混じっていた。7号土坑の規模は長軸0.16m・短軸1.05mで深さは0.12mであった。1層には少々の縄文土器を含んでいた。検出された焼土は3基であったが、1号焼土と2号焼土は廃棄性焼土と判断した。3号焼土の規模は長軸0.35m・短軸0.25mで深さは0.10mであった。包含層の範囲は、2つの旧河道から東側全域であり、規模はおよそ190m²であった。包含層から出土した土器類は大コンテナ5箱分だった。遺構・遺物の分析状況と遺構形態及び埋土状況からは、西側は近世と考えられる。東側は、縄文前期後半と思われる。住居跡が検出されなかつたことから、集落等は調査区より小高い西側、又は北側であると推測される。今回の調査区は、雨が多い時期などを考慮すると通年で生活するには難しい場所であったと考えられることから、水くみ場や土器捨て場等に用いた可能性が高い。



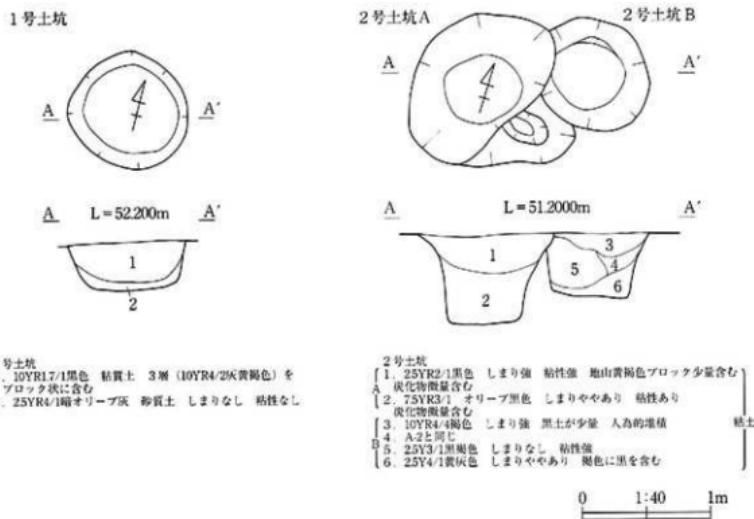
第9図 金打遺跡位置図



第10図 金打遺跡調査区位置図

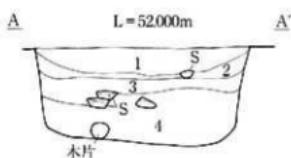
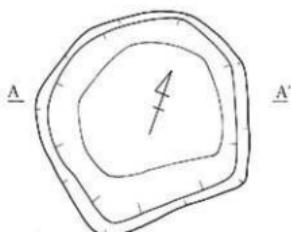


第11図 金打遺跡調査区位置図・遺構配置図



第12図 金打遺跡 遺構 (1)

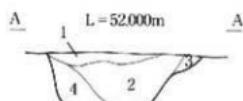
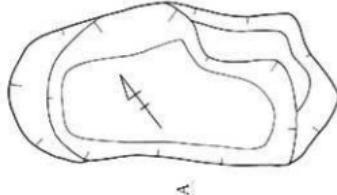
3号土坑



3号土坑

1. 10YR2-2黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
5mm以上の山積 硬化部分含む
2. 10YR1-7(黒土) しまり弱 粘性弱 大型の未発食本材含む
3. 10YR4-1褐灰色土 しまり中 粘性弱
灰褐色のブロック若干含む 大型の塊含む 本片を比較的多く含む
4. 25YR5-1黄褐色土 しまり中 粘性強 大型の塊を含む
本片を比較的多く含む

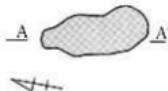
6号土坑



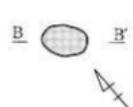
6号土坑

1. 10YR2-2黒褐色土 しまりややあり 粘性あり 上層を少量含む
鐵化跡わずかに含む
2. 10YR2-3褐灰色土 しまりなし 粘性強 西側には小硬含む
3. 10YR4-1褐灰色土 しまりややあり 粘性あり 粘性なし 砂質
4. 10YR3-3褐褐色土 しまりややあり 粘性なし 粘性なし 砂質

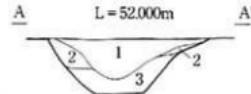
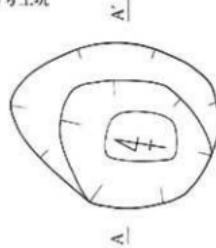
1号土坑



2号焼土



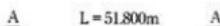
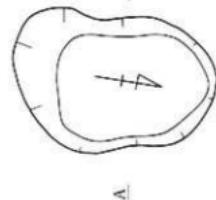
5号土坑



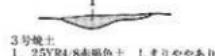
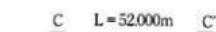
5号土坑

1. 10YR2-2黒褐色土 しまりあり 粘性あり
土器を少量含む (上層)
2. 10YR2-3褐灰色土 しまりややあり 粘性なし 砂質
西側には小硬含む
3. 10YR3-3褐褐色土 しまりややあり 粘性なし 砂質
小硬を少量含む

7号土坑

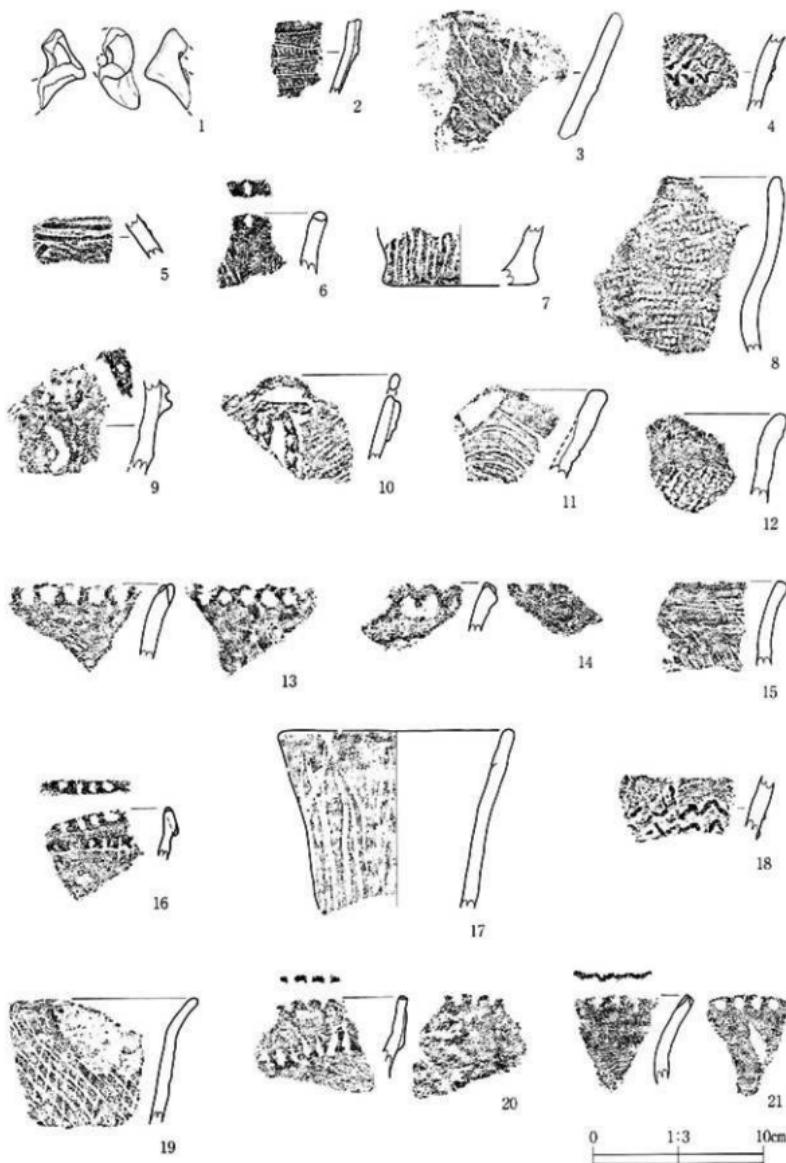


1. 10YR2-2黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
土器を少量含む

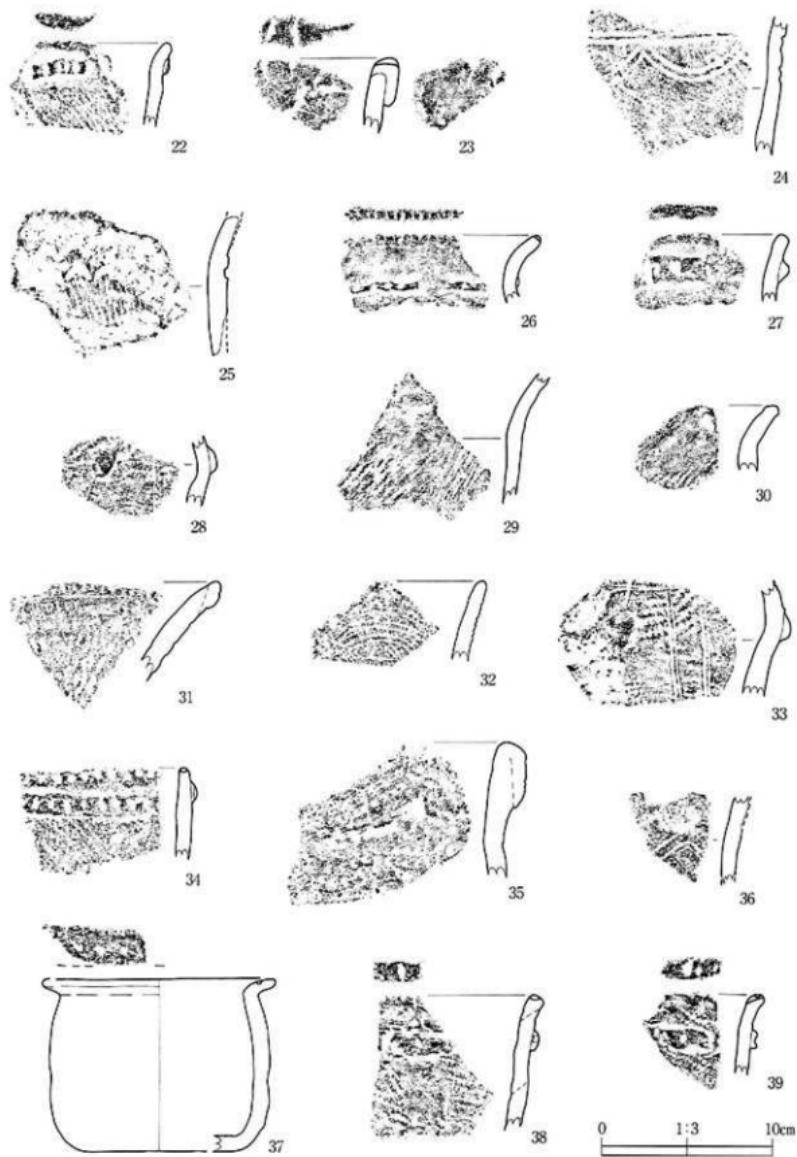


0 1:40 1m

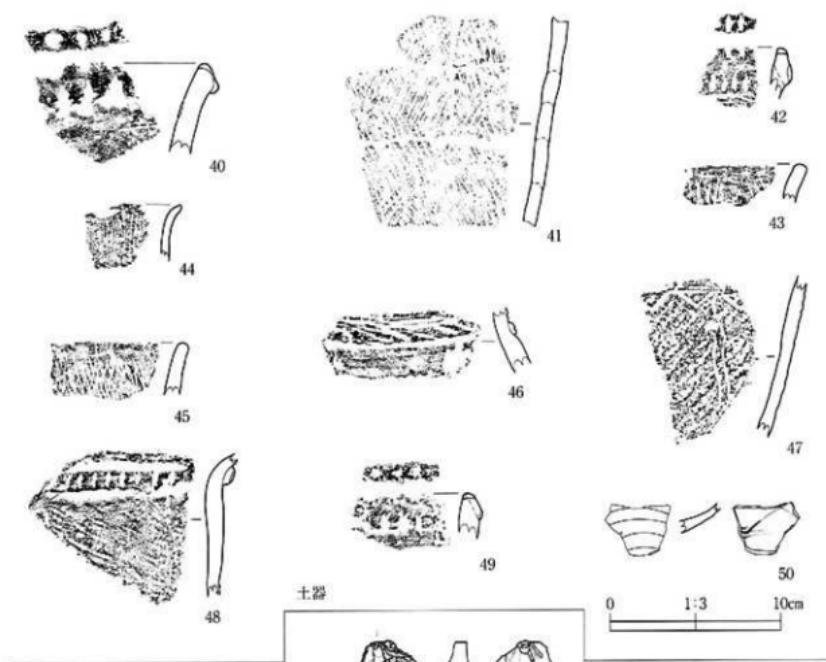
第13図 金打遺跡 遺構 (2)



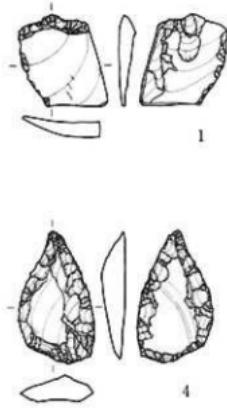
第14図 金打造跡 出土遺物(1)



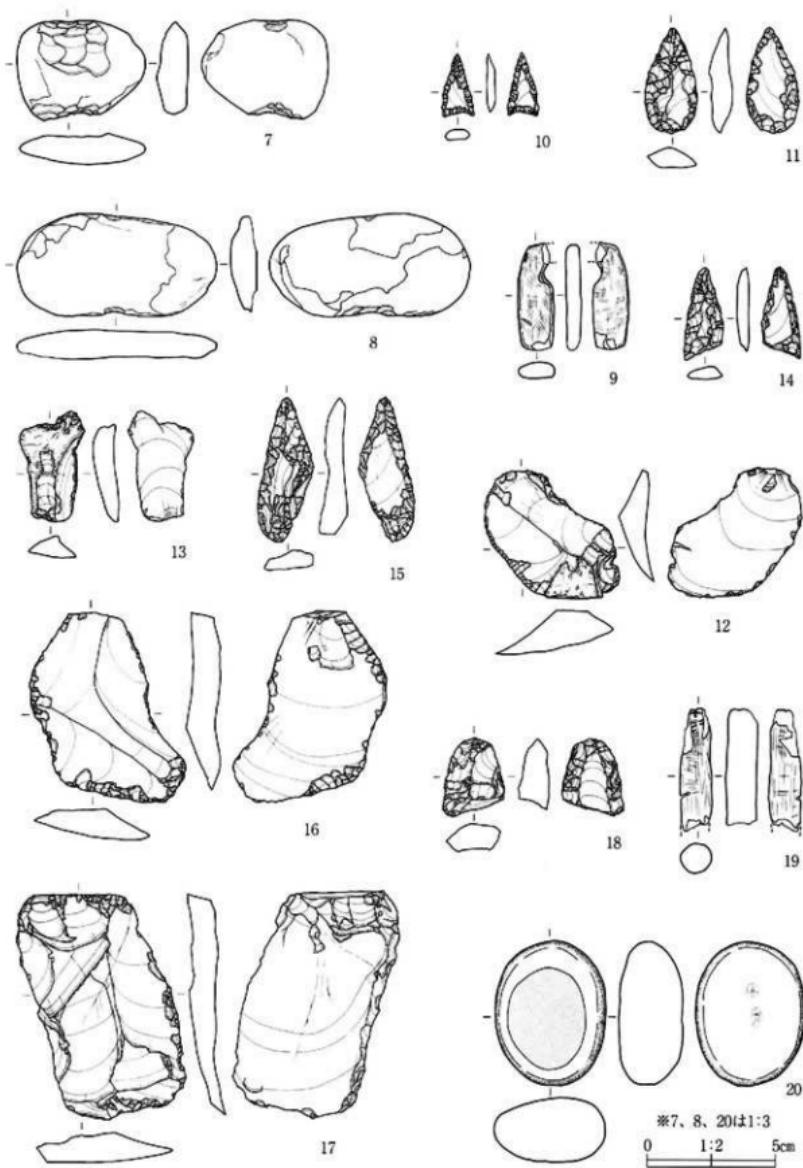
第15図 金打遣跡 出土遺物 (2)



石器



第16図 金打遺跡 出土遺物 (3)



第17図 金打造跡 出土遺物 (4)

3 ほ場整備事業 満倉地区

兵法田遺跡 (N E 15-0311)

所在地：水沢市佐倉河字西田中地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年5月17日～19日（3日間）

本遺跡はJR東北本線水沢駅の北西約6kmに位置し、奥羽山脈から東流する胆沢川が形成した胆沢扇状地の北端、水沢段丘低位面に立地している。標高はおよそ68m前後を測り、現況は主に水田となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に係る砂利敷き農道の拡幅部分について、内容確認調査を実施したものである。

調査は前年度の試掘成果を踏まえ、Ⅱ層褐色土から検出作業を行い、Ⅱ・Ⅲ層面で約160基の柱穴を確認した。

柱穴個々の形状は、大半がおよそ円形で、径30cm前後のものが多く、調査区中央部では径50cmほどの比較的大きいものが揃う傾向が伺えた。また、南側では一辺約40cmの方形基調のものも認められ、中央部の規模の大きい柱穴では柱痕が確認できるものも10基ほどある。検出面における覆土の状況としては、基本的には黒褐色土を主体とし、掘り方の裏込め土には黄褐色土ブロックが含まれるものも見受けられた。

柱穴の分布状況としては、中央部では形態・規模の類するものに幾分配置的なまとまりが認められ、ややばらつきはあるものの柱間2m前後で南北方向に延びる数条の並行する柱穴列の存在が伺えた。調査区の幅が狭いため全容は不明であるが、東側に下屋のつく桁行7間の掘立柱建物跡と推測され、同一箇所に数基の柱穴が重複するものもあることから敷度の建て替えが行われたものと考えられる。

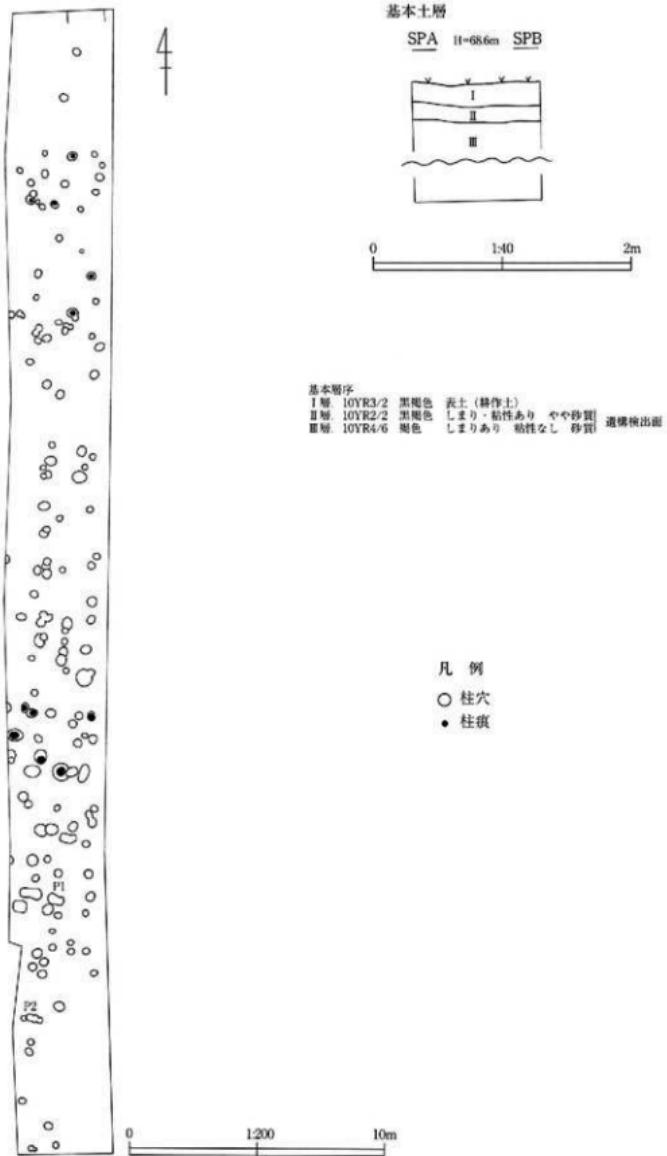
遺物は南側の柱穴2基の検出面から、P1では近世肥前産磁器（19世紀初頭か？）小片1点、P2では不明鉄製品1点が出土した。

以上が今回の調査成果であるが、現道下部分が未調査のため詳細は不明だが、出土遺物・埋土・柱穴配置などからみて、近世の屋敷跡の可能性が高く、中央部は母屋跡、北側部分は付属施設と思われる。



第18図 兵法田遺跡位置図





第20図 兵法田遺跡・遺構配置図

4 一般県道永沢水沢線満倉地区歩道設置工事

兵法田遺跡（N E 15-0311）

所在地：水沢市佐倉河字兵法田地内

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期間：平成16年9月29日～10月13日、

平成17年3月2日～4日延べ12日

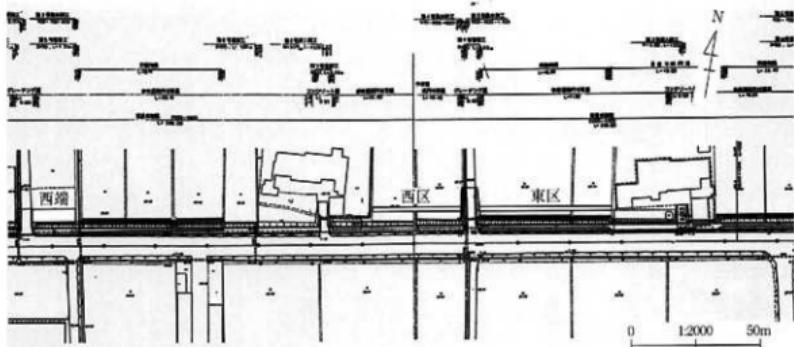
本遺跡は、JR東北本線水沢駅の北西約6kmに位置し、奥羽山脈から東流する胆沢川が形成した胆沢扇状地の北端、水沢段丘低位面に立地し、標高は約68m前後を測る。今年度、農道拡幅工事に際して隣接地を発掘調査を行ったところ、柱穴状ピットを約160基確認したことから、今回の歩道設置予定箇所においても遺構の確認される可能性が高いと判断し、発掘調査を行うこととなった。

調査の結果、東側調査区・西側調査区において溝1条、柱穴102基、掘立柱建物跡を確認した。溝は西側調査区で確認された。調査区が狭く溝全体の概要をつかむことはできなかったが、幅40～45m、長さ12m、東から西に延び調査区端で北方に向きを変えた。基本層序は黒褐色土の単層で、深さは12cmであった。深さが浅いことから、溝の上層は場整備の際に削られたと推測される。柱穴の検出面は、西側調査区では基本層序第Ⅱ層の黒褐色シルト面、東側調査区では褐色シルト面であった。柱穴の種類は埋土の様子から、5種類に大別することができた（一覧表参照）。掘立柱建物跡は、東側調査区において確認した。調査区の幅が狭いため全容は不明であるが柱間1.8m前後で桁行4間以上であった。

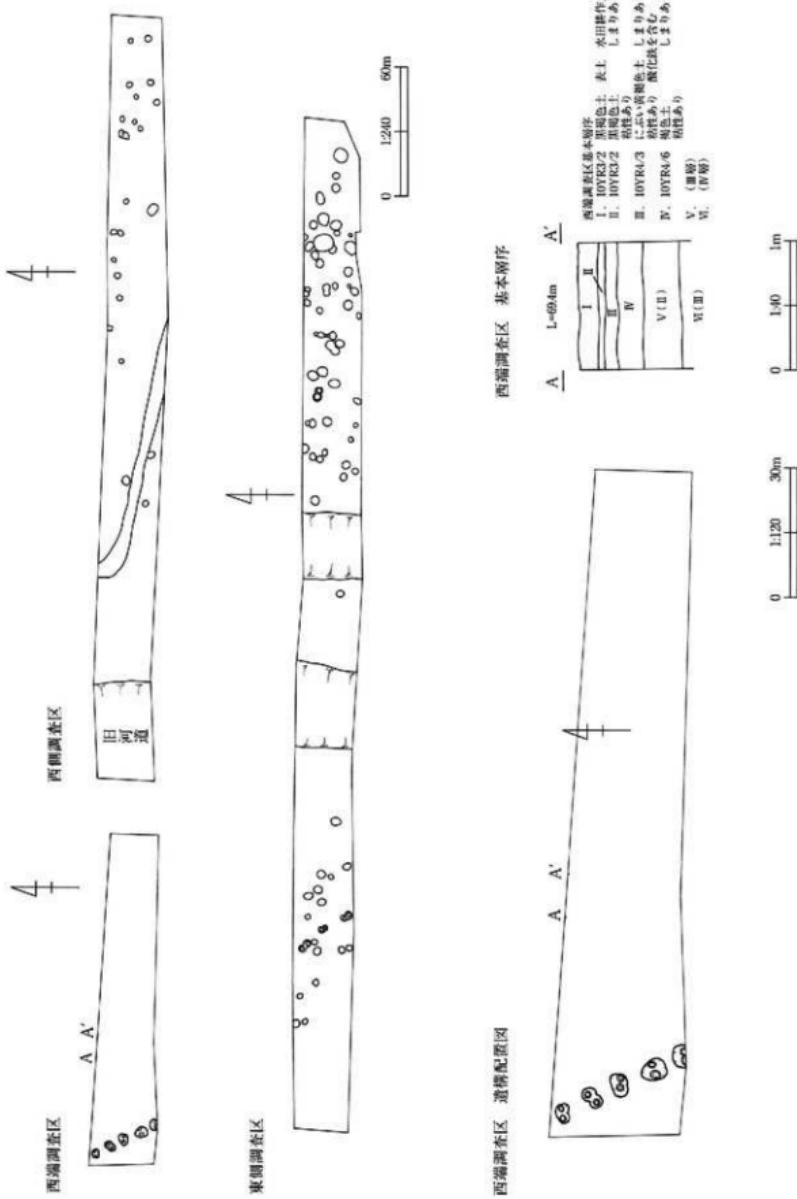
西端調査区は西側調査区から約110m西側に当たる。調査の結果、重複する柱穴列2条（柱穴8基）を確認した。各柱穴は検出面では、60×40cm大の楕円形もしくは、径30cm大の円形がだるま状を呈していた。底部はいずれも直径12cm前後の大きさで地山からの深さが30cm前後あった。一間が約40cmで2列平行に4基南北方向に並んでいた。配列状況から建て替えが行われたものと思われる。遺構に関連する遺物が出土しなかつたため、遺構の時期は不明である。



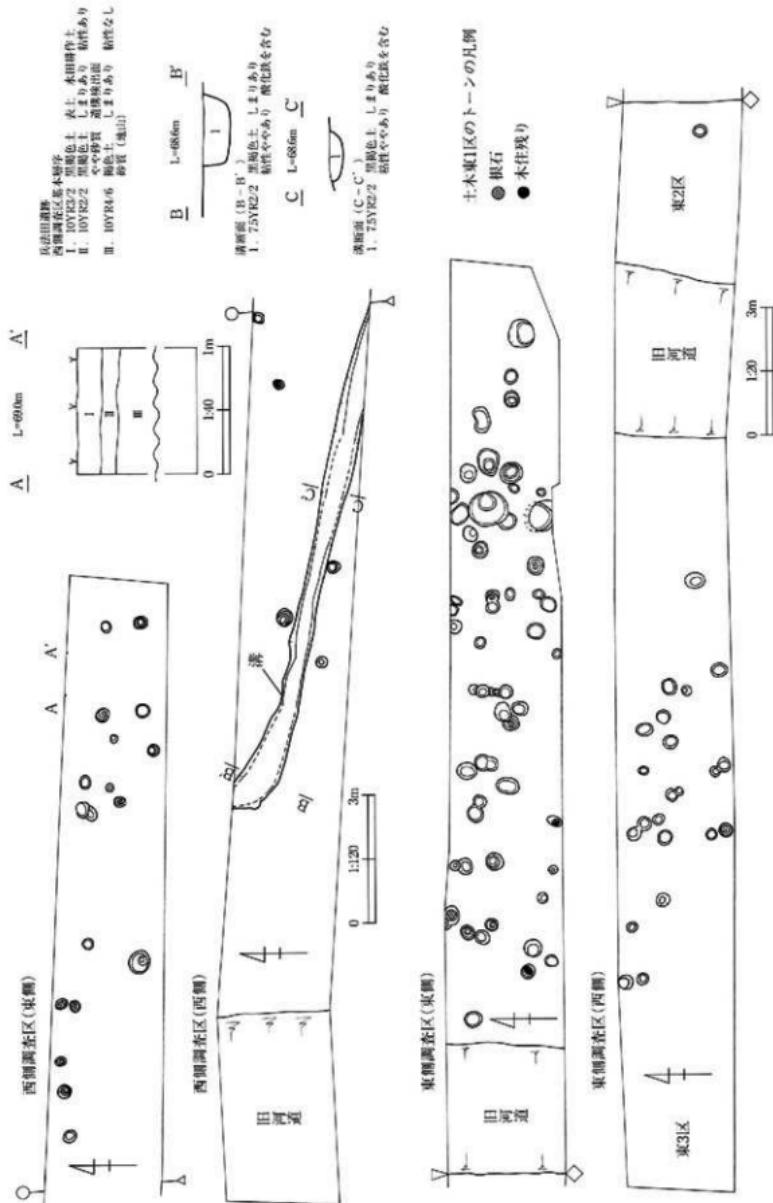
第21図 兵法田遺跡位置図



第22図 兵法田遺跡調査区位置図



第23図 兵法田遺跡調査区全体図 西端調査区造構配置図・基本層序



第24図 兵法田遺跡西側・東側調査区造構配置図

兵法田遺跡柱穴一覧表

調査地区	番号	埋土	形	大きさ	深さ(cm)	特記事項
西側調査区	1	B	略円形	30×28	18	
	2	A	略円形	32×30	21	柱痕あり
	3	B	略円形	42×38	54	柱痕あり
	4	A	略円形	26×24	34	柱痕あり
	5	A	方形	22×22	36	
	6	A	略円形	30×28	42	
	7	A	円形	30×30	25	柱痕あり
	8	B	略円形	24×22	26	柱痕あり
	9	A	楕円形	30×24	24	柱痕あり
	10	A	略円形	28×24	24	柱痕あり
	11	B	略円形	24×22	38	柱痕あり
	12	B	楕円形	54×52	26	
	13	A	楕円形	32×?	24	うらごめ石 切りあい 新
	14	A	楕円形	?×24	20	旧
	15	A	楕円形	30×24	28	
	16	B	円形	20×20	29	
	17	A	楕円形	30×24	23	柱痕あり
	18	A	円形	18×18	24	
	19	A	円形	28×28	26	柱痕あり
	20	B	略円形	32×32	42	柱痕あり
	21	A	円形	30×30	28	うらごめ石
	22	B	楕円形	26×32	27	
	23	B	円形	32×32	48	柱痕あり
東側調査区	24	C	略円形	32×30	20	
	25	C	略円形	26×24	25	
	26	C	略円形	26×22	14	
	27	C	円形	30×30	13	
	28	C	略円形	36×32	27	
	29	C	略円形	24×22	6	
	30	C	略円形	34×32	41	根石
	31	B	円形	30×30	29	
	32	B	円形	30×30	21	
	33	B	円形	26×26	19	
	34	C	円形	24×24	19	
	35	C	円形	16×16	15	
	36	C	略円形	30×26	20	
	37	C	略円形	32×28	25	
	38	C	円形	22×22	10	
	39	C	円形	34×34	26	
	40	C	楕円形	40×30	26	
	41	C	円形	32×32	23	
	42	C	円形	36×36	26	
	43	D	円形	24×24	23	
	44	D	楕円形	36×30	24	
	45	D	楕円形	48×34	30	根石
	46	D	円形	30×30	21	
	47	D	円形	40×40	45	
	48	D	略円形	32×30	20	木根
	49	D	略円形	30×26	31	
	50	D	略円形	40×38	50	
	51	D	略円形	32×30	56	
	52	D	円形	28×28	30	柱痕あり

調査地区	番号	埋土	形	大きさ	深さ(cm)	特記事項
東側 調査区	53	D	梢円形	36×28	45	柱痕あり
	54	D	?	? × ?	7	根石
	55	D	略円形	40 × ?	29	根石
	56	D	円 形	20×20	15	
	57	D	梢円形	40×30	12	根石 切り合い 旧
	58	D	円 形	42×42	38	柱痕あり
	59	D	略円形	24×20	13	
	60	D	略円形	20×18	18	
	61	D	円 形	38×38	18	
	62	D	円 形	18×18	23	
西側 調査区	63	E	梢円形	48×40	24	根石
	64	E	梢円形	50×38	28	根石
	65	E	梢円形	50×38	26	根石
	66	D	梢円形	32×18	9	根石
	67	E	略円形	40×36	39	根石
	68	E	略円形	42×38	32	柱痕あり
	69	D	円 形	38×38	31	根石
	70	D	円 形	20× ?	26	切り合い 旧
	71	D	円 形	30×30	40	切り合い 新
	72	D	略円形	20×18	8	切り合い 旧
	73	D	梢円形	18×12	13	切り合い 新
	74	D	略円形	34×32	22	根石
	75	D	略円形	? × 30	16	
	76	D	略円形	? × ?	12	
	77	D	梢円形	28×20	11	
	78	D	略円形	26×24	15	
	79	C	略円形	32× ?	47	切り合い 新
	80	D	略円形	30× ?	49	柱痕あり 旧
	81	C	略円形	30×24	21	
	82	C	略円形	38×36	45	
	83	E	略円形	24×20	23	
	84	E	円 形	24×24	17	
	85	E	略円形	40×34	28	
	86	E	略円形	40×38	43	柱痕あり
	87	E	略円形	40×36	41	柱痕あり
	88	D	梢円形	40×30	50	
	89	D	梢円形	54×38	89	
	90	D	略円形	36× ?	11	
	91	E	梢円形	92×76	56	柱痕あり、切り合い 新
	92	D	梢円形	42× ?	14	旧
	93	E	略円形	40×36	26	
	94	E	梢円形	62×50	46	柱痕あり
	95	E	略円形	54×50	42	柱痕あり
	96	C	円 形	20×20	11	
	97	E	梢円形	70× ?	62	内側に入っている
	98	E	円 形	20×20	9	
	99	C	梢円形	58×40	28	
	100	C	円 形	38×38	17	
	101	C	円 形	34×34	12	
	102	E	円 形	60×60	35	石あり

A	明黄褐色土
B	明黄褐色土に黒色ブロックを含む
C	黒褐色土に黄褐色ブロックを含む
D	黒褐色土
E	Cに炭化物を多く含む

5 緊急地方道B（雪寒）事業

大道口遺跡（I F 65-2176）

所在地：九戸郡軽米町大字上館地内

事業者：二戸地方振興局土木部 道路河川環境課

調査期日：平成17年2月7～9日、

2月14日、15日

本遺跡は、軽米町役場より東南約8.7kmに位置し、丘陵の東緩斜面に立地する。標高は285m前後を測る。調査区の現況は、水田及び畑地となっている。平成10年度、平成12年度に、道路拡幅に伴い試掘調査を実施している。平成12年度の試掘調査では、縄文土器片が出土し、土坑1基が確認されている。平成16年2月に実施した試掘調査結果において、これまでの遺跡範囲を越えて埋蔵文化財が確認されたため、範囲を拡大した。今回の調査は、道路拡幅に伴い当課が10月に試掘調査を実施し、陥り穴状造構を確認した箇所が対象である。

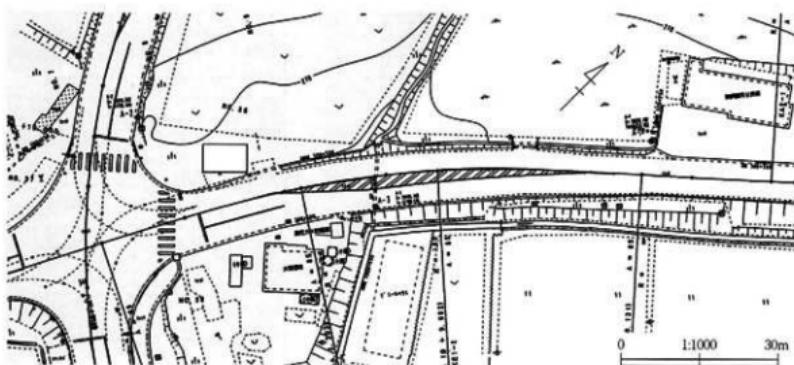
基本層序第II層黒褐色土上面において、試掘で部分的に確認していた陥り穴状造構は、精査の結果溝1条と判明した。溝の規模は、上幅300cm、深さ20cmあり、長さは約5mを越え両端が調査区外に延びていた。遺構に伴う遺物を確認できなかったことから時期は不明である。

基本層序第IV層中からは、羽状縄文土器の破片を数点確認した。中揮浮石層より下層で確認したことから縄文時代早期～前中期のものと思われる。基本層序第V層からは、表裏縄文土器の破片を確認した。基本層序第VI層南部浮石上面で確認されたことから縄文時代早期のものと考えられる。

基本層序第VI層上面において焼土を伴う柱穴3基を確認した。柱穴の北側の調査区の壁面には住居の立ち上がりは確認できなかったが、柱穴付近に土器片を数多く確認したことから、柱穴は住居跡に伴う可能性がある。柱穴の壁に焼け跡がみられたことから、住居は焼失したものと考えられる。

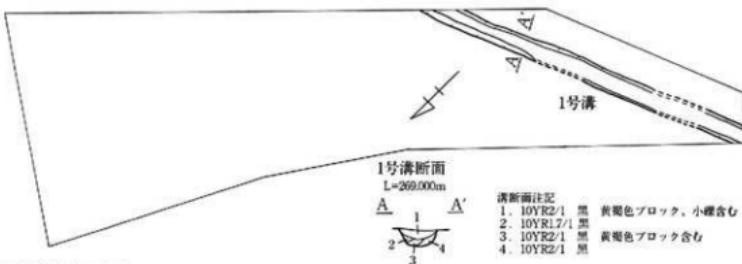


第25図 大道口遺跡位置図

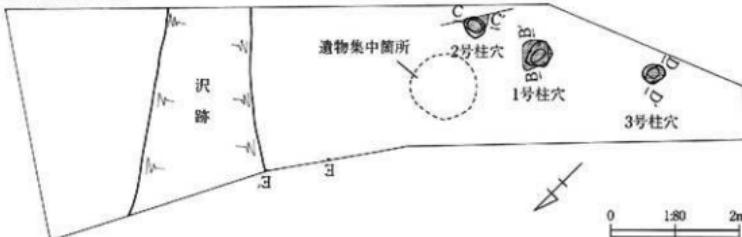


第26図 大道口遺跡調査区位置図

IV層上面(黒褐色上面)

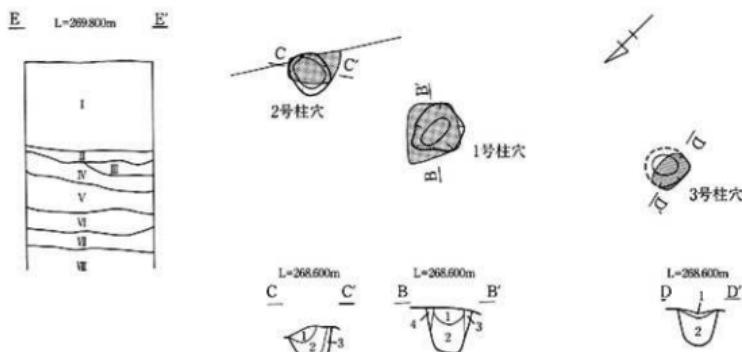


V層上面(南部浮石上面)



基本層序

柱穴群 V層上面



調査区基本層序

- I. 砂土
- II. IOYR1/1 黒
- III. IOYR1/2 黒褐色
- IV. IOYR2/2 黒褐色
- V. IOYR2/2 黒褐色
- VI. IOYR4/6 黄褐色
- VII. IOYR4/3 にふい黄褐色
- VIII. IOYR5/6 黄褐色

中層?混じり(認部分のみ) 2次堆積

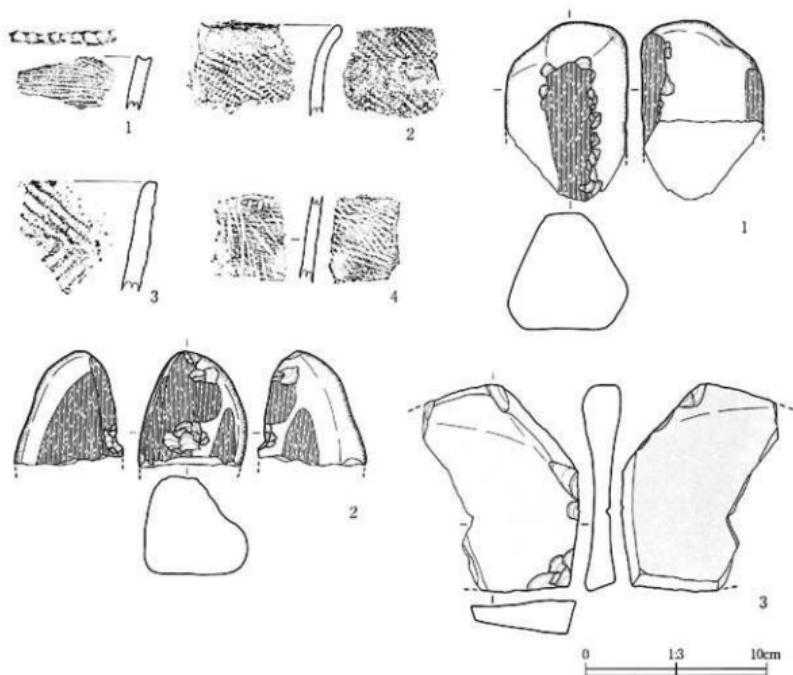
柱穴	1. SYR3/2	暗褐色	地土に黒土混じる
	2. SYR3/6	暗赤褐色	地土
	3. IOYR5/6	黄褐色	南部浮石鉱と黒土混じる
	4. SYR	赤褐色	壁の地土

層れたか発達されたもの

地山

0 1.40 1m

第27図 大道口遺跡構造



大道口遺跡揭露遺物一覧

番号	層位	器種	部位	特徴
1	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文 口唇部キザミ目
2	Ⅲ層	深鉢	口縁	内外面LR 表裏繩文
3	Ⅲ層	深鉢	口縁	LR RL結束第1種 羽状繩文
4	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇部キザミ目 表裏繩文

石器

1	Ⅲ層	磨石		欠損
2	Ⅲ層	鐵磨石		欠損
3	Ⅱ層中	石刀		欠損

第28図 大道口遺跡 出土遺物

6 遠野警察署土淵駐在所庁舎新築工事

蓮池遺跡 (M.F.35-2365)

所在地：遠野市土淵町土淵第7地割字蓮池13-4

事業者：警察本部警務部会計課

調査期日：平成16年9月2日・3日、6日～8日（5日間）

本遺跡はJR釜石線遠野駅の北東約4kmに位置し、猿ヶ石川とその支流に形成された河岸段丘上に立地している。標高はおよそ280m前後を測り、現況は主に宅地及び水田となっている。

今回の調査は、駐在所庁舎建設に係るもので、試掘調査においてⅣ層上面で溝状の陥し穴を検出したことから発掘調査を実施した。

調査の結果、調査区東側駐在所跡地で溝状の陥し穴3

基を検出した。この3基は、北東側で部分的に確認された旧河道に沿って、ほぼ等間隔の並行配置となっており、すべて長軸方位は北東～南西にある。

S.K.T.01陥し穴は、開口部では長軸約3.5m、幅約0.5～1m、底部は長軸両端下部が抉れており、長さ約3.8m、幅約12cm、深さは約1mを測る。埋土は流入黒ボク土と壁崩落の黄褐色土・暗褐色土の自然堆積である。

S.K.T.02陥し穴は、試掘時には土坑と重複するものと思われたが、精査の結果、土坑は陥し穴を切る抜根跡と判明した。開口部では長軸約3.7m、幅約0.5m、底部は長軸北側下部が抉れており、長さ約3.8m、幅約10cm、深さは約0.7mを測る。埋土は流入黒ボク土と壁崩落の黄褐色土・暗褐色土の自然堆積である。

S.K.T.03陥し穴は、開口部では長軸約3.1m、幅約0.8m、底部は長軸南端で低い段差を持つが、壁はほぼ垂直に立ち上がり、長さ約2.7m、幅約12cm、深さは約0.9mを測る。埋土は流入黒ボク土と壁崩落の黄褐色土・暗褐色土の自然堆積である。

調査では遺物が出土しなかったため、遺構の時期特定は適わないが、形態と中揮火山灰上面で検出した状況から縄文時代前期後半以降と考えられる。また、本調査区東側の畑地では土師器・須恵器などが表採されることから、遺跡全体では古代の集落と縄文時代の狩猟場の複合遺跡と考えられる。

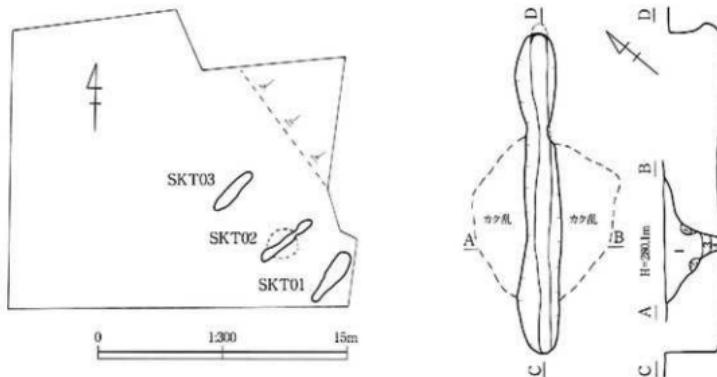


第29図 蓮池遺跡位置図

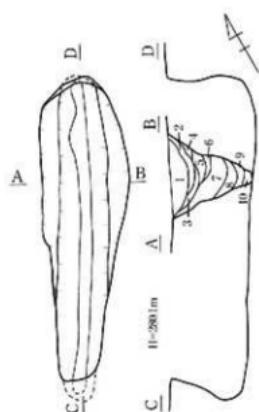


第30図 蓼池遺跡調査区位置図

SKT02

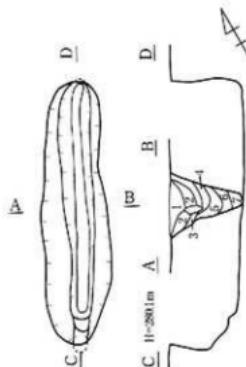


SKT01



- SKT02隣穴
- 1.I0VR2-1 黒色 しまり粘性あり
黄褐色土粒混量
- 2.I0VR5-4 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
黄褐色土ブロックと黒ボク土の混じり
- 3.I0VR2-2 黒褐色 しまり粘性あり
黄褐色土粒少量
- 4.I0YR4-3 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
黒褐色土

SKT03



SKT01隣穴

- 1.I0YR2-1 黒色 しまり粘性あり
- 2.I0YR2-3 黒褐色 しまり粘性あり
- 3.I0YR2-5 黒色 しまり粘性あり
- 4.I0YR2-6 黒褐色 しまり粘性あり
望崩落土
- 5.I0YR2-7 黑褐色 しまり粘性あり
- 6.I0YR2-2 黑褐色 しまり粘性あり
- 7.I0YR5-3 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
黄褐色土ブロック多量
- 8.I0YR4-1 梅灰色 しまり粘性あり
望崩落土
- 9.I0YR4-1 梅灰色 しまり粘性あり
黄褐色土粒少量
- 10.I0YR3-1 黑褐色 しまり粘性あり

0 1.60 3m

- SKT02隣穴
- 1.I0VR2-1 黒色 しまり粘性あり
- 2.I0VR2-3 黑褐色 しまり粘性あり
- 3.I0VR5-4 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
望崩落土
- 4.I0YR2-2 黑褐色 しまり粘性あり
黄褐色土粒少量
- 5.I0YR5-3 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
黄褐色土ブロック多量
- 6.I0YR4-3 にじみ黄褐色 しまり粘性あり
望崩落土
- 7.I0YR3-3 暗褐色 しまり粘性あり
黄褐色土ブロックと黒ボク土の混じり

第31図 蓮池遺跡遺構図

7 穗貫田排水樁管改築工事

駒板遺跡 (ME 36-2371)

所在地：花巻市東十二丁目字穂貫田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年2月9日～2月13日。

4月12日～4月22日

本遺跡は北上川左岸に形成された自然堤防上に立地し、標高はおよそ67m前後である。今回の調査は、排水樋管路敷設に係るもので、工程、調査日程の都合から平成16年2月に第一次発掘調査を実施し、平成17年4月に第二次発掘調査の実施となった。

発掘調査の結果、縄文時代及び古代の遺跡であること

が明らかになった。発掘調査区は第一次調査区を西区、第二次調査区を東区と呼称した。

西区では、土坑1基と柱穴13基を確認した。第Ⅲ層上面で土坑1が確認された。長軸0.9m・短軸0.7mの楕円形を呈している。埋土は0.2m程であったが、遺物は出土しなかった。第Ⅳ層上面で柱穴が13基確認された。風倒木痕を取り囲むように配置されている。直径0.3~0.4mのものが多い。no.6ピットのみ規模が大きく、長軸0.5m・短軸0.4mの楕円形であった。第Ⅲ層は遺物包含層で、縄文時代中後期から後期の土器、石器が比較的多く出土している。

東区では、Ⅲ層上面において風倒木痕5ヶ所、遺物集中区2カ所と東端部で土坑1基、柱穴17基を検出した。1号土坑は当初は焼土遺構と考えて精査に着手したが、精査の結果、土坑に焼土が廃棄されたものと判明した。土坑の平面形・規模は、北側半分が調査区外に延びるため、全体形は不明であるが、確認部分では長軸約22mほどの略方形ないし略楕円形、底面は径約90cmほどの円形を呈すると思われる。深さは約90cmを測り、壁は西側ではやや鈍角的に、東側では中位にステップ状の段を持って緩やかに立ち上がる。底面には径約50cm、深さ約20cmの柱穴状ピットが1基ある。遺物は検出土面でロクロ使用の内黒土器師坏破片が1点のみ出土した。性格は不明であるが、遺物から古代に属する可能性が高い。

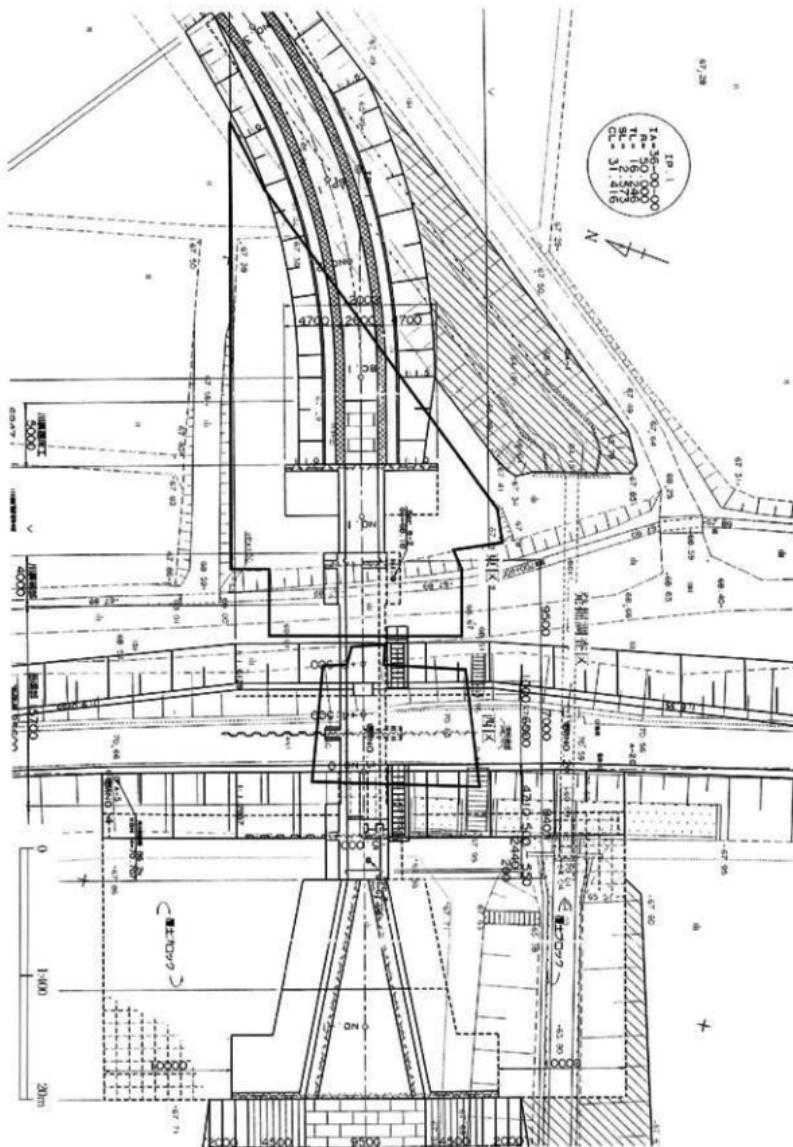
遺物集中区は2カ所あり、西側のものは長軸7.5m、短軸6.5mほどの楕円形で、風倒木痕5カ所と重複する。東側のものは長軸3m、短軸2.5mで楕円形を呈する。この2カ所からは縄文時代の土器がまとめて出土した。

IV層上面では調査区中央部で柱穴17基が検出され、いずれも径約30cm前後、深さは10cm以下と浅いものであった。配置にやまとまりがあるものの、建物跡等の想定は難しかった。埋土はⅢ層起源の自然流入した黒褐色土で、遺物も出土せず時代の特定は難しいが、規模と埋土等の特徴から本来Ⅲ層中からの掘り込みと考えられ、古代もしくは繩文時代に属すると思われる。

また前年度の、は場整備のための試掘において縄文時代の遺物を含む住居状の遺構2基と考えられた部分は、精査の結果、自然の窪地に遺物が廃棄されたものであることが判明した。縄文時代前期後葉から中期初頭の土器が多く、わずかに後期初頭のものも含まれていた。

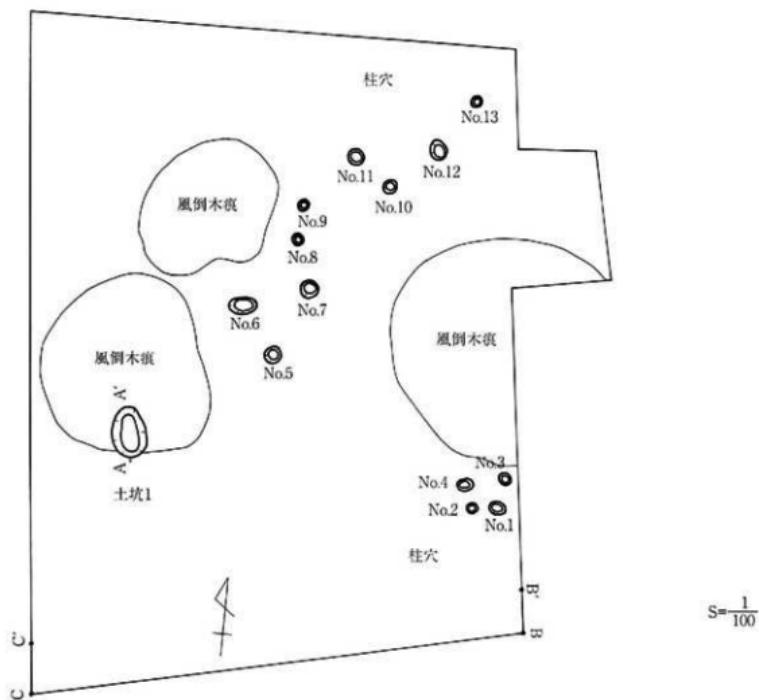


第32図 駒板遺跡位置図

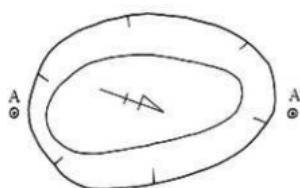


第33図 駒板遺跡調査区位置図

西区 調査区遺構配置図

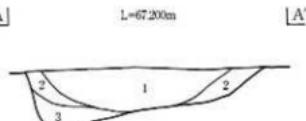


土坑1 平面図



$S = \frac{1}{20}$

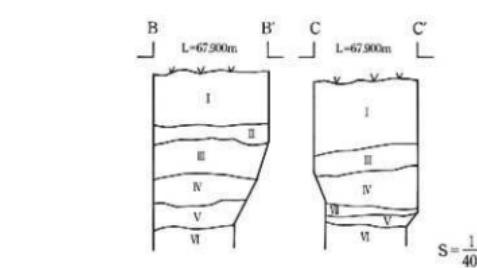
土坑1 断面図



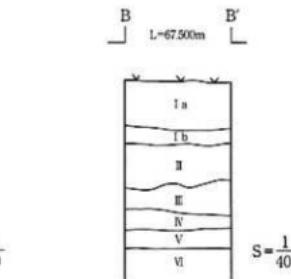
土坑1
1.75VR2.2 黒褐色シルト
2.25VR2.1 黒色シルト
3.75VR4.4 細色シルト
7.5YR3/1黒褐色シルトとの互層
粘性ややあり しまりあり
粘性ややあり しまりあり

第34図 駒板遺跡発掘調査区（西区）

西区基本土層



東区基本土層



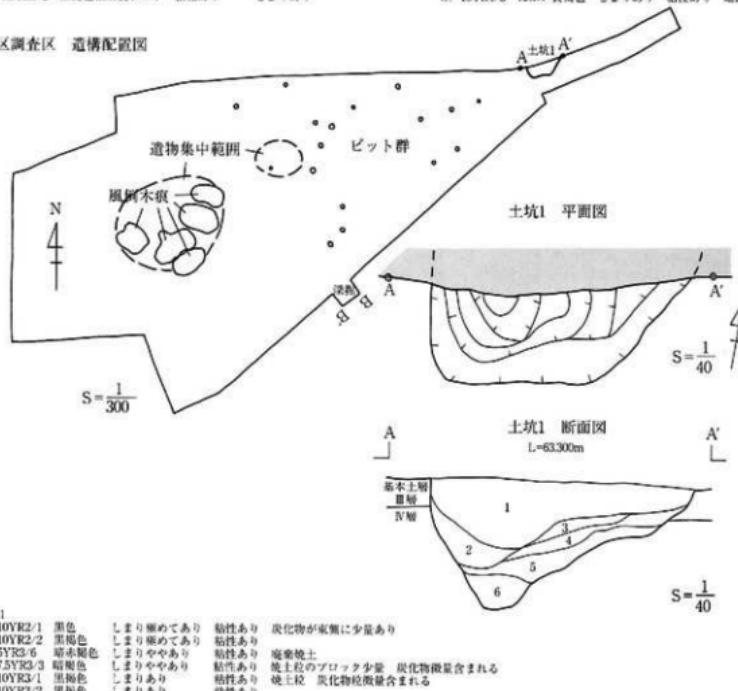
西区基本層序

I.	盛土		
II.	10YR2/2 黒褐色シルト	粘性やあり	しまりあり
III.	7.5YR3/1 黒色シルト	粘性やあり	しまりあり
IV.	上部を含む 横断面I 7.5YR3/1 黒かっしょく	粘性やあり	しまりあり
V.	7.5YR2/4 喀斯特粘土質シルト	粘性あり	しまりあり
VI.	10YR4/4 固色シルト	粘性あり	しまりやあり
VII.	7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト	粘性あり	しまりあり

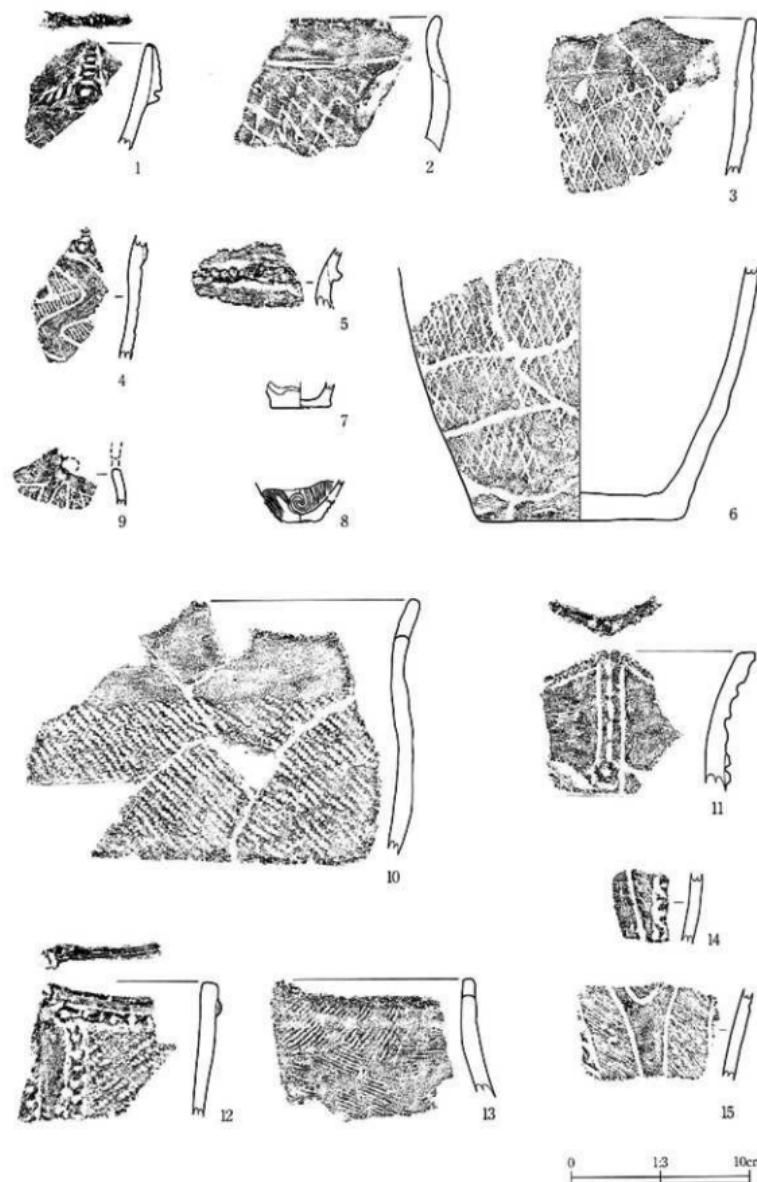
東区基本層序

Ia.	10YR2/2 黒褐色	しまりあり	小シキ多 ケイ時盛土
Ib.	25YR4/2 喀灰質	しまりあり	粘性あり コウサク上 下位10cm喀化鉄床土
II.	10YR3/3 黒褐色	しまりあり	砂質 下位遺物少
III.	10YR2/1 黒色	しまりやあり	粘性あり 道傍斜出面
IV.	10YR2/1 黑褐色	しまりあり	粘性あり 横断面
V.	10YR2/3 黑褐色	しまりあり	粘性あり 地山
VI.	10YR4/4 にほい黄褐色	しまりあり	粘性あり

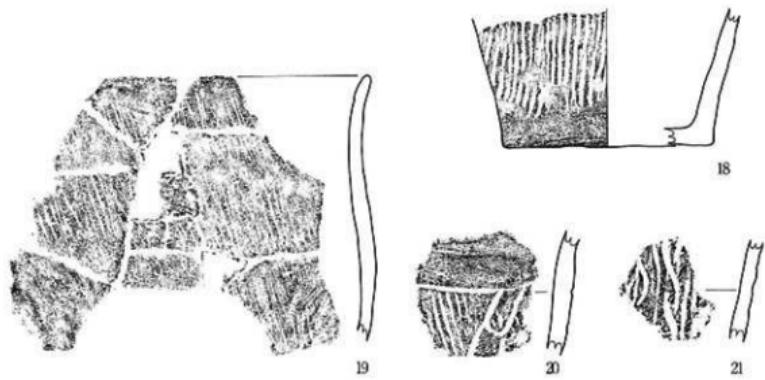
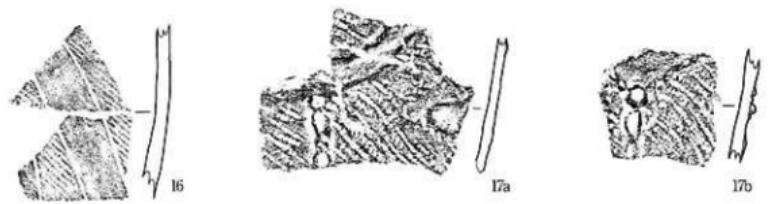
東区調査区 造構配置図



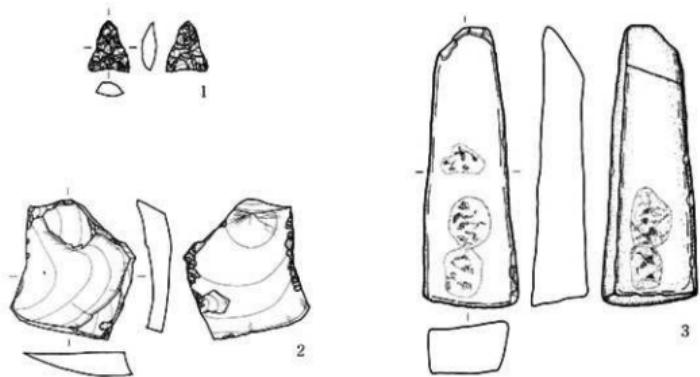
第35図 胸板遺跡発掘調査区（西区、東区）



第36図 駒板遺跡 出土遺物(1)



0 13 10cm



石器1-2 0 12 5cm

石器3 0 13 10cm

第37図 胸板遺跡 出土遺物 (2)

8 国営いさわ南部農地整備事業

一の台遺跡 (N E 34-1021)

所在地：胆沢郡胆沢町小山字上大畑平地内

事業者：農林水産省東北農政局

いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成16年7月8日～13日

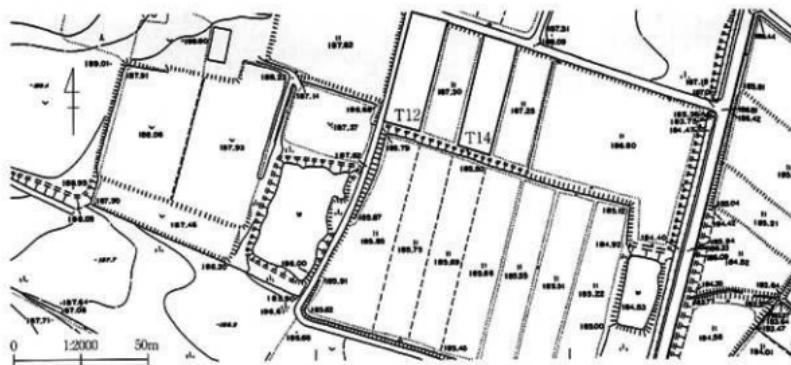
本遺跡はJR東北本線陸中折居駅の西方約11kmに位置し、胆沢扇状地中位段丘面に立地する。標高は約190m前後を測り、現況は主に水田と畠地となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、平成15年度の(財)岩手県文化振興事業団裡蔵文化財センターの試掘調査で陥り穴とみられる遺構が7基確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり切り土で削平されることになった。

T12（1基）、T14（1基）の計2基について記録保存することになった。T9から検出した土坑5基については、遺構への影響のない工事であるため調査は行わないこととした。

調査の結果、T12において新たに焼土を検出した。焼土は黒褐色土の上から検出したことから、ベルトを十字に設定して精査を行った。1層は炭化物を微量に含む黒褐色土であった。黄褐色土をブロック状に含んでおり層厚は5cm～13cmであった。2層は、暗褐色土の漸移層で層厚は3cm～14cmであった。いずれの層からも遺物は検出されなかったことから包含層の可能性は低い。焼土の規模は長軸145cmで広くひろがっていた。焼土を含む層の深さは2cm～7cmで、その下には最大で5cmほどの炭化物を含んでいた。焼土の層厚は薄く、長軸も1mを越えて広がっていることから、カマド等に伴う焼土ではないと考えられる。遺物が検出されなかったこととも併せて、住居跡の可能性は低い。T12、T14で検出された土坑は根痕と風倒木痕であった。

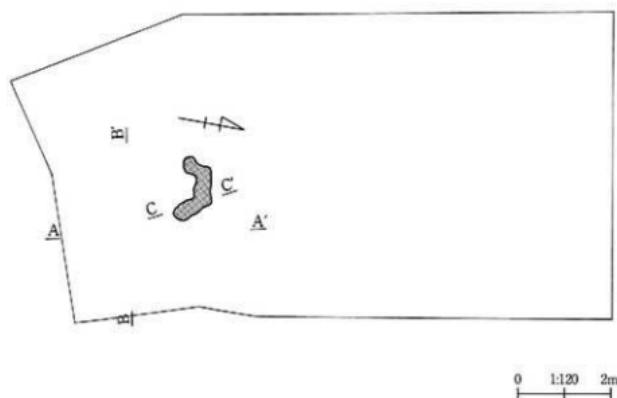


第38図 一の台遺跡位置図



第39図 一の台遺跡調査区位置図

一の台遺跡 T12 遺構配置図 焼土



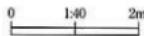
焼土附近土層断面（A - A'）
 1. 10VR2-3 黒褐色土 しまりあり 灰化物を微量に含む
 1a. 10YR8-5 黄褐色土 ブロック状
 2. 10YR3-3 暗褐色土 滲移層



焼土附近土層断面（B - B'）
 1. 10VR2-3 黒褐色土 しまりあり 灰化物を微量に含む
 1a. 10YR8-5 黄褐色土 ブロック状
 2. 10YR3-3 暗褐色土 滲移層



焼土断面（C - C'）
 1. 10VR4-2 灰黄褐色土 しまりあり 焼土含む
 2. 10YR2-3 黑褐色土 しまりあり 5cm大の炭を含む
 3. 10YR3-3 暗褐色土 しまりあり 滲移層
 4. 10YR5-8 黄褐色土 しまりあり 黑褐色土をブロック状に含む



第40図 一の台遺跡 遺構

9 国営いさわ南部農地整備事業

一の台Ⅲ遺跡 (N E34-1063)

所在地：胆沢郡胆沢町小山字上中沢地内

事業者：農林水産省東北農政局

いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成16年8月2日～6日

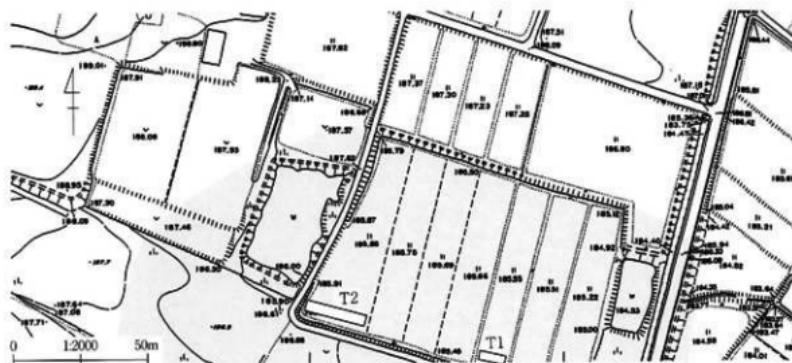
(延べ5日間)

本遺跡はJR東北本線陸中折居駅の西方約10.6kmに位置し、胆沢扇状地中位段丘面に立地する。標高は約185m前後を測り、現況は主に水田と畠地となっている。

今回の調査はほ場整備事業に伴うものであり、平成15年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが試掘調査を行った結果、陥し穴とみられる遺構を2基検出した。ほ場整備事業実施にあたり排水路の埋設により削平されることになったT1(1基)、T2(1基)の計2基について記録保存を行った。調査の結果、T2の1号陥し穴状造構の規模は長軸350cm・短軸90cmで、深さは48cmであった。埋土は、黒色土が中心で、砂や明黄褐色土をブロック状に含んでいた。遺構の精査では注意深く掘り下げたが、埋土が比較的浅く地山の明黄褐色土にすぐ行き当たった。西側の壁が切り立っていることから、陥し穴の上部が前回のは整備により削平された可能性も考えられる。T2の所在する水田は、遺構周辺は周囲で最も標高が低い箇所であり、緩やかな北斜面の傾斜で凹凸があることから、窪みに溜まった黒色土の集まりであると判断した。今回の調査で遺物は検出されなかった

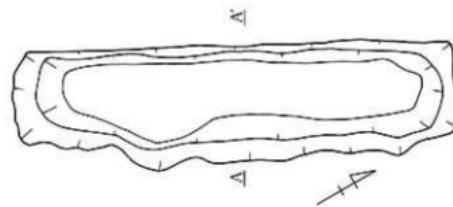
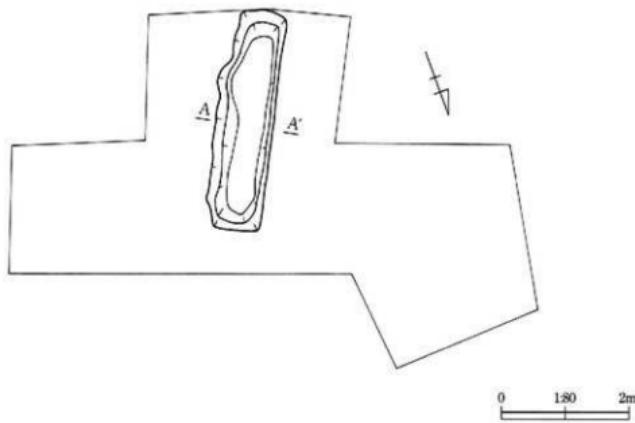


第41図 一の台III遺跡位置図



第42図 一の台III遺跡調査区位置図

一の台Ⅲ遺跡 T2 遺構配置図 1号竪穴状遺構



A L=185.700m A'



1号竪穴
1. 7SYR17/1 黒色土 しまりややあり シルト
2. 10YR2/1 黒色土 しまりあり シルトを少々含む
3. 10YR2/1 黒色土 しまりややなし シルト

0 1.40 1m

第43図 一の台Ⅲ遺跡 遺構

10 国営いさわ南部農地整備事業

一の台IV遺跡 (N E 33-1339)

所在地：胆沢郡胆沢町小山字上一の地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成16年7月8日～13日

(延べ6日間)

本遺跡はJR東北本線陸中折居駅の西方約11kmに位置し、胆沢扇状地中位段丘面に立地する。標高は約190m前後を測り、現況は主に水田と牧草地である。

今回の調査は場整備事業に伴うものであり、平成15年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、試掘調査を行った結果、陥し穴とみられる遺構が3基確認している。

今回さらに遺構検出を進め、多数の土坑・柱穴が確認されたことから、範囲を決めて表土を剥いたところ土坑13基、柱穴7基、竪穴住居跡1棟が新たに確認された。土坑は径100cmほどのものが2基含まれており、陥し穴の可能性がある。竪穴住居跡は規模が長軸404cm・短軸395cmの方形であり焼土が2ヵ所から検出されている。さらに住居跡の西南方向には径45cmの煙出しと思われる土坑が検出されている。住居跡の東側及び調査区の南東部からは削平されたと推測される箇所から焼土が検出されている。

1号陥し穴状遺構の規模は、長軸177cm・短軸110cmの梢円形で、深さは56cmで埋土は主に黒色土のシルトであった。埋土の下層は褐色土中の所々に黒色土を粒状に含む層であったが、予想外に底面までの埋土浅かった。

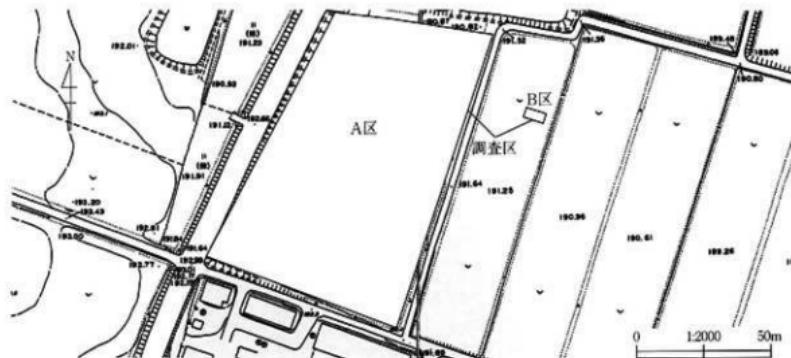
2号陥し穴状遺構の規模は、長軸234cm・短軸150cmで深さは94cmであった。埋土は主に黒色土シルトと褐色土に黒色土を粒状に含むもので1号陥し穴状遺構と同様であった。

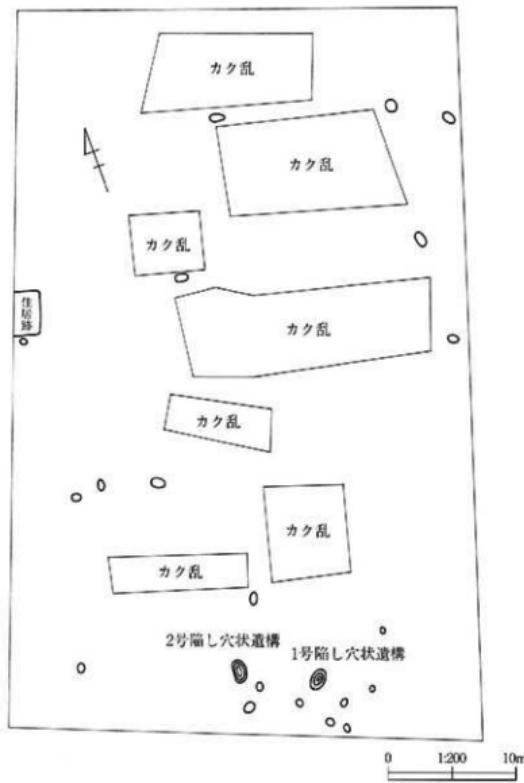
3号陥し穴状遺構の規模は長軸336cm・短軸108cm、深さは104cmであった。埋土は黒色土を中心にしており、下部では地山と同じ褐色土中に黒色土をブロック状又は粒状に含んでいた。北東部分の広がりは崩れたことによるものと推測される。どの陥し穴からも遺物は出土しなかった。

今回新たに、多数の土坑・柱穴及び住居跡が確認されたことから、周辺一帯は古代の集落の可能性も考えられる。

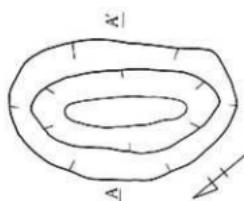


第44図 一の台IV遺跡位置図





1号陥し穴状遺構



A L=191.600m A



1号病人

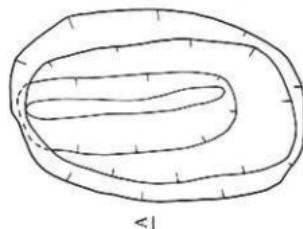
- | | | | |
|-------------|------|---------|------------|
| 1. 10YR2/2 | 黑褐色土 | しまりあり | シルト質 |
| 2a. 10YR2/1 | 黑色土 | しまりややあり | 砂を微量含む |
| 2b. 10YR2/1 | 褐色土 | しまりあり | 黄褐色土を微量に含む |
| 2c. 10YR2/1 | 黑色土 | しまりあり | 黄褐色土を微量に含む |
| 3. 10YR4/4 | 黑色土 | しまりあり | 黒褐色土をまだ含む |
| 4. 10YR2/3 | 黑褐色土 | しまりあり | 黄褐色土を含む |
| 5. 10YR5/6 | 黑褐色土 | しまりあり | 褐色土を含む |

$$0 \quad 140 \quad 2m$$

第46図 一の台IV遺跡A区西側遺構配置図 遺構(1)

2号陥し穴状遺構

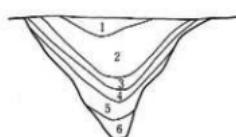
A'



A

L=192.00m

A'

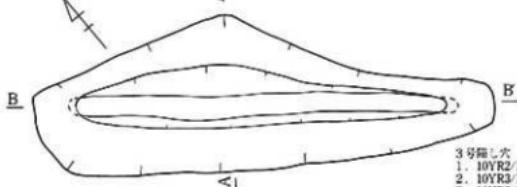


2号陥し穴

- | | | |
|-----------------|-------|------------|
| 1. 10YR1/2 黒色土 | しまりあり | シルト |
| 2. 10YR1/7 黒褐色土 | しまりあり | シルト |
| 3. 10YR3/1 黒褐色土 | しまりあり | 黄褐色土を微量に含む |
| 4. 10YR1/2 黒褐色土 | しまりあり | 黄褐色土を微量に含む |
| 5. 10YR3/1 黑褐色土 | しまりあり | 黒色土を含む |
| 6. 10YR5/6 黄褐色土 | しまりあり | |

3号陥し穴状遺構

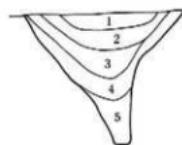
A'



A

L=191.10m

A'



3号陥し穴

- | | | |
|-----------------|---------|-----------|
| 1. 10YR2/1 黒色土 | しまりあり | シルト |
| 2. 10YR3/1 黑褐色土 | しまりややあ | シルト |
| 3. 10YR3/1 黑褐色土 | しまりややなし | シルト |
| 4. 10YR5/8 黄褐色土 | しまりあり | 黒色土を微量に含む |
| 5. 10YR5/6 黄褐色土 | しまりあり | 褐色に黒を含む |

0 1:40 1m



1



2



3

0 1:3 10cm

一の台IV遺跡遺物一覧

掲載番号	遺物名・出土地点	層位	器種	部位	特徴
1	住居	1層 黒(検出面)	甕	体	外面 ハラナデ 内面ヘラミガキ
2	住居	1層 黒(検出面)	甕	体	外面ハケメ ケズリ 内面ハラナデ
3	住居	1層 黒(検出面)	高台付甕	高台	外面ナデ 内面ヘラナデ

第47図 一の台IV遺跡遺構 出土遺物

11 国営いさわ南部農地整備事業

二の沢遺跡 (N E 45 - 1033)

所在地：胆沢郡胆沢町小山字新田地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事業所

調査期日：平成16年8月2日～8月6日

(延べ5日間)

調査地はJR東北本線前沢駅の北西約6kmに位置し、標高は125mから130m前後を測る。白鳥川支流の胆沢扇状地の中位段丘面に立地しており、現況は主に水田となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、平成15年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、試掘調査を行った結果、土抗類が13基確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり切土で削平されることになった、T6、T16、T21、T25、T27、T28、T38、T49の8基について調査を行った。うち、T27、T28とT38の1基については遺構として確認ができなかった。T10、T33については、盛土もしくは、埋蔵文化財に影響のない削平のため調査は行わないこととした。

発掘調査の結果、確認された遺構は土坑4基であった。2号土坑の規模は、長軸130cm・短軸47cmで深さは22cmであった。埋土は黒褐色土と黒褐色土を粒状に含んだ褐色土が中心であった。

3号土坑の規模は、長軸164cm・短軸55cmで深さは36cmであった。埋土は黒褐色土と褐色土に黒褐色土を粒状に含んでいるものであった。

4号土坑の規模は長軸167cm・短軸106cmで深さは34cmであった。埋土は黒褐色土が中心で褐色土をブロック状に含むものと、褐色土に黒褐色土を粒状に含んでいるものであった。

6号土坑の規模は長軸152cm・短軸92cmで、深さは40cmであった。形状から時期の違う2つの土抗が重複しているものと考えられる。埋土は黒褐色に暗黒褐色土をブロック状に含むものと、褐色土に黒褐色土を粒状に含むものが中心であった。

どの土坑からも遺物は検出されなかったことから、調査地については集落の周辺部であった可能性が高い。遺物はなく遺構の用途等は不明である。試掘調査において検出された1号、5号、7号土坑については、風倒木痕であると判断した。

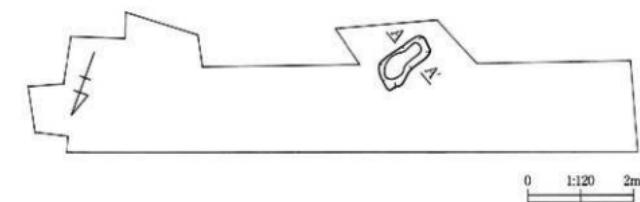


第48図 二の沢遺跡位置図

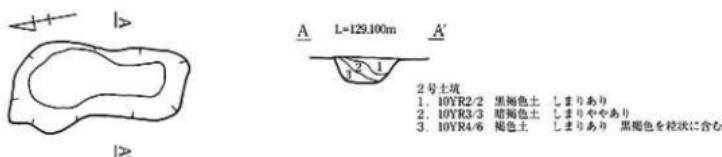


第49図 二の沢遺跡調査区位置図

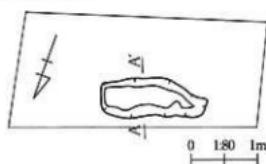
2号土坑配置図



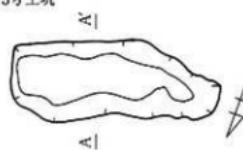
2号土坑



3号土坑配置図

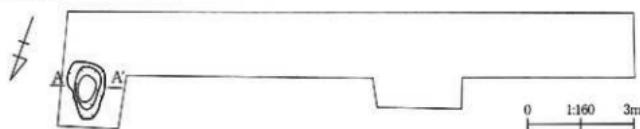


3号土坑

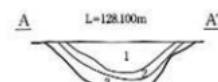
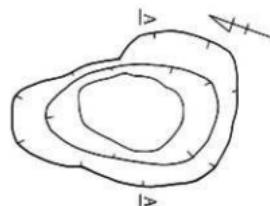


3号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまりあり 褐色土を粒状に含む
2. 10YR4/6 褐色土 しまりあり 黒褐色土を含む
3. 10YR4/6 褐色土

4号土坑配置図



4号土坑



4号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまりあり 褐色土を粒状に含む
2. 10YR3/3 増褐色土 しまりあり 褐色土をブロック状に含む
3. 10YR4/6 褐色土 しまりあり 黒褐色土を粒状に含む

0 1:40 1m

第50図 二の沢遺跡 土坑 (1)

6号土坑配置図



6号土坑



6号(杉の木)土坑

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまりあり、褐色土を板状に含む
2. 10Y3/3-3 暗褐色土 しまりややあり、ブロック状に1に含まれる
3. 10YR4/6 褐色土 しまりあり 黑褐色を板状に含む

0 1:40 1m

第51図 二の沢遺跡 土坑 (2)

12 国営いさわ南部農地整備事業

屋敷遺跡 (N E 44-1228)

所在地：胆沢郡胆沢町字屋敷地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成16年8月5日～6日、9日～11日、

18日～20日（試掘調査）

平成16年8月23日～25日、30日、9月1日～

3日、6日～7日（発掘調査） 計17日

本遺跡は、JR東北本線前沢駅の北西約7.2kmに位置し、胆沢扇状地の中位段丘面である上野原段丘上に立地している。遺跡の標高は、143～149m前後を測り、現況は主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、平成15年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる試掘調査において確認された遺構と、昨年度調査未了区となっていた箇所で試掘調査を実施した結果、排水路予定箇所、切土予定の田面及び新設予定の砂利敷農道予定箇所で検出された遺構が対象である。また、新たに設計変更が生じたことにより、初期の設計が盛土予定の田面であったために、試掘調査がなされておらず、切土対象となった田面にも試掘トレンチを設定し、遺構の有無を調査した。

ただし、盛土予定の田面であっても、表土直下20cm以内の深さで検出された遺構も発掘調査を行った。

精査の結果、陥し穴状遺構5基、土坑2基、溝跡1条が検出された。

陥し穴状遺構5基のうち、溝状のプランを示すものが4基、楕円形を示すものが1基であった。

2号陥し穴状遺構については、形状は小判型を呈し、深さは約121cmであった。

4号陥し穴状遺構については、遺構構築時に、現在の表土から約50cmほど下で、径40～50cm大の礫を含む層に達したため、掘り進むことを中途で放棄したことを伺わせる遺構であった。

その他の陥し穴状遺構については、水田造成による地形改変により、遺構の上部部分はすでに削平されており、遺構の残存状況はあまり良好ではなかった。

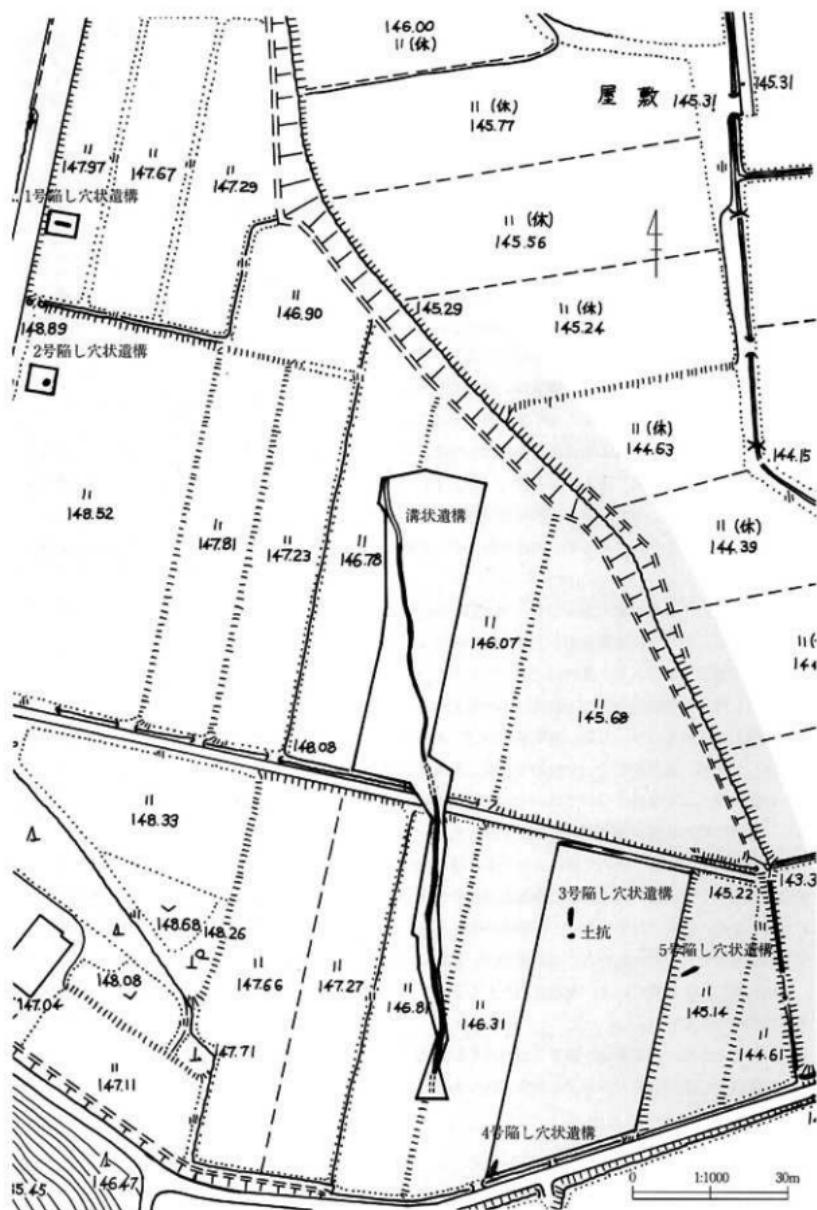
今回の試掘調査により改めて検出された溝跡は、幅約40～50cm、深さ約20cm、南北方向に約60mの長さで検出された。今回検出された溝跡の南端部及び中央部分は、水田造成によるものと思われる地形改変を受けており、すでに削平されていた。この溝跡の埋土から、いびつな球形をした近世のものと思われる鉄砲の玉が1点出土した。のことから、この溝跡は、近世には構築されていたことが明らかとなった。

土坑、陥し穴状遺構からは、遺物は出土しなかったが、表土中からではあるが、縄文土器片2点、フレイク3点が出土している。

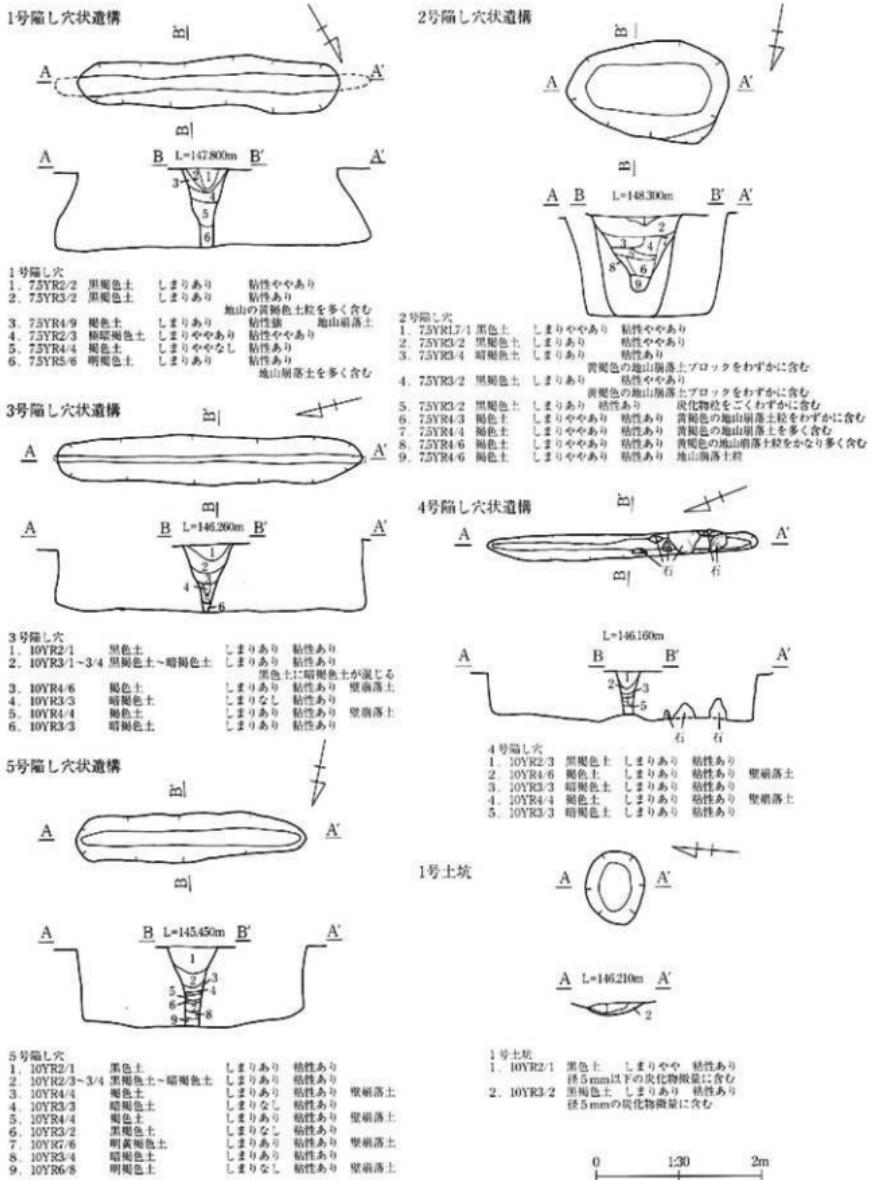
以上のことから、本遺跡は、過去における水田造成による地形改変により削平を受けているものの、縄文時代の遺構と近世の遺構が所在する複合遺跡であることがわかった。



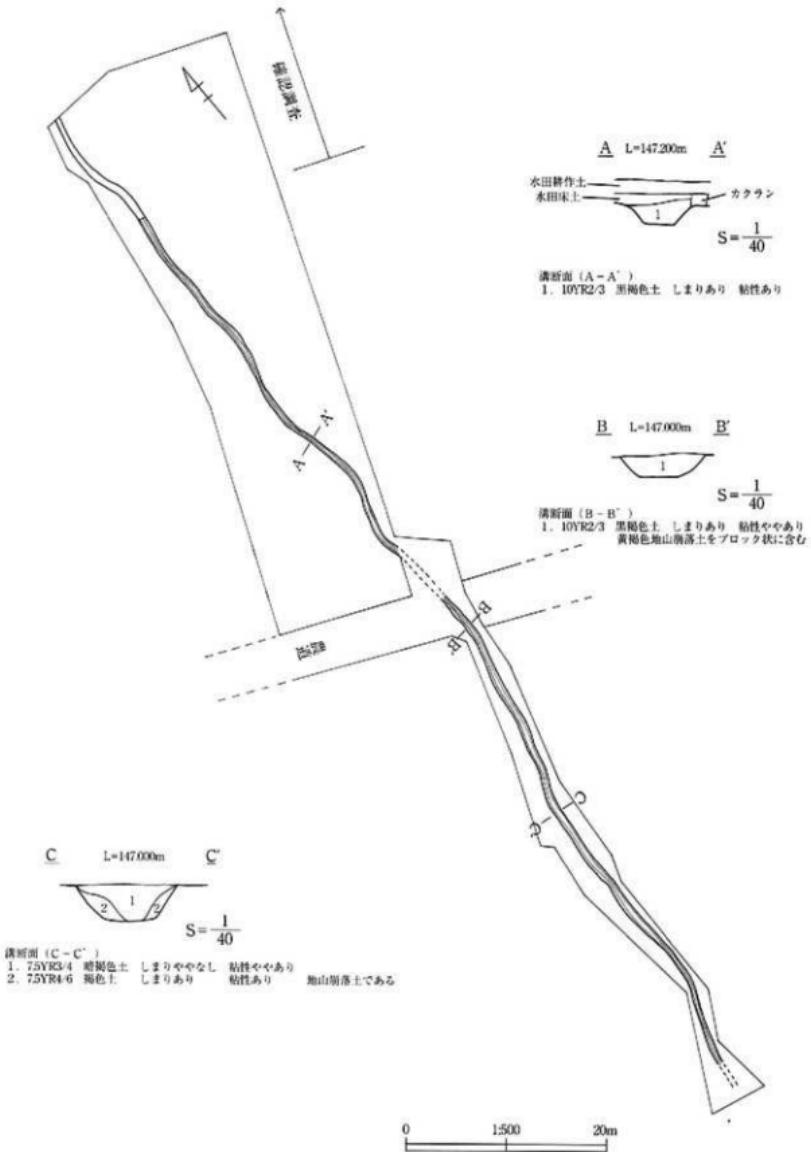
第52図 屋敷遺跡位置図



第53図 屋敷遺跡調査区位置図・遺構配置図



第54図 屋敷遺跡陥し穴状遺構・土坑



第55図 屋敷遺跡溝状造構

13 ほ場整備事業 戸塚地区

大曲遺跡 (L E 97-2166)

所在地：群馬郡石鳥谷町戸塚地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室長

調査期間：平成17年3月14日～16日

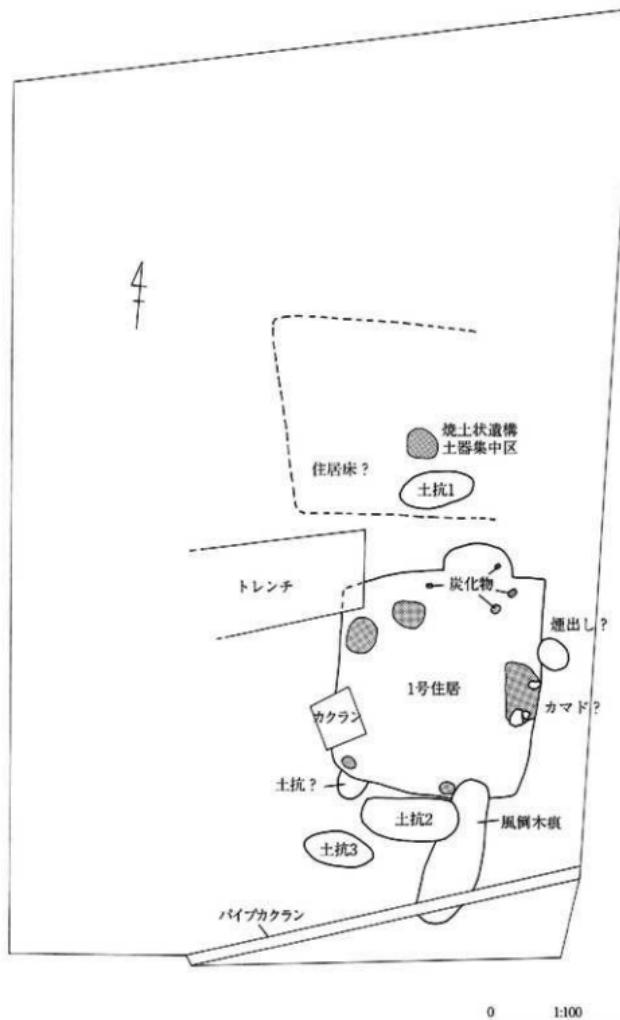
本遺跡は石鳥谷町役場の南東約3.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は宅地と水田、畑地となっており、標高は92m前後を測る。12月に当課が行ったほ場整備に係る試掘調査では、竪穴状遺構1基、陥し穴状土坑2基、土坑1基、溝跡1条を検出し、須恵器片1片を確認している。今回の発掘調査対象箇所は前回の試掘調査で竪穴状遺構を確認した箇所で、ほ場整備に伴い切土となる箇所である。昭和30年代のほ場整備の際、周囲の残土を集めた場所で、現况は高さ約2.5m、径15mの円形状の小山となっている。調査の結果、焼失住居1棟、焼土状遺構1基、土坑3基を確認した。焼失住居は、調査区の南側で確認した。前回の試掘調査で確認した竪穴状遺構はこの焼失住居の西端に当たる。大きさは4m×4mの方形を呈し、埋土には焼土、炭化物を多量に含んでいた。20cm大の炭化材を確認できる箇所もあった。住居の北側には長軸150cm短軸50cmの梢円形の張出があり、重複土坑の可能性がある。住居の東側では20、30cm大の石を3個確認した。石の下部に焼土を確認でき、周辺から土師器片が多く出土していることからカマドの可能性もある。調査区中央では一辺が4mほどの方形の範囲で暗褐色土の混じる状態が痕跡的に認められ(基本層序第Ⅲ層)、この南東部では直径60cmの円形をした焼土状遺構を確認した。トレンチを入れ確認したところ、壁は立たなかつたが、この焼土の付近で須恵器片、土師器片が出土した。盛土直下で確認されたことから、前回のは場整備の際に削平され、住居の張り床とカマド部分だけが残存したと思われる。今回遺構が確認された場所は、周囲の田面より若干高い。前回のは場整備の際、残土置き場として利用されたため、遺構検出面が残ったものと考えられる。残土の中に焼土片や繩文土器片、土師器片を確認できたことから、この周辺は昔から集落が営まれていたことが考えられる。



第56図 大曲遺跡位置図



第57図 大曲遺跡調査区位置図



大曲道路掲載遺物一覧				
番号	遺構名・出土地点	器種	部位	特徴
1	T1表土	土師器	口	ヘラナゲ

第58図 大曲遺跡遺構配置図・出土遺物

金打遺跡揭露遺物一覧

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	器種	部位	特徴
1	4号土坑	埋土上位	深鉢	突起	有孔
2	A区	包含層	深鉢	体	貝殻文 早期
3	C区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 口唇キザミ目 前期
4	C区	包含層	深鉢	体	粘土縫貼付
5	C区	包含層	深鉢	体	粘土縫貼付
6	C区	包含層	深鉢	体	單輪轎余体第5類
7	C区	包含層	深鉢	底	單輪轎余体第1類
8	D区	包含層	深鉢	口	口縁基部キザミ目
9	D区	包含層	深鉢	口	複合口縁 キザミ目
10	D区	包含層	深鉢	口	口縁部内外面キザミ目
11	D区	包含層	深鉢	口	弧状沈痕文 LR
12	D区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 外面焼付着
13	D区	包含層	深鉢	口	LR
14	D区	包含層	深鉢	口	LR 陰帯 キザミ目
15	D区	包含層	深鉢	体	RL 沈痕 刺突
16	D区	包含層	深鉢	口	LR
17	D区	包含層	深鉢	口～体	沈痕文
18	E区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 口縁内外にキザミ目
19	E区	包含層	深鉢	口	陰帯 キザミ目
20	E区	包含層	深鉢	口	陰帯 キザミ目
21	E区	包含層	深鉢	口	LR 陰帯 キザミ目
22	E区	包含層	深鉢	口	RL 陰帯 キザミ目
23	E区	包含層	深鉢	口	陰帯 キザミ目
24	E区	包含層	深鉢	口	LR 弧状沈痕
25	E区	包含層	深鉢	口	多輪轎余体 外面付着物
26	E区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 縄目状
27	E区	包含層	深鉢	口	LR
28	E区	包含層	深鉢	体	粘土縫貼付
29	E区	包含層	深鉢	体	LR 沈痕 ボタン状貼付 33と類似
30	E区	包含層	深鉢	体	單輪轎余体第1類 18と同一個体
31	E区	包含層	深鉢	体	單輪轎余体第1類 縄目状沈痕
32	E区	包含層	深鉢	体	RL 弧状沈痕
33	F区	包含層	深鉢	体	LR 沈痕 ボタン状貼付 29と類似
34	G区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 陰帯 キザミ目 刺突
35	G区	包含層	深鉢	口	複合口縁 手旗竹管文刺突
36	H区	包含層	深鉢	体	沈痕文
37	I区	包含層	深鉢	口	複合口縁 キザミ目
38	I区	包含層	深鉢	口	複合口縁 波状
39	I区	包含層	深鉢	口	LR 陰帯 刺突 キザミ目 40と同一個体
40	I区	包含層	深鉢	口	LR 陰帯 刺突 キザミ目 39と同一個体
41	I区	包含層	深鉢	口～底	無文 口縁部内面に円形刺突
42	I区	包含層	深鉢	口	RL
43	I区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類 外面焼付着
44	I区	包含層	深鉢	口	單輪轎余体第1類
45	I区	包含層	深鉢	体	單輪轎余体第1類 外面焼付着
46	I区	包含層	深鉢	体	沈痕 陰帯 キザミ目
47	I区	包含層	深鉢	体	LR 沈痕
48	不明	不明	深鉢	口	複合口縁 キザミ目
49	不明	不明	深鉢	体	LR 結節あり 陰帯に原体無面压痕 沈痕
50	不明	不明	鉢	体	焼付
石器					
1	A区	包含層			
2	B区	包含層			
3	C区	包含層	石錐		
4	C区	包含層	石錐		
5	C区	包含層			
6	D区	包含層	石錐		
7	D区	包含層	石錐		
8	D区	包含層	石錐		
9	D区	包含層	環状石製品		
10	E区	包含層	石錐		
11	E区	包含層	石錐		
12	E区	包含層			
13	E区	包含層			
14	F区	包含層	石錐		
15	G区	包含層	尖頭器		
16	I区	包含層			
17	K区	包含層	範状石器		アスファルト状付着物あり
18	K区	包含層	範状石器		
19	サブトレンチ	包含層	石錐		
20	南側烟地	表様	敲撃石		

大西遺跡掲載遺物一覧

番号	遺構名・出土地点	層位	器種	部位	特徴
1	S301 溝断面 ベルトより北	埋土下部十和田a	深鉢	体	RL 内外面縦付着
2	溝	埋土	底	内里 土蜘蛛 高台	
3	溝	検出面Ⅲ刻上面	甕	体	須恵器 タタキ目
4	溝	検出面Ⅲ刻上面	甕	体	須恵器 タタキ目
5	溝	検出面Ⅲ刻上面	甕	体	須恵器 タタキ目
6	溝	埋土 上土	甕	体	須恵器 タタキ目
7	北区ベルト	IV層下部	甕	体	弥生
8	北区ベルト	IV層下部	甕	体	弥生
9	北区ベルト	IV層下部	甕	体	弥生 内外面炭化物付着
10	南区 西	IV層～V層	深鉢	口	RL
11	南区 西	IV層～V層	深鉢	頸～体	LR 刺突
12	南区 西	IV層～V層	深鉢	口	RL 晩期 内面炭化物付着
13	南区 西	IV層～V層	深鉢	口	RL 晩期
14	南区 西	IV層～V層	深鉢	口	RL 晩期
15	南区 西	IV層～V層	台付鉢	口	晩期
16	南区 西	II層	深鉢	口	
17	南区 西端	V層	台付鉢	台	RL 晩期 千かしあり
18	南区	IV層上部	深鉢	体	LR
19	南区	IV層～V層	深鉢	体	LR 羽状風
20	南区	IV層上部	深鉢	体	LR
21	南区	IV層上部	台付鉢	台	LR 晩期 千かしあり
22	深掘り 2区	基本層位V層対応	深鉢	口	RL 外面炭化物付着
23	断面V層	基本層位V層対応	圓鉢	体	弥生 単輪轍条付 第1類
24		黄褐色土層上面	杯	口～体	内里 内面 ミガキ

駒板遺跡掲載遺物一覧

番号	遺構名・出土地点	層位	器種	部位	特徴
1	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	口	単輪轍条体第1類 陰帯 ボタン状貼付 刺突 キザミ目
2	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	口	単輪轍条体第5類 沈線
3	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	口	単輪轍条体第6類 6と類似
4	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	体	LR磨消繩文 陰帯 円形刺突
5	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	体	陰帯 円形刺突
6	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	深鉢	体～底	単輪轍条体第5類 底部外面木表痕 3と類似
7	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	ミニチュア	底	無文
8	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	ミニチュア	底	沈線 滴垂状
9	B区風洞木3・4付近		深鉢	口	沈線
10	B区風洞木5付近	Ⅲ層	深鉢	口	沈線 ボタン状貼付
11	B区風洞木5付近	Ⅲ層	深鉢	口	LR
12	B区東側	Ⅲ層	深鉢	口	RL 陰帯 キザミ目
13	B区中央	Ⅲ層	深鉢	口	LR
14	B区中央	Ⅲ層	深鉢	体	L. 沈線
15	B区中央	Ⅲ層	深鉢	体	L. 沈線
16	B区中央北端		深鉢	体	LR 磨消繩文 沈線
17a	B区中央北端		深鉢	体	LR 頸状陰帯 ボタン状貼付
17b	B区中央北端		深鉢	体	LR 頸状陰帯 ボタン状貼付
18	B区中央		深鉢	底	単輪轍条体第1類
19	C区中央	Ⅲ層黒土	深鉢	口	単輪轍条体第1類 外面縦付着
20	C区中央	Ⅲ層上	深鉢	体	単輪轍条体第1類 外面炭化物付着
21	C区中央	Ⅲ層上	深鉢	体	沈線文

石器

1	C区	Ⅲ層	石器
2	B区風洞木1～5付近	Ⅲ層	サイドスクリーパー
3	B区風洞木3・4付近		礫石

II 試掘調査

1 一関遊水地事業衣川

衣の関道遺跡 (N E 65-2351)

所在地：胆沢郡衣川村七日市場・閑谷起地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年4月19日・20日、6月9日

本遺跡はJR東北本線平泉駅の北西約3km付近に位置し、北上川支流の衣川左岸の沖積地に立地する。遺跡の現況は主に水田・畑地である。中尊寺からの古道(奥の大道路)が所在するという伝承のある遺跡である。遺跡北側のT1~T10では、基本的に耕作土下層が褐色砂質シルト面となる状況であり、遺構・遺物は検出されなかった。T16では表土から115cmの黄褐色土面で土坑1基、T19では、表土から35cmで焼土1基と楕円形の土坑1基を検出した。焼土付近からは内黒の土師器壺3片が出土している。T20では、楕円形の土坑2基を検出し、T21では、柱穴状土坑1基を検出した。T25では、方形の竪穴住居跡1棟、溝跡2条、土坑1基、柱穴状土坑10基を検出した。T27では、土坑1基、柱穴状土坑3基を検出した。T28では、竪穴住居跡1基と土坑1基等を検出し、T30では、柱穴状土坑を1基を検出した。遺構の埋土中には炭化物・土器片粒が含まれており、土坑中央部に柱痕跡が認められた。一段低いこの箇所は、盛土・整地が行われた可能性が推測される。T31では、土坑2基等を検出し、埋土にはブロック状の土器片と炭化物粒が含まれていた。T25・T27・T28・T31の遺構検出面は、地表下30~40cmの黄褐色土上面であり、部分的に黄褐色土層が削平された箇所については、その下層の褐色砂質シルト面が検出面となっていた。T34では、土坑1基と柱穴状土坑1基を検出した。T16から西側の各トレンチで竪穴住居跡・土坑・溝跡等の遺構が検出され、土師器等の小片が少量出土したこと、埋土中に灰白色火山灰が含まれていたことから、平安時代前期の集落跡と推測される。調査区西側の遺物の伴わない柱穴群については、11世紀安部氏関連の遺構の可能性が考えられる。



第59図 衣の関道遺跡位置図



第60図 衣の関道遺跡調査区位置図

2 一関遊水地事業

濁畠遺跡 (N E 65-2360)

所在地：胆沢郡衣川村七日市場地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年4月19日・20日

本遺跡はJR東北本線平泉駅の北西約3km付近に位置し、北上川支流の衣川左岸の低位段丘に立地する。遺跡の現況は主に水田・畑地である。平成13年度に当課による発掘調査が行われ、繩文時代の竪穴住居跡9棟のほか多くの遺構検出されている。同じく平成13年度に村道東側の宅地造成に伴う試掘調査が実施されたが、埋蔵文化財は確認されなかった。今回の調査は、衣川築堤事業に伴うもので事業予定箇所(13年度試掘調査分を除く)に14本のトレンチを設定した。

遺跡北側に設定したT1～T3では、Ⅱ層黒褐色シルト層の下層が漸移層のⅢ層暗褐色土層となっており、その下層は地山のⅣ層黄褐色ローム層となっていた。部分的に削平が行われており、表土下層が基盤層の砂疊層となっていた。平成13年度発掘調査区に隣接するT5ではⅢ層暗褐色土層で竪穴住居跡の一部と土坑1基を検出した。竪穴住居跡は直径4～5mの円形の遺構と推定される。土坑は1×1.5mの楕円形の遺構で、埋土は煤を含む黒褐色～暗褐色土であった。T5内からは遺物は出土しなかったが、検出された2基の遺構は繩文時代の遺構と推測される。T6～T7では、Ⅱ層黒褐色土層が40～50cmと層厚を増す傾向であり、その下層は暗褐色粘土質シルト層となっていた。衣川に近い一段低い田面に設定したT10では、近代以降の住宅に伴う擾乱が顕著であった。更に低い田面に設定したT11～T14では、耕作土下層に黒褐色土、暗褐色土が比較的厚く堆積していたが、埋蔵文化財は確認されなかった。



第61図 濁畠遺跡位置図



第62図 濁畠遺跡調査区位置図

3 一間遊水地事業

接待館遺跡 (N E 65-2345)

所在地：胆沢郡衣川村七日市場地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年6月9日・10日

本遺跡はJR東北本線平泉駅の北西約3km付近に位置し、衣川によって形成された沖積地端部に立地する。今回の調査は、平成15年度に実施した試掘調査未了箇所が対象であり、かつて屋敷林のあった箇所である。旧地形が比較的多く残っていることが予想されたが、木根等雜物が多くかったため、それらを避けながらトレンチ10本設定した（前回からの通算T21～T30）。

調査区南端に東西方向に設定したT21において、幅約26m前後の溝状遺構が検出された。また、T21の北側に設定したT22及びT23と、T23に直交するように設定したT26、現在休耕田に設定したT29及びT30においても同規模の溝状の遺構が検出された。その方向及び規模等から、今回の調査で検出された溝状遺構は同一遺構であると推測され、平成15年度調査のT10・T11・T16・T18で検出された溝跡に連続することが想定される。なお、T29においてこの溝状遺構の埋土下層から土師器片（高台坏）が、1点出土し、T22の第II層黒色土の上面から縄文土器片が1点出土している。この溝状遺構は、T29及びT30では第II層直下で検出され、第II層が堆積している箇所（T24・T27・T28）においては、第II層上面で検出されている。第II層がほとんど確認されなかったT21・T22では、第III層上面から検出されたことから、第II層が認められる部分においては、第III層上面と第II層下面の少なくとも2面の検出面が存在するものと思われる。その他の遺構については、T27で径40cm大の柱穴3基からなる柱穴列が1条検出され、その間尺は約210cm（7尺）前後であった。遺物は出土しなかったが中世城館跡に伴う遺構の可能性がある。以上のことから、今回の調査区には、縄文時代の遺構と平安時代以降（～中世）の遺構が複合して所在していることが推測される。



第63図 接待館遺跡位置図



第64図 接待館遺跡調査区位置図

4 一間遊水地事業

六日市場遺跡 (N E65-2346)

細田遺跡 (N E65-2334)

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成17年2月4日

両遺跡は、衣川村役場の南東約4.5kmに隣接して位置し、衣川左岸の河岸段丘の縁に立地している。標高は約22~24m前後を測る。現況は主に宅地と畠地である。

今回の調査は一間遊水地事業に係るもので、堤防関連施設として現村道の切り替え予定地を対象に、六日市場遺跡には3本（前年度の調査番号に連続してT9~T11）、細田遺跡には5本と計8本のトレーンチを設定した。

基本層序は、隣接する両遺跡ともほぼ一様で第Ⅰ層が表土（耕作土）、第Ⅱ層は盛土、第Ⅲ層の暗褐色土が中・近世遺構検出面で、縄文時代遺物包含層となっている。第Ⅳ層は黄褐色砂質土で縄文時代の遺構検出面、第Ⅴ層は茶褐色砂礫層の旧河床）と思われる。

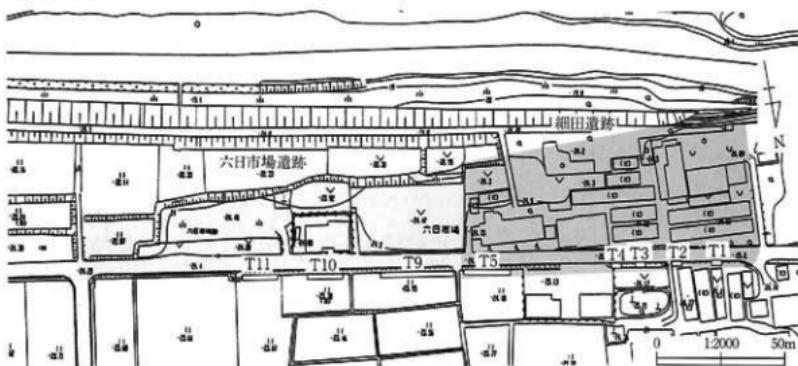
調査の結果、六日市場遺跡で検出された遺構は、T9西側の第Ⅳ層面で東西方向に約3mの等間隔で並ぶ直径約20cmほどの柱穴3基、T9東側においては第Ⅳ層黒褐色土（縄文時代遺物包含層）が確認された。T10西端の第V層面では、地床炉と思われる焼土が確認された直径約6mの円形と推定される縄文時代の竪穴住居跡1棟が検出された。T10の東側からT11にかけては第V層面が下っており、前年度試掘結果と同様に東側低地では遺構・遺物は確認されなかった。

前年度調査では第Ⅲ層面で遺構が確認されたため、以下の掘り下げを行えなかったが、今回の結果から本遺跡は中・近世の遺跡と縄文時代の集落の複合遺跡と判明した。

細田遺跡では、T4の第Ⅳ層面で直径約30cmの柱穴2基が検出されたが、遺物が出土しなかったため時期は不明である。



第65図 六日市場・細田遺跡位置図



第66図 六日市場・細田遺跡調査区位置図

5 一関遊水地事業

坂下遺跡 (N E76-0000)

所在地：西磐井郡平泉町平泉字坂下地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成17年3月8日・9日

本遺跡は、JR東北本線平泉駅の北西約1.5kmに位置し、北上川右岸の河岸段丘上に立地する。遺跡標高は約35m前後を測り、現況は水田と宅地である。東北本線を挟んで東側は衣川と北上川により形成された沖積地に向かって急斜面となっており、西側は沖積地にむかって緩斜面となっている。今回の調査は一関遊水地事業に係るもので、本事業に関連して敷設替えされるJR東北本線予定地に7本のトレンチを設定した。

調査の結果、T1において柱穴2基を確認し、土師器片が出土した。柱穴の平面形は円形、規模はそれぞれ直径30cmと直径20cmであった。土師器片は基本層序第Ⅱ層暗褐色土中から出土した。

T1～T3付近では、耕作土直下に漸移層である基本層序第Ⅱ層の暗褐色土の広がりを確認した。T4～T7では、耕作土は盛土でその下層に旧表土を確認した。このことから、旧地形は、T1からT7に向かって現況より急斜面になっていたことが分かった。調査対象箇所は、JR東北本線向かい緩斜面となっている。T1とT2の間に幅約10mの沢跡を確認したことや東北本線の反対側の地形にも沢跡が確認できることから、調査対象箇所は河岸段丘の縁辺部であったと考えられる。

現況の地形は、沢跡を東北本線建設やは場整備の際に盛土されたと考えられる。



第67図 坂下遺跡位置図



第68図 坂下遺跡調査区位置図

6 一般国道4号花巻東バイパス改築工事

下通遺跡 (ME 36-0225)

所在地：花巻市東十二丁目地内

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年4月21日～22日

本遺跡は、花巻市役所より南南東約3kmに位置し、北上川東岸の氾濫原上にある微高地に立地しており、現況は主に畠地及び宅地となっている。本遺跡は、平成15年度に新規発見された遺跡で、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査により、古代の堅穴住居跡等の遺構が調査され、土師器、須恵器等の遺物が出土している。本遺跡の北東方向には、高木中館遺跡が、南西方向には長根Ⅲ遺跡が隣接して所在している。

今回の調査は、一般国道4号花巻東バイパス改築工事に伴うもので、本遺跡にかかる予定路線箇所の試掘調査である。調査対象区に13本のトレンチを設定した (T1～T13)。長根Ⅲ遺跡に隣接した北面する微高地の斜面に設定したT2及び隣接する現在休耕田に設定したT3において、柱穴状ピットが15基検出された。柱穴状ピットの規模は、いずれも径30cm大ではほぼ円形を呈している。T3においては、掘立柱建物を構成するものと思われる柱穴状ピットが確認された。T4においては、径35m以上の規模を持つ円形土坑が検出され、その規模及び形状から、井戸の可能性があると推測した。その埋土を観察すると、多くの炭化物粒が含まれていた。現在、微高地となっている箇所に設定したトレンチにおける層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層暗褐色砂質土、暗褐色粘土質土及び黄褐色粘土質土の洪水堆積層と思われる層が確認され、この洪水堆積層は約240cm程もあった。この洪水堆積層下は黄褐色砂層であり、基本層序の第Ⅲ層である暗褐色砂層、検出面である第Ⅳ層褐色砂層は所在せず、遺構は確認できなかった。今回の試掘調査において、いずれのトレンチからも遺物は確認できなかった。

以上のことから、遺物は確認できなかったものの、平成15年度の財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査結果等から、本遺跡は古代以降の集落跡であると思われるが、集落の中心は、調査区に隣接した西側の微高地に所在している可能性が高いと推測した。



第69図 下通遺跡位置図



第70図 下通遺跡調査区位置図

7 一般国道4号渋民バイパス改築工事

昼久保V遺跡 (K E57-0168)

所在地：岩手郡玉山村大字芋田字昼久保地内

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年10月12日～13日、11月15日

遺跡は、玉山村役場の北東方向約2.5kmに位置し、山地から延びる尾根の先端部に立地している。遺跡の標高は約230m前後を測り、現況は主に畑地となっている。今回の調査は、国道4号渋民バイパス改築工事に伴うもので、工事予定箇所に14本のトレンチを設定した (T1～T14)。T1～T5、T7は従来の遺跡範囲内に、T6、T8～T14は遺跡隣接箇所に設定した。T1～T3を丘陵状の高まりを見せる現畑地に設定した。T2において、土坑1基、陥し穴状造構1基が検出された。土坑は、径40cm大のほぼ円形で、陥し穴状造構は、長楕円形のプランで300cm×70cmの規模であった。どちらもその埋土は、黒褐色であった。T3においては、陥し穴状造構2基が検出された。形状はどちらも長楕円形を呈し、その規模は幅50cm以上、長さ80cm以上であった。今回の調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層黒褐色～黒色土（黄褐色土粒を含む。）、第Ⅳ層暗褐色土（黄褐色土を含む。）、第Ⅴ層漸移層、第Ⅵ層黄褐色土であり、検出面は第Ⅴ層であり、T2及びT3における検出面は、第Ⅴ層上面であった。斜面にT4を設定した。造構は確認できなかったが、第Ⅱ層から約30cm大の凹み石1点、第Ⅳ層から石器の剥片1点が出土した。遺跡の隣接箇所であり、今回の調査区において、比較的標高の高い雜種地及び畑地に、T6、T8～T14を設定した。T8～T11、T13を設定した雜種地は、傾斜が急であったためか、造構及び遺物は確認できなかったが、現農道脇の平場に設定したT12において、90cm×40cmの土坑1基が検出されたほか、検出面から縄文早期の土器片1点が出土した。

今回の調査で検出された造構及び遺物等から、今回の調査対象区は集落の中心部とは考えにくく、当時の狩猟の場であったと推測した。住居跡等の集落は、今回の調査区から連続する調査区外の河岸段丘線辺部ではないかと推測した。



第71図 昼久保V遺跡位置図

8 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事

中屋敷上遺跡（JF30-2040）

所在地：二戸郡一戸町小鳥谷字中屋敷上地内

調査期日：平成16年4月26日・27日

5月26日

(延べ3日間)

本遺跡は、一戸町役場の南南東約5.2kmに位置し、馬淵川と小鳥谷川の合流点南側に位置する段丘面の東斜面に立地している。現況は主に畠地となっており、北側及び東側には宅地が広がっている。

今回の調査は国道4号小鳥谷バイパス改築工事に伴うもので、調査対象区に22本のトレーニングを設定した。

調査の結果、T4から土坑を1基検出し、T16からは、弥生土器が出土した。T4から検出した土坑は、長軸75cm、短軸70cmの規模であった。地表から検出面までの深さは70cmで、検出面は黄褐色土の地山面であった。

T16から出土した土器は撫系文様が擬走している撫系文土器であった。1片だけの出土であることと、土器全体が磨滅していることから、上方からの流れ込みであると推測される。

T6～T9までと、T12、T14の周辺は表土直下が地山であり、以前に掘削を受けたものと思われ、T10、T13の周辺は黒色土、黒褐色土層が厚く、掘削して削平された土を盛った場所であると推測される。

T7からは、径50cm大の土坑を2基検出したが理土にしまりがなく、畠に広がるブドウの木の切り株と土坑の位置が等間隔であることから、苗木を植える際に掘った穴であると判明した。

T4から土坑を検出していることから、さらに遺跡の北側隣接地にT19～T22を設定して調査を行った。駐車場として使われている場所であり、すでに大きな掘削を受けており、遺構・遺物とも確認することはできなかった。



9 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事

野里上遺跡 (J F 30-1081)

所在地：二戸郡一戸町小鳥谷字穴久保外地内

調査期日：平成16年6月21日

7月8日・9日

(延べ3日間)

遺跡は一戸町役場の南南東約4.6kmに位置し、馬鹿川と小鳥谷川の合流点南側に位置する段丘面の東斜面に立地している。現況は主に水田と畠地である。今回の調査は国道4号線小鳥谷バイパス改築工事に伴うもので、調査対象区に45本のトレンチを設定した (T1~T45)。

調査の結果、土坑15基・柱穴12基、縄文土器を含む包含層を1カ所検出し、溝跡を2条検出した。

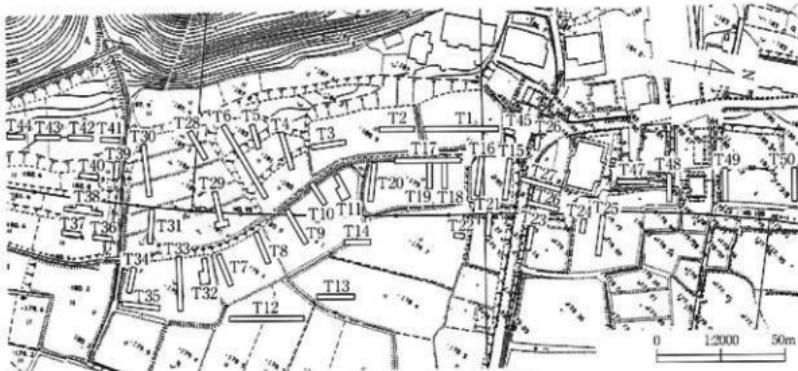
T4では、長軸35cm短軸25cm、長軸90cm短軸60cm、直径がそれぞれ110cm・90cm・40cmの土坑を検出した。

T7では長軸80cm短軸60cm、T9では長軸70cm短軸50cm、T11では長軸60cm短軸50cmの土坑をそれぞれ検出した。T15では、直径70cmの土坑と、直径20cmの柱穴が4基、T16では、直径20cmの柱穴と直径60cmの土坑、T18では直径100cmの土坑、T26では直径20cmの柱穴を6基検出した。T12では、縄文土器を含む包含層を1カ所検出した。T28では径130cm大的土坑、T29では径170cmの土坑、T30でも陥り穴状遺構を3基検出した。T32・T33からは100cm幅の溝跡が2条検出された。調査区の中央付近は層厚が300cmを越えるところもあり、旧沢跡を埋め立てたところであると推測される。

地山の上面には砂礫層が形成されており、絶え間なく水が湧き出る状況であり、堆積した土砂はグライ化が進んでいた。遺構・遺物とも確認されなかった。調査区南側の畠地は、は場整備で一度削平されているが、地山までの層が厚かったため地山付近の層は残存しており、土坑が多数検出されたことからも、遺跡の中心がこの付近にある可能性が出てきたことから、調査区を南側の沢まで広げて調査を行う必要があると考えられる。



第75図 野里上遺跡位置図



第76図 野里上遺跡調査区位置図

10 一般国道4号小島谷バイパス改築工事

野里上II遺跡 (J F30-2021)

所在地：二戸郡一戸町小島谷字野里上63ほか

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年9月9日・10日

本遺跡は、一戸町役場の南南東約5kmに位置し、馬渕川及び平糠川に形成された河岸段丘とこの西側の丘陵間に立地している。丘陵部については沢によって南北に地形が区切られている。標高は182mから205mを測り、現況は山林・水田・畑地となつていて。

今回の調査は国道4号小島谷バイパス改築工事に係るもので、周知の遺跡範囲(丘陵部=A区)については地形的な観点から試掘トレレンチ13本、また確認された遺構と遺物の広がりから隣接地(河岸段丘部=B区)についても試掘トレレンチ13本と計26本(T1~T26)を設定した。

調査の結果、基本層序としてはA区ではⅡ層黒色土(遺物包含層)、Ⅲ層褐色土(遺構検出面)、Ⅳ層黄褐色土(地山)、B区ではⅡ層が暗褐色土となっていた。一部A区では畑地の開墾整地により部分的に盛土や削平が行われており、南部の東側低位部ではⅡ・Ⅲ層が消失していた。またB区では全体的にⅡ層上に盛土が20cm~1m以上存在していることから、丘陵部を削平した土を使用して造成したものと思われる。

検出された遺構は、A区丘陵部南部の西側最高位部ではT11~T14においてⅡ層中から多量の遺物が出土したことから、この遺物包含層(約500m²)以下の掘り下げは行わなかつたが、下位には遺構が存在する可能性が高い。この北側で遺物の希薄な一段低い所に設定したT18ではⅢ層上面にて埋設土器が検出され、東側低位部のT16ではⅢ層面で上坑1基が検出された。A区北部では遺構・遺物とも確認されなかつた。

B区河岸段丘部ではT1~T3・T8で1~2mほどの大きさの略円形土坑各1基、T4では直径約3mほどの竪穴住居跡がⅢ層上面で検出されており、T1の土坑からは縄文土器片が1点、T6Ⅱ層中からは縄文土器片1点が出土した。T8では埋没が確認され、T9では湧水することから遺跡の北限と考えられた。

出土遺物からはA区は縄文時代後期を主体とし、B区は縄文時代前・中期が主体と思われる。



第77図 野里上 II 遺跡位置図



第78図 野里上 II 遺跡調査区位置図

11 一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事

野中遺跡（J F 30-1033）

所在地：二戸郡一戸町小鳥谷字野中127-4ほか

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年11月18日・19日、12月9日

本遺跡は、一戸町役場の南南東約4kmに位置し、馬淵川及び平櫛川に形成された河岸段丘の縁辺部に立地している。標高約175m、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査は国道4号小鳥谷バイパス改築工事に係るもので、周知の遺跡範囲に11本（T1～T11）と隣接地に2本（T12・T13）の計13本のトレンチを設定した。

調査の結果、基本層序としてはⅡ層黒色土、Ⅲ層灰白色土、Ⅳ層黒褐色土、V層褐色土（遺構検出面）であるが、調査区北東部から東部では表上下が砂礫層となっており、調査区北東部では、国道4号の両側となるT10を設定した宅地跡とT12・T13を設定した隣接地は造成掘削により遺構等は消失したものと思われる。また一段低い南部では第Ⅱ・Ⅲ層（黒褐色土・灰白色火山灰？）が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。

検出された遺構は、調査区北部の微高地に設定したT6～T9で直径20～30cmの柱穴が多数検出され、特にT7中央部に多く、遺跡の主体部と思われる。また、T8では直径約50cmほどの土坑4基も検出された。いずれもV層褐色土上面が検出面となるが、T9周辺では宅地造成で削平されており、VI層面で検出されている。この微高地東端のT5と南端のT8では旧河道が確認され、遺構はこの旧河道の北側で馬淵川に近い範囲に集中的であった。

今回調査では遺物が出土しなかったため、検出された遺構の時期は特定できないが、第Ⅲ層が上和田a火山灰として、整地造成の時期によっては近世、あるいは古代以前の可能性も考えられる。



第79図 野中遺跡位置図



第80図 野中遺跡調査区位置図

12 一般国道4号平泉バイパス改築工事

瀬原I遺跡 (N E66-1047)

所在地：西磐井郡平泉町平泉字瀬原地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成16年12月6日・7日

(延べ2日間)

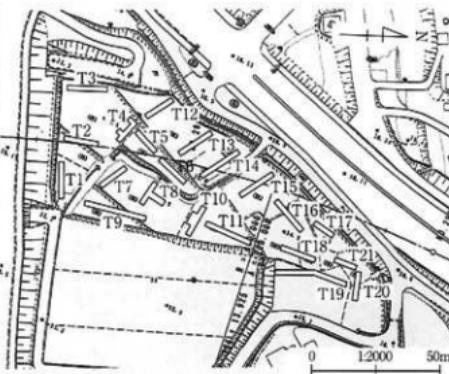
調査地は平泉町役場の北方約3.6kmに位置し、北上川右岸の低位段丘に立地する。遺跡の標高は22m～30m前後を測り、現況は主に宅地と水田、道路になっている。

今回の試掘調査は、国道4号線の平泉バイパス改築工事に伴うもので、該当箇所に試掘トレンチを27本設定した (T1～T27)。

調査の結果、T25から土坑を検出した。土坑は径80cmの概ね円形形状を呈し、表土から検出面である地山までの深さは10cmであった。土坑底面近くの埋土では、所々地山が見えることから、かなり削平されているものと思われる。埋土は暗褐色土で、検出面上から常滑焼陶器片と、土師器片が出土した。常滑焼片は2cm四方ほどであったが、磨滅しておらず現地性の土器と判断した。T27からは須恵器片が出土した。表土から検出面である地山までの深さは120cmであった。この調査区は旧表土の上に80cm盛土されたところであり、旧表土(暗青灰色土)直下の砂礫層から出土した。T4・T5・T6・T8・T9・T10・T26から溝跡を検出した。T4～T6の溝跡は南北に延びており、方向と位置関係から同一のものと推測される。表土から検出面である地山までの深さはそれぞれ、25cm、17cm、17cmであった。幅は90cm～110cmで、埋土はグライ化した暗青灰色土だった。T8とT10から検出した溝跡も南北に延びており、方向と位置関係から同一のものと推測される。表土から検出面である地山までの深さは、17cmと16cmであった。幅は70cm～100cmで、埋土はグライ化した暗青灰色土だった。T9から検出した溝跡も南北に延びていた。今回の調査で、平安時代の前期及び12世紀の遺構・遺物が多数確認された。今回の調査区南側(瀬原II)に遺跡の中心があると推測される。



第81図 瀬原I遺跡位置図



第82図 瀬原I遺跡調査区位置図

13 国営いさわ南部農地整備事業

台I 遺跡 (N E34-2300)

所在地：胆沢郡胆沢町字屋敷地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成16年7月5日、8月2日・3日

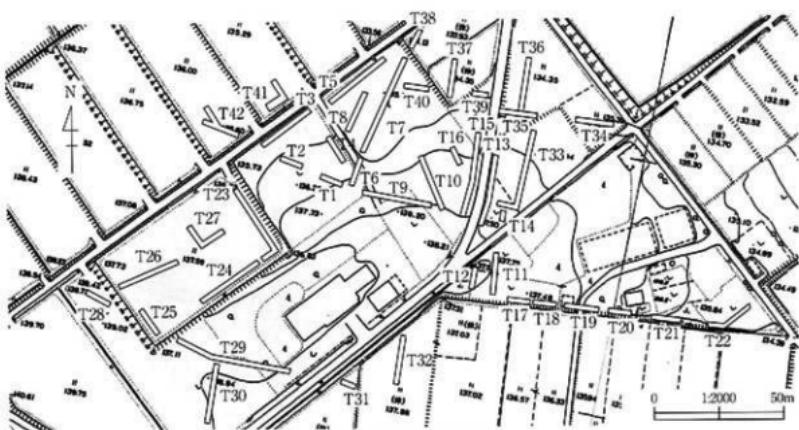
本遺跡は、JR東北本線前沢駅の北西17.4kmに位置し、胆沢扇状地の中位段丘面である上野原段丘上に立地している。遺跡の標高は133~137m前後を測り、現況は主に宅地、畑地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い、切土となる田面、排水路及び農道設置箇所が対象である。調査対象区内に42本の試掘トレンチを設定した(T1~T42)。

T15、T29、T33において土坑5基及び溝1条を検出した。T15、T29、T33を設定した箇所は、現在微高地となっている。T15で検出された土坑は、径100cmの規模であり、平面形は円形であった。T33で検出された土坑は、70cm×60cmの規模で、平面形は梢円形を示しており、埋土は黒色土であった。また、この土坑が検出されたトレンチ内において、溝1条が検出された。この溝は南北方向に走っており、幅は約35cmで埋土には炭化物粒が含まれていた。確認のためにこの溝の一部を掘ってみたところ、断面形はU字型を示し、検出面から底面までの深さは約30cmであった。砂利敷農道設置予定箇所にT29を設定した。T29において、90cm×80cmの土坑1基、90cm×60cmの土坑1基、径60cm大の円形土坑1基が検出された。このT29の中央部から西側部分にかけては、表土直下に地山である褐色土より下層にある白色粘土層があらわれていることから、水田造成時に旧地形が大きく改変されていることが伺えた。また、標高の低い田面でも、トレンチにおける層序から、旧地形が大きく改変されて水田が造成されていることが伺えた。遺構が確認された箇所は、比較的良好に旧地形が残存している住宅周囲の微高地部分であったが、旧地形が改変されている箇所も認められたことから、本遺跡における遺構の残存状況は良好ではないと思われた。

今回の調査では、遺物は確認できなかった。



第83図 台I 遺跡位置図



第84図 台I 遺跡調査区位置図

14 国営いさわ南部農地整備事業

台Ⅲ遺跡(NE34-2200)

所在地：胆沢郡胆沢町小山地内

事業者：東北農政局いきわ南部農地整備事業所

調査期日：平成16年8月5日～6日

本遺跡は、JR東北本線前沢駅の約8.5km北西に位置し、胆沢扇状地の北西-南東方向に広がる上野原段丘上に立地している。標高は162m前後を測り、現況は水田である。調査地は昭和34年からの農地機械公團による造成事業により整備され、現地形はかなりの改変がなされている。

今回の調査は国営いさわ南部農地整備事業に係るもので、水路予定地に3本(T1・T6・T11)、現状で2段の水田に各4本のT2~T5・T7~T10の11本の試掘トレーン

調査の結果、調査区西側の高位の水田は前回の造成事業により大きく掘削されており、東端部分のみⅢ層（旧表上）以下がわずかに残っていた。東側低位の水田では東半にはⅡ層盛土が存在し、東側に向かいⅢ層が厚く堆積している。

検出された遺構は、低位の東側水田のパイプライン予定地に設定したT6中央のV層(地山)面で検出した土坑1基で、平面形・規模は、一辺約1.5mの隅丸方形プランを呈するが、遺物が出土しなかったため時期は特定できなかった。



第85図 台Ⅲ遺跡位置図



第86図 台三遺跡調査区位置図

15 農用地総合整備事業下閉伊北地区

菅窪IV遺跡（K G 22-2354）

所在地：下閉伊郡田野畠村菅窪地内

事業者：独立行政法人緑資源機構東北北海道整備局

下閉伊北建設事業所

調査日：平成16年10月25日・26日

本遺跡は、田野畠村役場のほぼ南約1kmに位置し、山地に立地している。標高約240m前後を測り、現況は主に畠地・宅地となっている。

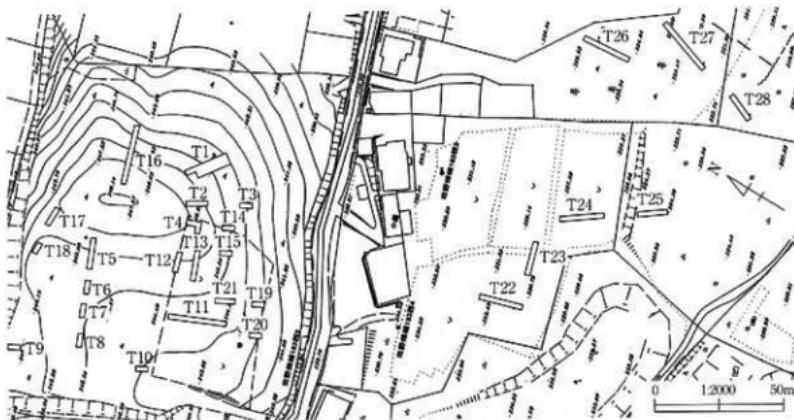
今回の調査は農用地総合整備事業に係るもので、畠地造成予定地を対象として周知の遺跡範囲（東区）と隣接地となる事業地内（西区）に28本（T1～T28）の試掘トレンチを設定した。

調査の結果、調査地東区は、全体的に耕作土直下がⅢ層黄褐色土の遺構検出面となっており、T22で直径約3.5mほどと推定される竪穴住居跡1棟、T23・T26では直径40~90cmの土坑が計4基とこの検出面で縄文土器片数点、T27では削平により遺存状況は不良ながら遺物包含層らしき広がりが確認された。

調査地西区では、南部が土取りによってⅣ層縄混じりの黄褐色土まで掘削されており、遺構・遺物とも検出されなかったが、北部から東部ではⅡ層黒褐色土（遺物包含層）以下が残存し、東向きの緩斜面ではT1～T3・T15・T19・T20のⅢ層黒褐色土上面で直径3m以上と推測される竪穴住居跡が計6棟、T1・T4・T13・T14では直径約1mほどの土坑7基、T4では130×90cmの楕円形土坑1基が検出された。ほとんどの遺構埋土には縄文土器（縦維）が確認され、T2で検出された竪穴住居跡からは貝殻文土器片も1点出土しており、早期から前期の集落と推測される。なお、北西部では刈り取り未了の作物等が残っていたため、試掘が行えなかったが、地形的に遺構が存在するものと考えられる。



第87図 菅窪IV遺跡位置図



第88図 菅窪IV遺跡調査区位置図

16 農用地総合整備事業下閉伊北地区

千足南遺跡 (K G11-1013)

所在地：下閉伊郡田野畠村田代地内

事業者：独立行政法人総合資源機構東北北海道整備局

下閉伊北建設事業所

調査期日：平成16年8月10日

本遺跡は、田野畠村役場の北西約7kmに位置し、田代川支流の河岸段丘上に立地している。標高は約323m前後を測り、現況は原野となっている。

今回の調査は農用地総合整備事業に係るもので、農道予定地を対象としてセンター・ラインにT1～T4の4本の試掘トレンチを設定した。

調査の結果、T1のⅡ層上面で炭化物の堆積と焼土が検出されたが、付近では最近まで炭焼きが行われており、隣接する用地外には炭焼き窯の残骸も認められた。このほかには遺構は確認できなかったものの、T2においてⅢ層明黄褐色土（中振火山灰？）下のⅣ層褐色土中から縄文時代早期末と思われる表裏繩文土器が比較的まとまって出土した。Ⅲ層が部分的に確認されるものであることから、面的な調査を実施すると、この下面のⅣ層及びV層面で遺構が存在する可能性が高いものと思われる。



第89図 千足南遺跡位置図



第90図 千足南遺跡調査区位置図

17 ほ場整備事業 御所野地区

L E13-2334遺跡

所在地：岩手郡雫石町御所野地区

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査日：平成16年11月18日・19日・22日

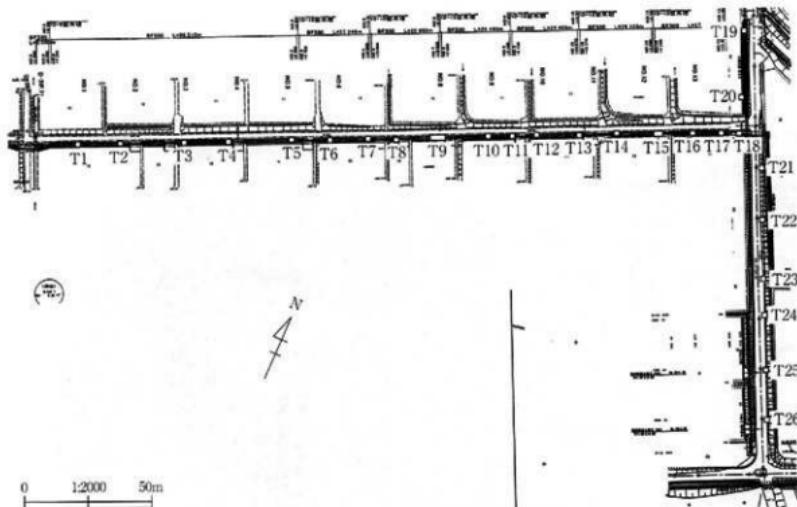
調査対象区は、雫石町役場の東南東約3.1kmに位置し、雫石川左岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は、約200m前後を測り、現況は主に水田となっている。調査対象区は、御所ダム建設に伴い、住居移転対象者の水田確保のために昭和40年代初頭開田された地域である。今回の調査は、経営体育基盤整備事業に伴うもので、用水路敷設箇所、農道拡幅箇所が対象である。調査対象箇所に26本のトレンチを設定した(T1~T26)。

調査の結果、用水路敷設予定箇所のT15において、土坑1基を道路面より深さ110cmで確認した。遺構の半分以上が調査区外に伸びていることから全体の大きさは確認できなかったが、150cm以上×100cm以上の楕円形を呈してると推測される。土坑が確認された付近のT14~T16の間には基本層序第Ⅱ層以下が残っていたため、トレンチを伸ばし遺構の有無を確認したが、遺構は確認できなかった。

T18~T20の盛土下層には、湿地であったことを示す植物根が混入した黒色土の堆積が見られた。T21~T26では、耕作土直下地山であった。このことから調査対象区は、開田によりにより旧地形が大きく改変されたことがわかった。



第91図 L E13-2334遺跡位置図



第92図 LE13-2334遺跡調査区位置図

18 ほ場整備事業 神橋地区

田屋遺跡 (ME24-2109)

所在地：花巻市湯口地内

調査期日：平成16年10月22日

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室農村建設課
本遺跡は、花巻市役所の西方向約6.1kmに位置し、豊沢川左岸の河岸段丘上にある南向きの緩やかな斜面に立地している。現況は、主に宅地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の田面、排水路設置予定箇所、砂利敷農道新設予定箇所を対象とし、調査対象区に試掘トレンチを17本設定した (T1～T17)。

遺跡の北側にあり、現遺跡範囲の標高より約1mほど高い畠地に設定したT9において、土坑2基、柱穴1基が検出された。これらの遺構周辺からは縄文時代後期のものと思われる土器片が十数点出土した。T10においては、幅50cmの南北方向に走る溝1条、竪穴住居状遺構1基が検出され、埋土には土器片が含まれていた。T11では、T10で検出された溝に連続するものと思われる溝が検出された。T8、T12では、表土直下に黄褐色砂礫層があらわれた。T13～T15においても同様であった。これらのことから、過去の水田造成により地形改變されているが、盛土を施された箇所は旧表土が良好に保存され、遺構及び遺物が所在していることが分かった。遺跡の南側に設定したT7において竪穴住居状遺構が1棟検出された。この竪穴住居跡状遺構は、隅丸方形のプランであったと思われるが、遺構の南側は存在しておらず、過去の造成により埋土のほとんどが削平され、今回検出されたものは遺構の底面であると推測した。宅地近くに設定したT1、T2においては、ほ場整備前の水田部分に厚い盛土を施し、田面をあげた箇所であり、径20～30cmの大円錐と砂が混じったグライ化層が旧水田耕作土上で確認されたことから、この水田部分は旧河道であると推測した。以上のことから、本遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であり、住居跡等が確認されたことから、集落跡であったと思われる。



第93図 田屋遺跡位置図



第94図 田屋遺跡調査区位置図

19 は場整備事業 戸塚地区

蒲沢遺跡 (ME07-0202)

所在地：神奈川県石巻市戸塚地区内

事業者：石巻市振興局農林部

農村整備室農村建設課

調査期日：平成16年11月24日

本遺跡は石巻市役場の南東約3.6kmに位置し、神奈川右岸の微高地に立地している。遺跡の現況は宅地と水田、畑地となっており、標高はおよそ94m前後を測る。

今回の調査は、は場整備事業に係るもので、切土予定の田面と道路・排水路設置予定箇所を対象に18本の試掘トレンチを設定した (T1~T18)。

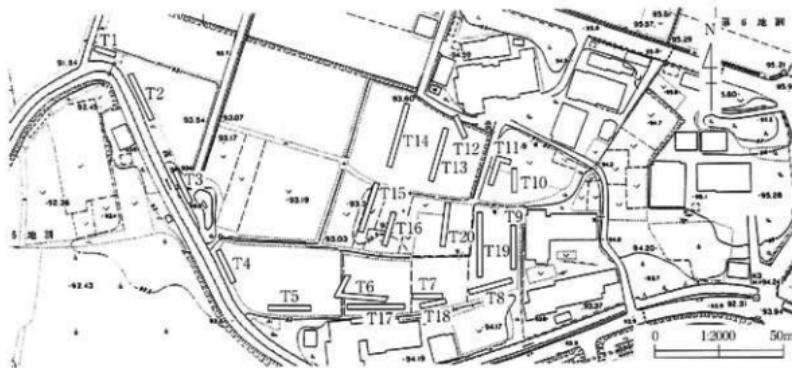
調査の結果、T6から焼土を、T9とT19から溝跡を検出した。T6から検出した焼土は径65cmのほぼ円形で表土から検出面までの深さは35cmであった。焼土は第Ⅲ層黒灰色土層中から検出した。焼土の層厚は4cm以上を測り、酸化鉄の影響を受けたのか鮮やかな焼色を呈していた。焼土周辺には粒状の炭化物が多く確認された。

T9から検出した溝跡は幅が70cmで表土から検出面までの深さは65cmであった。溝跡の検出面は地山と思われるグライ化粘土層からであった。埋土は黒灰色土であり、方向は概ね南北に延びていた。

T19から検出した溝跡は幅が40cmで表土から検出面までの深さは45cmであった。溝跡の検出面は地山と思われる黄褐色土(一部グライ化)からであった。埋土は黒灰色土であり、方向は東西に伸びていた。この2条の溝跡が同一であるかは不明であるが、調査区一帯は低地であることから、他にも溝跡があることが予想される。



第95図 蒲沢遺跡位置図



第96図 蒲沢遺跡調査区位置図

20 ほ場整備事業 八重畠地区

荒野遺跡 (ME06-2358)

所在地：神奈川県石巻市八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：試掘調査：平成16年10月27日・28日

発掘調査：平成17年1月27日

本遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東約2.5kmに位置し、北上川左岸の低位河岸段丘上の微高地に立地している。標高は約81m、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査は経営体育基盤整備事業に係るもので、排水路の設置予定箇所に現況地形からテストピット10ヶ所 (TP1~TP10) を設定し、南北に長い調査地の北端から試掘進めたが、中央の屈曲部で遺構が検出されたため、設計変更を視野に入れて、南半は当初予定地の微高地法面から西側の田面に調査地をスライドさせてトレッソ7本 (T1~T7) を設定して行ない、変更地において一部遺構の確認されたTP7・TP8について発掘調査を実施したものである。

調査の結果、北半では厚い盛土下は砂礫層、南端では耕作土直下はIV層黄褐色土となっており、それぞれ旧排水路設置の際と水田開墾時に削除されたものと思われる。また南端を除く南半では耕作土下には、ややグラウジ化気味のⅢ層黒褐色土が西側田部に向かって堆積しており、土壤状況から湿地であったと思われる。

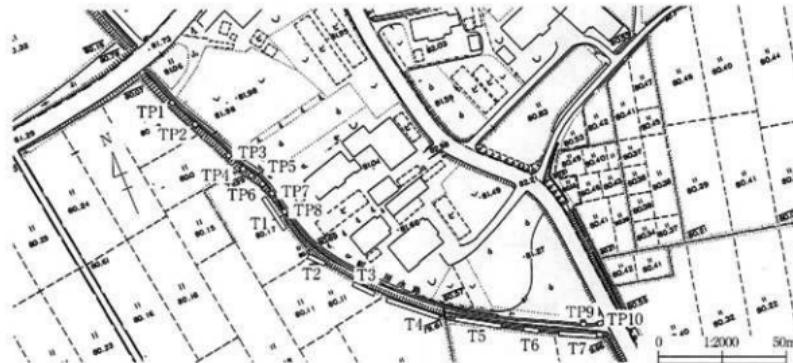
検出された遺構は、Ⅲ・Ⅳ層が残存する調査地中央のTP7のIV層黄褐色土上面で直径約25cmの柱穴が3基と南端のTP9では、幅約20cm、長さ40cm以上の陥入穴が検出された。

TP7・TP8間の発掘調査では、試掘時に第Ⅲ層で検出した柱状ピット1基は根痕と判明し、また南北に伸びる溝跡1条が検出されたが、精査結果と地権者からの聞き取りから昭和年代の水路跡と判断された。

以上が今回の調査成果ではあるが、状況から本調査区の東側微高地一帯が遺跡主体部となり、流れ込みと思われる土師器壊破片が南側で出土したことから、縄文時代の狩猟場と古代の集落と推測される。



第97図 荒野遺跡位置図



第98図 荒野遺跡調査区位置図

21 ほ場整備事業 八重畠地区

大西遺跡 (ME 06-2345)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年10月27日、11月11日

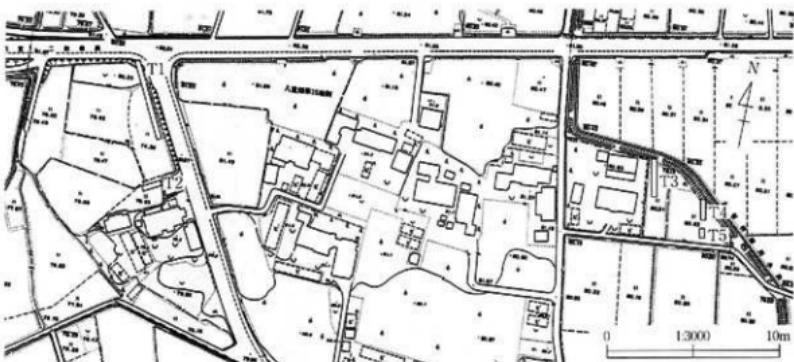
遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東約2.2kmに位置し、北上川左岸の低位河岸段丘上に立地している。標高は81m前後で、現況は水田・畠地・宅地となっている。

今回の調査は経営体育成基盤整備事業に係るもので、遺跡の南西端及び隣接地の田面の中から切土となる田面に2本と、遺跡北東部の切土となる畠地と排水路予定地に3本の計5本のトレンチ (T1~T5) を設定した。

調査の結果、南西隣接地に設定したT1のⅢ層褐色土面において、埋土がややグライ化気味の灰色がかった黒褐色土の幅40cm~55cmほどの溝跡が1条が検出された。北東部調査区では、排水路予定地に設定したT5のⅣ層黄褐色土面(地山)において直径20cm前後の柱穴3基検出されたが、表土下がⅣ層黄褐色土(地山)となっており、東西方向に延びる畔痕跡と思われる低い土手状の高まりが認められ、この南北は地山面が水平となっていることから、過去に削平されて水田として使用されていたものと考えられる。切土予定の畠地に設定したT4・T5では表土下にⅡ層黒褐色土が厚く存在し、ほとんど人工的な改変はされておらず、T4のⅢ層上面にて抜き取り、あるいは重複と思われる直徑及び幅が約30cm、長さが40~50cmの梢円形の柱穴状ピットが3基検出された。



第99図 大西遺跡位置図



第100図 大西遺跡調査区位置図

22 ほ場整備事業 八重畠地区

大西Ⅱ遺跡 (ME 06-2365)

所在地：神奈川県石巻市八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査日：平成16年10月27日・28日、11月11日

本遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東約2.3kmに位置し、北上川左岸の低位河岸段丘上に立地している。標高は79m前後を測る。現況は主に水田となっている。

今回の調査は経営体育成基盤整備事業に係るもので、昨年度調査未了範囲内のバイオライン埋設箇所と切土予定となる水田を対象として、調査地に14本のトレンチ（前年度番号に続くT10～T22）を設定した。

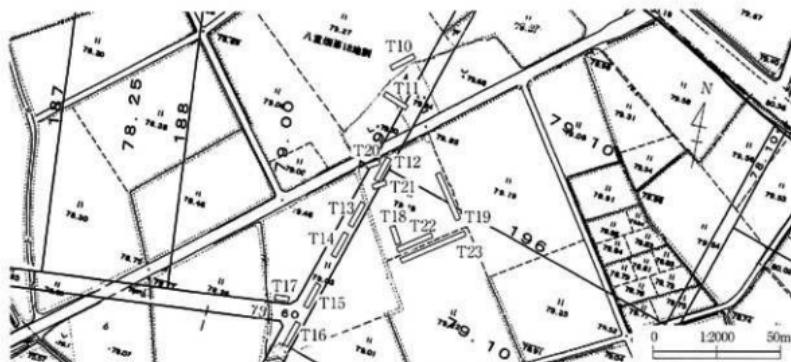
調査の結果、耕作土下にはⅡ層褐色砂質土が2m以上堆積し、遺構はこのⅡ層面とⅢ層橙黄色土（地山）上面で検出された。

検出された遺構は、Ⅱ層面ではT18で直徑約20cmの柱穴1基、T19で直徑約120cmの土坑1基と直徑約28cmの柱穴3基、T20・T21では幅50cmから80cmの溝跡が検出され、この溝跡は位置的に同一のものと考えられた。また、T22・T23では南側に広く黒褐色土の広がりが確認されたため、一部掘り下げたところ、埋没沢であることを確認した。T22では埋没沢の黒褐色土上面で直徑約22cmの柱穴が1基、T23では同じくこの黒褐色土上面で直徑約80cmの土坑1基、埋没沢脇のⅡ層面と埋没沢下のⅡ層面では直徑20cm～30cmの柱穴が各々2基検出された。Ⅲ層面ではT10において幅約70cmの溝跡1条が検出された。

以上が今回の調査成果ではあるが、遺物が出土せず時代の特定は達わなかったものの、本遺跡の北側に位置する大西遺跡の発掘調査成果を参考とすると、Ⅱ層面検出の遺構は層序的に古代～中世、Ⅲ層面検出は绳文～弥生時代に属する可能性が考えられる。



第101図 大西Ⅱ遺跡位置図



第102図 大西Ⅱ遺跡調査区位置図

23 は場整備事業 八重畠地区

大西橋Ⅱ遺跡 (ME 17-0007)

所在地：稗貫郡石鳥谷町字八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部

農村整備室農村建設課

調査日：平成16年11月25

本遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東方約3.2kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部に立地している。遺跡の現況は宅地と水田、畠地となっており、標高はおよそ78m前後を測る。

今回の調査は、は場整備事業に係る排水路設置予定箇所を対象に8本の試掘トレーンチを設定した(T1~T8)。

調査の結果、T1から焼土を検出した。焼土は径80cmのほぼ円形で、表土から検出面までの深さは120cmであった。焼土は第Ⅲ層茶褐色土層の間から検出され、焼土の層厚は5cmで鮮やかな煙色を呈していた。焼土周辺には炭化物が多く分布していた。平成14年度の試掘調査で縄文時代の包含層や土坑等が検出されていることから、縄文時代の竪穴住居跡の炉の一部である可能性が考えられる。T2~T8は急傾斜の斜面に設定した。斜面の下は土創溝となっており、周辺は地山がむき出しになっているところもあった。これらのトレーンチからは埋蔵文化財は確認されなかった。



第103図 大西橋Ⅱ遺跡位置図



第104図 大西橋Ⅱ遺跡調査区位置図

24 は場整備事業 八重畠地区

中村遺跡 (ME 06-2387)

所在地：栃木郡石鳥谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

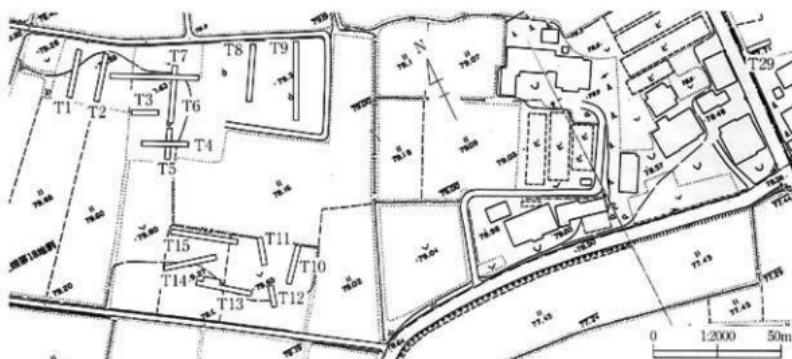
調査期日：平成16年11月26日・27日

本遺跡は、JR東北本線花巻空港駅の東方約2.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部付近に立地している。遺跡の状況は宅地と水田、畠地となっており、標高はおよそ79m前後を測る。今回の調査は、は場整備事業に係るもので切土予定の水田と農道及び排水路設置予定箇所を対象に15本の試掘トレンチを設定した (T1~T15)。

調査の結果、T13から竪穴住居跡とT15から溝跡を検出した。T13で検出した竪穴住居跡は、径6mの円形状を呈し。表土からの検出面である地山までの深さは38cmであった。埋土は暗褐色土で焼土と炭化物を多量に含んでいた。住居跡の中から検出された焼土は、住居跡の東側と北側の2箇所であった。東側の焼土は径60cmの概ね円形で、厚さは5cm以上であった。北側の焼土は、径45cmで、厚さは3cmであった。粒状の炭化物が広い範囲から確認された。この住居跡の北側に設定したT15から溝跡を1条検出した。遺構は南北に伸びており、幅は60cmで表土から検出面までの深さは40cmであった。埋土はしまりのある暗黒褐色で微量の炭化物を含んでいた。遺物は出土しなかったが、住居跡周辺のトレンチから縄文土器片が出土しており、遺跡南端部を中心に縄文時代の集落跡が所在していると考えられる。



第105図 中村遺跡位置図



第106図 中村遺跡調査区位置図

25 は場整備事業 八重畠地区

中村遺跡 (ME06-2387) 隣接地

所在地：稗貫郡石巻市八重畠地区

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期間：平成16年12月10日

調査対象区は、JR東北本線花巻空港駅の南東約3kmにあり、北上川左岸の河岸段丘上に立地し、南側を中村遺跡、北側を大西遺跡に挟まれた場所に立地している。現況は主に水田と休耕田を利用した畑地となっていて標高は約79m前後を測る。今回の調査はは場整備に係わるもので、切土田面が対象である。調査対象区に近世屋敷があった話や農作業の際に遺物が出土した話が現地の人たちからあったことから、事業者と当課で協議し試掘調査を行うこととなった。調査対象箇所に4本のトレーニングを設定した(T1~T4)。

調査の結果、畑地に設定したT3において、柱穴2基、焼土造構1基を確認した。いずれも耕作土直下基本層序第Ⅱ層上面において検出した。柱穴の大きさは共に30×30cmあり、南北方向に並び、一間が120cmであった。柱穴埋土上面で土師器を検出したことから古代以降の掘立柱建物跡の可能性がある。焼土造構の大きさは40×40cmの大きさで、土師器を確認した面とはほぼ同じ高さの検出面であったが、縄文土器も数cm下の面で検出していることから、作られた年代は判断できなかった。焼土造構は耕作土直下で確認されたことから、造構上面はすでに掘削されたと判断した。

遺構検出面である基本層序第Ⅱ層の広がりを確認するためにT4を設定した。その結果、畑地の畦畔部分までは確認できたが、隣接の水田部分では耕作土直下基本層序第Ⅲ層であった。造構が確認された畑地部分は、隣接する水田より若干高位であったため、開田の際にあまり切上されることなく、遺構検出面が残ったと推測される。



第107図 中村遺跡隣接位置図



第108図 中村遺跡隣接地調査区位置図

26 ほ場整備事業 大明神地区

上野々遺跡 (L E97-2160)

所在地：神戸市石鳥谷町字新堀地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成17年1月27日

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の南東約3.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は宅地と水田、畠地となっており、標高はおよそ88.5m～89.0m前後を測る。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、切土予定の水田とバイブルайн設置予定箇所を対象に12本の試掘トレッソを設定した（T1～T12）。

調査の結果、T2から竪穴住居跡を1棟、T12から陥し穴状遺構を1基、T6とT11から土坑をそれぞれ2基と3

基、計5基検出し、T6からは溝跡を3条検出した。T2の南側で検出した竪穴住居跡は、1辺が4m以上で方形を呈していた。検出面は耕作土直下の黄褐色ローム層で、埋土（暗褐色土）には土器片が含まれていた。表土から検出面までの深さは20cmだった。T12で検出した陥し穴状遺構の長軸は300cmで、幅は60cmの溝状を呈し、南北に延びていた。埋土は黒褐色土で、表土から検出面である黄褐色土までの深さは40cmである。T6とT11で検出した土坑は、径2mが1基・径1mが3基・径0.6mが1基の計5基である。T6で検出した土坑は、表土から検出面までの深さは30cmで埋土は暗褐色土である。T12で検出した土坑は、表土から検出面までの深さは35cmで、埋土は黒褐色土で炭化物を微量に含んでいた。T6から検出した南北に延びる溝跡は幅が50cmで表土から検出面までの深さは20cmである。東西に延びる2条の溝跡は、幅はそれぞれ1.7m・1.5mで、表土から検出面までの深さは30cmであった。検出された溝跡の埋土はすべて暗褐色土であった。

今回の調査では、古代の竪穴住居跡を1棟検出した。平成14年度の調査において、調査区東側から古代の竪穴住居跡等を検出していることから、古代の遺構が西側に延びることがわかった。遺物は出土しなかったものの、調査区周辺には古代の集落跡が所在する可能性が高い。



第109図 上野々遺跡位置図



第110図 上野々遺跡調査区位置図

27 中山間地域総合整備事業 弁天地区

貝沢野Ⅱ遺跡 (L E 60-2202)

所在地：和賀郡沢内村川舟地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室長

調査期日：平成16年6月28日・29日

7月1日・2日

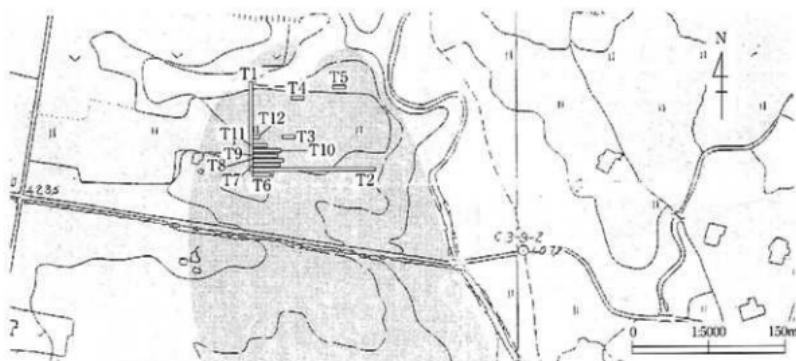
本遺跡は、沢内村役場の北北東約16kmにあり、南流する谷地川の支流及び大荒沢川によって開削された丘陵状の緩斜面に立地している。現況は主として牧野で、標高は、約427~455m前後を測る。今回の調査は、は場整備に必要な客土の土取り場候補地が対象で、調査対象区域に12本のトレンチを設定した(T1~T12)。調査対象区域には、すでに土取りされてある部分があったが、旧地形が良好に残存していると思われる部分を中心トレンチを設定した。本遺跡は、旧石器時代の散布地として周知されていたため、重機による掘削は、表のみとし、その下層からは人力により精査を行った。

調査の結果、T6で直径40cmの円形の炉跡を検出した。埋土に炭化物を含み、炉底面が還元していることから製鉄に関連した遺構の可能性が考えられる。T11では埋土に炭化物を含む黒色土が堆積した直径55cmの円形の土坑を検出した。遺物等が含まれないことから時期は不明である。T8では現地表面下約30cmのところで縄文土器1片を検出しが、土取り等により後世に改変を受けている場所であり、遺構に伴うものか不明である。T1~T4では土色の違いから旧石器時代の遺物を包含する可能性のある第V層まで掘り下げたが遺構・遺物とも確認されなかった。

試掘の結果、本遺跡は旧石器時代及び縄文時代の複合遺跡であることが分かった。また、遺構が斜面の縁部で確認されていることから、遺跡の中心は今回調査区西側の平坦部に広がると考えられる。



第111図 貝沢野Ⅱ遺跡位置図



第112図 貝沢野Ⅱ遺跡調査区位置図

28 ほ場整備事業 更木新田地区

駒板遺跡 (ME 36-2371)

所在地：花巻市東十二丁目、北上市更木本地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年11月9日・10日、12月22

日、平成17年1月25日、2月8日、

2月28日～3月1日（7日間）

遺跡は北上市と花巻市の境にまたがる北上市更木、花巻市東十二丁目に所在し、北上川左岸の沖積平野に立地する。昨年度行われたほ場整備に先立つ試掘調査において、縄文時代、平安時代の遺構、遺物が発見されている。また、中央を流れる稗貫田排水路改修工事に伴う発掘調査では、縄文時代の遺物包含層が発見されている。

事業地内の埋蔵文化財の範囲を確認し、今後予定されている設計等の基礎資料を得るために試掘調査を実施した。都合95本の試掘トレンチを設定した。T4、T6、T9、T21、T25では縄文土器、T22では縄文土器、石器、T16、T27では土師器、T19では土坑1基、骨片、T23では焼土、炭化物層、和釘が1点出土した。陥し穴状遺構はT38で1基、T45で2基、竪穴状遺構はT51、T74で各1基、土坑がT39、T51、T58、T75、T91で各1基、T59、T60、T94で各2基、溝がT52、54、55で各1条、T94で2条、T93で3条、柱穴はT56で3基、T57で1基、T61、T97で2基、T92で方形周溝1基が発見された。今回の調査区南側では遺構確認面が2面あることが判明した。



第113図 駒板遺跡位置図



第114図 駒板遺跡調査区位置図

29 ほ場整備事業 更木新田地区

M E 36-2330 遺跡

所在地：花巻市東十三丁目地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年11月9日・10日、11月24日・25

日，12月16日·17日 計6日

本遺跡は、花巻市役所の南東方向約4.5kmに位置し、北上川によって形成された沖積地上の微高地に立地している。遺跡の現況は、主に宅地、畠地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、排水路設置予定箇所及びバイパス埋設予定の農道設置箇所、切土予定の田面を対象とし、調査対象箇所にトレントチを15本設定した(T1~T15)。

調査区内における基本層序は、第Ⅰ層耕作土である表土層、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層暗褐色土(旧表土か)、第Ⅳ層漸移層(検出面)、第Ⅴ層黄褐色土(地山)であった。T1及びT2においては第V層までの深さは約1mと深く、遺構は確認できなかったが、遺物は表土内に含まれていた。T3の東端側では、表土から地山面までは約1mであったが、西端側に向かって徐々に浅くなり、トレンチ西端付近において、柱穴状ピット2基が検出された。畑地脇の水田に設定したT4においては、柱穴状ピット4基、土坑1基、現畑地脇に設定したT8～T10においても、柱穴状ピット9基が確認された。特にT8においては、第Ⅱ層から、内黒処理された土器類の环1点が出土した。T5～T7を設定した畑地は、過去に表土下約2mまで土取による擾乱が見られた。この擾乱層の下は、黄褐色砂層、黄褐色砂礫層であった。ME36-2330遺跡とME36-2342遺跡との境界付近にある水田に設定したT13において、縄文時代の包含層が1カ所確認された。この包含層は、晚期の上器を主体としており、第Ⅲ層上面で確認されている。ME36-2342遺跡内に設定したトレンチにおいて、表土内からではあるが縄文土器片数点出土していることから、水田造成時の地形改変を受けているものの、周囲に縄文時代の集落が所在していると推測した。以上のことから、本遺跡は、縄文時代と古代の複合遺跡であると思われる。



第115図 ME36-2330遺跡位置図



第116図 M E 36-2330遺跡調査区位置図

30 ほ場整備事業 更木新田地区

ME36-2352遺跡

所在地：花巻市東十二丁目地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年11月9日・10日、11月24日・25

日、12月16日・17日、20日～22日 計9日

本遺跡は、花巻市役所の南東方向約4.5kmに位置し、北上川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡の現況は、主に宅地、畑地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであるが、本遺跡は、今回の試掘調査時に新規発見されたものであるため、排水路設置予定箇所及び切り予定の田面を主に対象とし、遺構の広がりを確認しながら104本のトレーニングを設定した（T1～T104；盛土予定の田面における試掘トレーニングについては、表土直下に遺構検出面が所在しているかどうかの確認を目的として設定しているため、すべての盛土予定箇所に設定したトレーニングで遺構検出面まで掘り下げているものではない）。T2、T3、T6、T51において、古代のものと思われる堅穴住居跡が検出された。今回の調査区における基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層暗褐色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層暗褐色土（検出面1）、第Ⅴ層漸移層、第Ⅵ層黄褐色土（検出面2、地山）の順であり、場所によっては、第Ⅱ層～第Ⅴ層までが所在していない箇所もあった。T2、T51で検出された古代の堅穴住居跡は、第Ⅳ層上面（検出面1）で検出された。堅穴住居跡の埋土には、大量の炭化物粒及び焼土粒が含まれていた。土坑及び柱穴は、第Ⅵ層上面（検出面2）で検出された。その他、縄文時代前期の土器を含む包含層が1カ所第Ⅴ層上面で検出された。この包含層の厚さは、約30cmほどであった。土器は、現在の堤防付近の水田から多く出土し、これらの箇所からは土師器等は確認できなかった。土師器は、現在の宅地周辺の田面から広く出土している。以上のことから、今回調査した区域は、土器の分布状況及びそれらの時期等から、南接する周知の遺跡「駒板遺跡」の範囲が北に延びている部分（主に縄文）と、近接するME36-2342遺跡と連続する自然堤防上に営まれた集落跡（主に古代）が複合して所在している遺跡であると推測した。



第117図 ME36-2352遺跡位置図



第118図 ME36-2352遺跡調査区位置図

31 ほ場整備事業 更木新田地区

ME36-2342遺跡

所在地：花巻市東十二丁目地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年11月9日・10日、11月24日・25

日、12月16日・17日 計6日

本遺跡は、花巻市役所の南東方向約45kmに位置し、北上川によって形成された沖積地上の微高地に立地している。遺跡の現況は、主に宅地、畑地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、排水路設置予定箇所及びパイプライン埋設予定の農道、切土予定の田面を対象とし、トレンチを6本設定した(T1～T6)。

排水路設置予定箇所に設定したT5において、竪穴住居跡1棟が検出され、その埋土上には、土師器の壺の口縁部片が含まれていた。また、この竪穴住居跡に近接して焼上遺構1基が検出されたが、住居跡等の明確なプランは確認できなかった。水田造成時の地形変更により、遺構埋土の大半が削平されたものと推測した。

遺物については、土師器の他に、T2、T6において、表土内からではあるが、摩滅した縄文土器片が出土している。今回の調査では、出土した縄文土器に結びつくような遺構は確認されず、近接するME36-2330遺跡の試掘調査において、縄文時代の遺物包含層が確認されていることから、本遺跡における縄文土器は、周囲から流れ込んだものと推測した。



第119図 ME36-2342遺跡位置図



第120図 ME36-2342遺跡調査区位置図

32 ほ場整備事業 江釣子第一地区

新平遺跡 (ME55-0081)

所在地：北上市江釣子地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査日：平成16年10月20日

本遺跡は、JR東北新幹線北上駅より北東約6.6kmに位置し、北上川支流の新堰川が形成した沖積地上に、舌状に張り出した丘陵上に立地している。

新平遺跡は、過去に発掘調査が実施され、その発掘成果等から古代駅家擬定地として、遺跡の一部が昭和38年に県指定史跡の指定を受けている。本遺跡は、平成12年度実施の分布調査により、遺跡範囲が拡大している。試掘調査は、平成15年にすでに実施済みではあるが、今回の調査は、ほ場の設計変更に伴って改めて切土となる田面を対象とし、また、要本調査範囲内における検出面標高の再確認等を目的とするものである。調査対象区域に12本のトレンチを設定した (T160～T171；トレンチ番号は、混乱を避けるために前回調査時の番号に連続させてある。)。

本遺跡における基本層序は、第Ⅰ層表土（現水田耕作土。土器片が混じる。）、第Ⅱ層黄褐色土（小穢を多く含む。）、第Ⅲ層暗褐色土（旧水田耕作土か。土器が混じる。）、第Ⅳ層極暗褐色土～黒色土（縄文時代の包含層か。）、第Ⅴ層黄褐色シルト（地山）となっている。今回の調査におけるほとんどのトレンチでは、基本層序の第Ⅱ層、第Ⅳ層が所在せず、第Ⅰ層、第Ⅲ層、第Ⅴ層という層序であり、過去の水田造成等により大きく地形変化されていることが伺えた。T161においては、80cm×90cmの土坑1基、T164においては、40cm×60cmの土坑1基が検出されたほか、柱穴状ピットは、T160では2基、T166では2基、T169では1基と計5基が検出された。柱穴状ピットは、いずれも径20cm～30cm大で、埋土に土器片が含まれているものもあった (T169)。遺物については、T160、T162の表土内からではあるが、摩滅した土師器片2点が出土した。今回の調査では、基本層序の第Ⅳ層が見られなかったためか、縄文時代の土器は確認できなかった。



第121図 新平遺跡位置図



第122図 新平遺跡調査区位置図

33 は場整備事業 江釣子第一地区

芦葦遺跡 (ME55-0068)

所在地：北上市新平地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

農村建設課

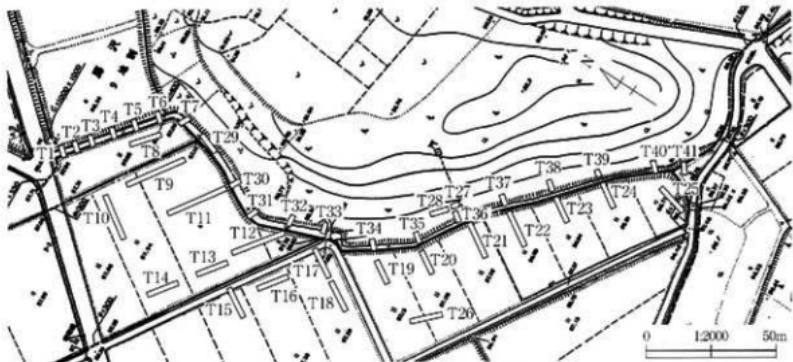
調査日：平成16年12月13日・14日

本遺跡は、JR東北新幹線北上駅の北北東約6.3kmに位置し、北上川支流の新堀川が形成する沖積平野微高地に立地する。遺跡の標高は86m前後で、現況は主に水田と宅地、山林となっている。今回の試掘調査は、は場整備事業に伴い農道及び水路設定箇所、切土となる田面が対象で、事業予定箇所に試掘トレンチを41本設定した(T1～T41)。



第123図 芦葦遺跡位置図

調査の結果、T29とT30から須恵器片と土師器片が出土し、T31から溝跡を検出した。T29の地表面から須恵器片と思われる土器を確認した。須恵器片は、土飼溝を掘削した際に下層から掘り出された可能性が高い。更にT29の第Ⅲ層から、土師器片を数片出土した。表土から土器目までの深さは55cmであった。第Ⅲ層の黒色上下層には、土師器片、須恵器片が無数に含まれおり、微量の炭化物も確認されたことから、遺物包含層であると判断した。田圃の畦畔にまでトレンチを延長した結果、旧地層が残っている箇所から土師器が出土した。表土から出土した土器までの深さは40cmであった。T30も第Ⅲ層から黒色土の包含層を確認した。土師器片が数点出土し、微量の炭化物が認められた。表土から出土した土器までの深さは75cmであった。T16と同様に田圃の畦畔までトレンチを延長したが、一部黒色土が認められたが、ほとんどは地山との攪乱が確認され、土器は出土しなかった。T31から検出した溝跡は幅は55cmで、地表から検出面である地山までの深さは105cmであった。埋土はややグライ化した黒色土であった。溝跡は南北に延びており、北側の微高地から延びていると推測される。その他のトレンチは、地山まで掘削されており構造・遺物とも確認することはできなかった。地権者の話で、開墾するときに土器が大量に見つかったことなどからも、近くに古代の集落があった可能性は高い。



第124図 芦葦遺跡調査区位置図

34 ほ場整備事業 古城地区

要害遺跡 (N E 46-1244)

所在地：群馬県前沢町古城地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査日：平成16年11月15日、平成17年1月6日

本遺跡は、JR東北本線前沢駅の北側約2kmに位置し、沖積地上の微高地に立地している。標高は33m前後、現況は主に水田と宅地である。

今回の調査は経営体育成基盤整備事業に係るもので、平成16年11月15日にはバイオライン埋設予定地を対象に、平成17年1月6日には主に切土予定の田面を対象として調査地に21本のトレーニング (T1~T21) を設定した。

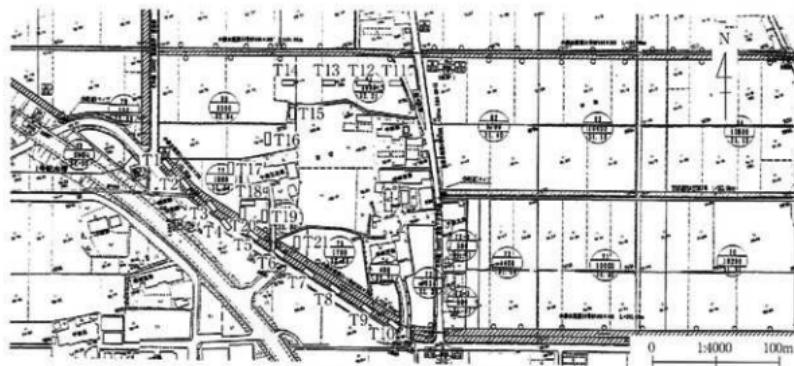
調査の結果、周知の道路範囲で標高の高い畠地では、第IV層上にプライマリーな暗褐色土が遺存しており、現況の宅地及び畠地となっている部分では地形の改変は少なく、遺構の残存状況も比較的良好と推測されたが、水田部では昭和30年代のは場整備によって旧地形が削平改変されていて、耕作土直下の大半が第III層の地山、所によっては耕作土直下がIV層疊混じりの地山となっていた。現況で最も低い北側の田面では耕作土直下の第IV層地山は全体的にグライ化しており、旧河道と思われる不整な筋状の産みも数箇所確認されたことから、湿地で遺跡外と判断された。

検出された遺構は、標高の高い畠地に設定したT15で幅60~120cmの溝跡3条と径約80cmの土坑2基、現在の宅地の周辺となる水田部に設定したT16で径約30cmの柱穴1基、T19で幅約2.5mの堀跡1条、T20で堀跡の残存部と思われる幅70cmの溝状遺構が検出された。

本遺跡は環濠屋敷として周知されており、現況では環濠が確認されないことから、位置的に一連のものと推定されるT19とT20の堀跡が環濠と考えられる。



第125図 要害遺跡位置図



第126図 要害遺跡調査区位置図

35 は場整備事業 龜沢地区

亀田遺跡 (N E 46-1252)

所在地：胆沢郡前沢町古城字亀田地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査日：平成17年1月6日

本遺跡は、前沢町役場の北北東方向約2.1kmに位置し、沖積地上の微高地に立地している。現況は宅地となっており、遺跡の標高は33m前後を測る。本遺跡は、沖積の環濠跡として周知されているが、現地表面の観察によつても、土塁状の高まり及び濠跡らしき凹み部分が認められる。調査対象区域に6本のトレンチを設定した (T1~T6)。

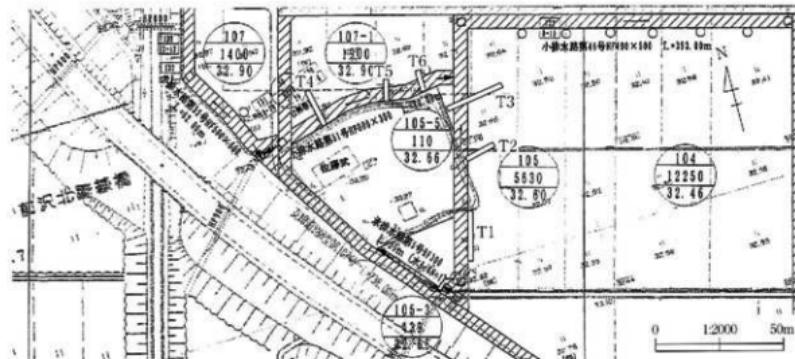
トレンチは、土塁状の高まり及び樹木が植栽されていたため、この植栽を避けながら土塁状の高まりの一部を掘削するようにトレンチを設定した。

本遺跡における基本層序は、第Ⅰ層表土(場所によっては水田耕作土)、第Ⅱ層褐色土、第Ⅲ層暗褐色土(旧表土)、第Ⅳ層漸移層、第Ⅴ層黄褐色粘土層(地山：一部のトレンチではグライ化している)であった。遺跡の北側にある現土水路を直交するようにT4~T6を設定した。この現土水路を掘り下げたところ、第Ⅲ層である旧表土を掘り込んで掘削されていることから、堀跡であると推測され、土塁状の高まりも堀跡を掘り上げた土で造られていたことがわかった。

T1及びT2では、堀跡らしき掘り込みは、試掘トレンチからは確認できず、遺跡範囲に隣接する水田部分においても、表土直下に第Ⅳ層があらわれることから、水田造成時に地形変化を受けていることが伺えた。遺物については、T1の耕作土内から、縄文時代のものと思われる石器の未製品が出土したが、遺構は確認できなかった。また、調査未了区となつたパイプライン埋設予定の道路拡幅予定箇所部分脇の凹みも環濠の一部であると思われる。



第127図 亀田遺跡位置図



36 ほ場整備事業 増沢東部地区

岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡 (ME97-0365)

所在地：江刺市岩谷堂地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年10月18日・19日、

11月1日・2日、5日

本遺跡は、江刺市役所から北東へ約3kmの水田地帯に位置しており、平成16年度には(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され、平安時代の水田跡等が発見されている。

ほ場整備事業実施に伴い、試掘調査を実施した。調査の結果、次の箇所で遺構、遺物が発見された。

T9では、南北に延びる溝跡1条、繩文土器、弥生土器、土師器が発見された。T18、T20、T42～T45では十和田a降下火山灰に覆われた水田跡が発見され、T18、T42では畦畔跡が確認された。T20では水田跡より新しい溝跡2条があり、近世のものと考えられた。T45において溝跡1条、T34ではピット3基、T53ではピット1基、T35、T36、T38ではピットが各2基、T33では土師器1点、T20、T48では近世陶磁器が発見された。なお、T49、T51、T52においても火山灰が確認されたが、堆積の方向、厚さから、遺構の埋土に堆積したものではなく、自然地形上に堆積したものと判断した。(平成17年度発掘調査予定)



第129図 岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡位置図



第130図 岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡調査区位置図

37 は場整備事業 白山地区

合野遺跡 (N E47-0084)

所在地：胆沢郡前沢町白山地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年11月4日・5日、8日～11日

12月6日・7日、20日～22日

(11日間)

本遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東約2.3kmに位置し、北上川右岸の沖積平野に立地している。北東側に道上遺跡、南北側には白山上野遺跡が隣接する。標高は29～32mを測るが、地形的に標高30m以上の一級高い微高地部分が遺跡の主体部にあたる。現況は主に水田となっている。

今回の調査は経営体育成基盤整備事業に係るもので、農道・排水路設置予定箇所及び切土予定の田面を主たる対象として試掘を行った。現況の地形では、遺跡中央でおよそ東西方向に延びる旧河道と思われる低位部が認められ、この南北両側は高低差約1mほどの高い微高地となっていたことから、あまり大規模な掘削による地形の改変もなく、旧地形を良好に留めているように見受けられた。試掘はこの南北両側の微高地から着手し、西側及び南側の低位部への遺構・遺物の広がりを確認することとして進めたところ、南側は白山上野遺跡に接するまで遺跡範囲が拡大し、結果的に計133本 (T1～T133) のトレーンチを設定するに至った。



第131図 合野遺跡位置図



第132図 合野遺跡調査区位置図

調査の結果、上記の中央部東西方向の低位部のほかに、現況でさらに一段低い南東部でもおよそ南北方向に延びる旧河道が確認された。地形の連続性からは北側の高台は本来道上遺跡の南端と捉えられ、合野遺跡としては2本の旧河道の間となる南側の高台を中心とし、古代に関しては南西側のT109・T117・T120・T122・T127～T131で確認された連続すると推定される一連の溝跡で区切られるものと考えられる。また、全体的に重機等による大規模な地形改変はなかったが、ほぼ全域で多少とも開墾削平が行われたと考えられる層序の様相を呈し、基本層序の第Ⅱ層黒褐色土（古代の遺物包含層）は北側高台の西端と南側高台の西部でわずかに確認されたのみで、第Ⅲ層のグライ化した灰褐色砂質土は旧河道部のみ、第Ⅳ層褐色土（遺構検出面）は北側微高地東部と南側微高地の南縁及び西部に残存していたが、低位部も含めて多くは表土下が第Ⅴ層黃褐色土（地山・遺構検出面）という状況となっており、特に南側高台の北半は第Ⅵ層明黃褐色土のところが多く、削平が著しいためか、遺構の分布状況は希薄となっていた。

検出された主な遺構には、北側高台の東部に設定したT30で绳文時代と推定される直径約3mほどの円形を呈する竪穴住居跡1棟、南側高台の南部と西部に設定したT14・T19・T21・T51・T121では古代と推定される一辺約4mほどの隅丸方形を呈する竪穴住居跡6棟、このうちT14で検出された竪穴住居跡からは楕形鍛冶溝が出土しており、古代の鍛冶工房の存在が推測される。西側低位部に設定したT92では、本遺跡の北西に位置する道上遺跡と川前遺跡でも確認されている古代と推定される方形周溝1基が検出された。このほか陥し穴6基、土坑47基・溝跡45条や多数の柱穴状ピットがほぼ全域で確認された。

38 ほ場整備事業 白山地区

川前遺跡 (N E 47-0072)

所在地：胆沢郡前沢町白山字川前地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年12月6日・7日、12月10日

本遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東方向約2.3kmに位置している。現況は主に畑地及び水田となっており、標高は約31m前後を測る。本遺跡は、道上遺跡、合野遺跡、川前遺跡に近接して所在しており、道上遺跡隣接地として試掘調査を行った結果、埋蔵文化財が確認されたため、新規遺跡として試掘調査を実施した。調査対象箇所に42本の試掘トレンチを設定した (T1~T42)。

T1において、水田造成時により旧地形が削平を受けていたものの、方形周溝が1基確認された。この方形周溝の埋土には、摩滅はしていたが、平安時代のものと思われる土師器片が含まれていた。この方形周溝の規模は、約5m四方で溝の幅は約70cmであったが、墳丘主体部は、地形改変により残存していないと推測した。T8、T9、T10、T12、T4において、溝が検出された。特にT8において検出された溝は、規模及びその方向性から合野遺跡で検出された溝に連続するものであると思われる。T14においては、十和田さ降下火山灰が広がって確認され、その火山灰層の下層には黒褐色土が見られた。このトレンチ内において、火山灰が確認されている部分と全く確認できない帯状の箇所があったことから、水田状造構が所在している可能性があると推測した。遺物については、土師器、須恵器が出土したが、方形周溝以外では、水田耕作土内からの出土であった。現水田部分においては旧表土と推測される暗褐色土が認められず、表土直下に地山である褐色粘土質シルト層があらわれる箇所が多かったことから、旧地形が良好に残存している部分は島状の微高地のみであると思われた。今回の試掘調査において、住居跡等が確認できなかったが、周辺に所在している可能性があると推測した。



第133図 川前遺跡位置図



第134図 川前遺跡調査区位置図

39 ほ場整備事業 白山地区

道上遺跡 (N E47-0045)

所在地：胆沢郡前沢町白山字合野地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

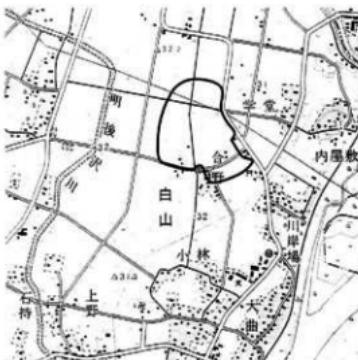
調査期日：平成16年10月6日、11月9日・10日、
12月6日・7日、平成17年3月7日

本遺跡は、JR東北本線中折駅の南東約2.7kmにあり、北上川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は主として水田及び畑地で、標高は80m前後を測る。昨年度、遺跡の北側を当課で試掘調査したところ、古代の住居跡、時期不明の溝跡や土坑等の遺構を確認し、土師器や縄文土器が出土した。また、近接する合野遺跡でも縄文時代や古代の遺構や遺物が確認されている。今回の調査は、経営体有成基盤事業によるもので水路設置箇所、道路敷設箇所、田面の切土部分が対象である。調査対象箇所に52本のトレーンを設定した(T1～T52)。

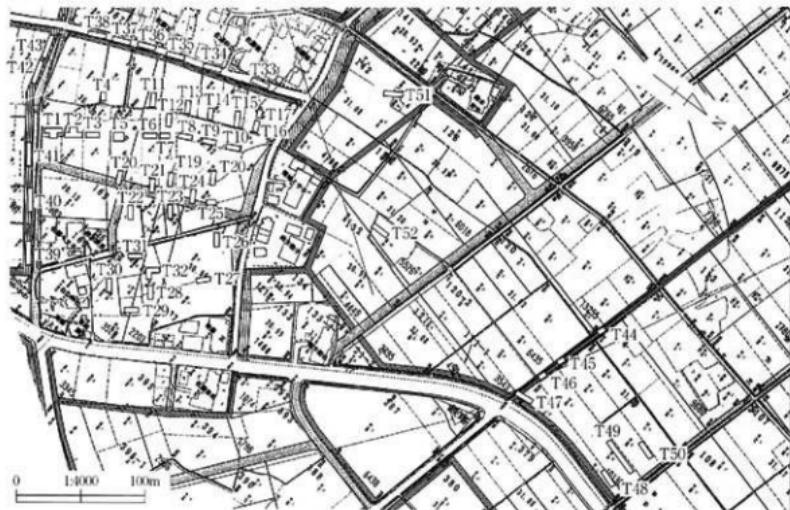
調査の結果、土坑4基、埋設土器1基、柱穴3基、焼土遺構1基、溝4条、遺物包含層を確認した。遺物は縄文土器、土師器が多数出土した。墓地脇の畑に設定したT4では、第IV層(褐色土)上面で石皿と土坑2基、埋設土器を確認した。T5を設定した畑地は、疊が100cmあり、その下層から古代と縄文時代の遺物包含層を確認した。このT4、T5の設定箇所は、墓地近接であったり開田の際に周囲の残土を集めた場所であったため、残存状況は良好であった。遺物包含層はT5～T20、T23を設定した田面で確認した。T6、T7、T8の中央部では、比較的遺物量は多かったが、端に向かうにしたがって希薄になった。試掘は遺物包含層の上面で止めているが、遺物包含層下層にはT4の状況から多数の遺構が存在するものと予想される。

調査区北端に設定したT4～T50周辺は、表土直下に検出面である褐色粘土質土が確認されたことから、水田造成時に旧地形は大きく改変されていることが伺えた。しかしながら遺構は所在しており、柱穴12基、溝1条を確認した。調査区中央のT51では、土坑1基、T52では、土坑1基、柱穴5基を検出した。

今回の調査対象区や周辺の遺跡で遺構や遺物が数多く確認されていることから、縄文時代及び古代の大集落の一部と考えられる。



第135図 道上遺跡位置図



第136図 道上遺跡調査区位置図

40 ほ場整備事業 鮎沢地区

可能性ありNo5

所在地：胆沢郡金ヶ崎町和光地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年8月18日

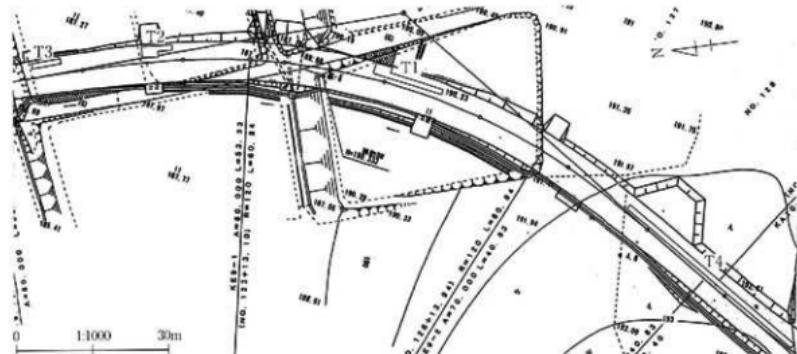
今回の調査対象区域は、JR東北本線金ヶ崎駅の南西約8km付近に位置し、山地から延びる尾根の端部に立地している。標高は190m前後を測り、現況は主に水田及び山林となっている。今回の調査は、農免農道整備事業に伴い、新設農道設置予定箇所が対象である。調査対象区内に4本のトレーニングを設定した(T1~T4)。

現在休耕田となっている田面にT1を設定した。周囲の地形とこの田面を観察すると、水田造成によるものと推測される削平の跡が認められた。今回の調査区における基本層序は、第I層表土(耕作土)、第II層(盛土)、第III層暗褐色土(旧表土か)、第IV層漸移層、第V層黄褐色土(地山)となっている。T1の中央部から南側にかけての層序は、第I層直下に第V層の黄褐色土が見られたことから、すでに旧地形が大きく地形改変されていることが伺えた。ところが、T1の中央部から北側にかけては、旧来の地形が北側に向かって緩やかに傾斜していたために現在の水田を造成した際に、盛土を施した箇所であることがわかった。この北側部分を掘り下げたところ、第II層下には旧表土と思われる暗褐色土があらわれ、第III層中から、釘と思われる鉄製品及び土師器の壺の底部と思われる土器片1点が出土した。第III層を掘り下げたところ、第III層下に十和田a降下火山灰と思われる灰白色の火山灰ブロックが検出された。また、この灰白色火山灰が検出された箇所の断面を観察したところ、人為的な掘り込みの形跡が観察されたことから、土器片及び鉄製品が出土し、灰白色火山灰がブロックで検出された箇所は、古代の堅穴住居跡である可能性があると推測した。

さらに、このT1においては、140cm×110cm大的土坑1基、40cm×30cm大的柱穴状ビットも検出されている。T1を設定した田面より標高の低い水田に設定したT2~T4においては、トレーニング内の層序から、旧地形が大きく改変されていることが伺え、遺構及び遺物は確認できなかった。



第137図 可能性ありNo5 位置図



第138図 可能性ありNo5 調査区位置図

41 ほ場整備事業 猫川左岸地区

林崎Ⅲ遺跡 (MF66-2128)

所在地：遠野市上郷町林崎地内

事業者：遠野地方振興局農政部農村整備室

調査日：平成16年11月18日

本遺跡は、遠野市役所の南東方向約7.7kmに位置し、猫川によって形成された扇状地上に立地している。調査区は、緩やかに西向きの斜面となっており、現況は、主に畠地と宅地となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、排水路設置予定箇所及び砂利敷農道設置予定箇所が対象である。調査対象箇所に5本のトレーニングを設定した (T1～T5)。

南面する僅かに緩やかな西向き斜面となっている畠に設定したT3、T4において、陥し穴状遺構がそれぞれのトレーニングで1基ずつ検出された。

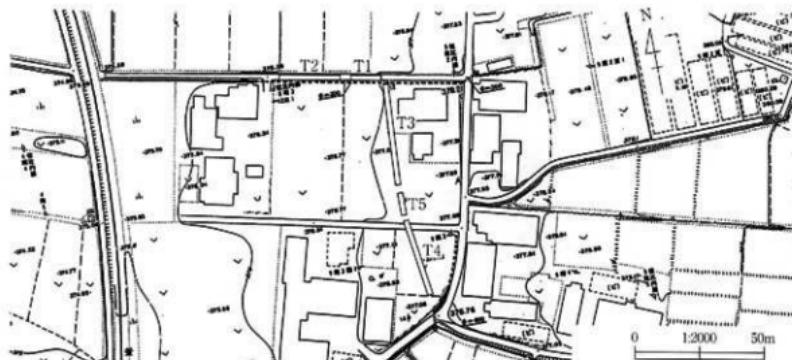
T3で検出された陥し穴状遺構は、長さ400cm、幅60cmの規模であり、T4で検出された陥し穴状遺構は、長さ250cm、幅50cmの規模で、埋土上面には縄文土器片1点が含まれていた。今回の調査における基本層序は、第Ⅰ層表土（耕作土）、第Ⅱ層盛土、第Ⅲ層黒色土（旧表土か）、第Ⅳ層暗褐色土（検出面）、第Ⅴ層黄褐色砂質土であり、これらの陥し穴状遺構2基とも、第Ⅳ層上面で検出されている。

遺物については、陥し穴状遺構の埋土に含まれている縄文土器片以外は確認できなかった。

現在宅地脇の畠地に設定したT1においては、基本層序の第Ⅱ層から第Ⅳ層までの層が所在せず、T2の西側部分では、厚い盛土が施されていた。T3の北側部分もT1と同様の層序を示していることから、今回の調査区は、旧地形において標高の高い部分を削平し、標高の低いところへ盛土を施して畠地を造成した箇所であると推測した。



第139図 林崎Ⅲ遺跡位置図



第140図 林崎Ⅲ遺跡調査区位置図

42 ほ場整備事業 猫川左岸地区

火尻 I 遺跡 (MF66-118)

所在地：遠野市上郷町林崎地内

事業者：遠野地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年11月19日

本遺跡は、遠野市役所の南東方向約7.5kmに位置し、猫川によって形成された扇状地上に立地している。遺跡の現況は、主に宅地及び水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、排水路設置予定箇所及び切土予定の田面が対象である。調査対象区には6つのトレンチを設定した（T1～T6）。今回の調査対象区域は、緩やかに西側に向かって傾斜している。

今回の調査区における基本層序は、第I層表土、第II

層盛土、第III層暗褐色土、第IV層暗褐色砾層、第V層黄褐色砂層（洪水堆積層か）、第VI層黒色土（旧表土か）、第VII層暗褐色土（検出面）、第VIII層黄褐色砂質土、第IX層黄褐色砂砾層（旧河道か）となっていた。

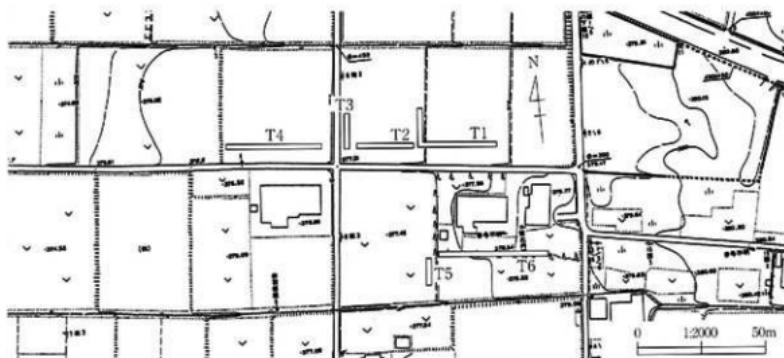
T1～T3においては、第I層、第II層、第IX層の順となっており、水田造成時による地形変化が伺えた。T4においては、径60cm大の土坑1基、住居状遺構1基が検出された。

この遺構については、明確なプランは検出できなかったものの、30cm×30cmの範囲で土器が集中して出土していること、遺構の埋土と思われる堆積土の色調と検出面の色調との微妙な違いがあることから、住居状遺構ではないかと推測した。トレンチにおける断面を観察したが、水田造成による地形変化を大きく受けしており、人為的な掘り込み等は確認することはできなかった。

この遺構の周囲には、焼土及び炭化物等は確認できなかった。T6においては、第VI層から縄文土器の深鉢の底部片が出土したが、遺構は確認できなかった。



第141図 火尻 I 遺跡位置図



第142図 火尻 I 遺跡調査区位置図

43 中山間地域総合整備事業 日頃市西地区

上鷹生遺跡 (N E18-2222)

所在地：大船渡市日頃市町字上鷹生地内

事業者：大船渡地方振興局農林部

調査期日：平成16年11月24日・25日

調査対象区は、JR大船渡線盛駅の北西約7kmに位置し、鷹生川や支流の沢により形成された南東向きの緩斜面に立地している。遺跡の標高は、約150m前後を測り、現況は主に水田となっている。平成3～4年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ、縄文時代の後期・晚期の遺構・遺物が数多く確認されている。また、昨年度は場整備に伴い大船渡市教育委員会により試掘調査が行われ、縄文時代の遺物が確認されている。調査対象箇所は、中山間地域総合整備実施計画に伴うもので、舗装の集落道路建設箇所が対象で、以前の発掘調査や試掘調査を行った場所の隣接地である。調査対象箇所に7本のトレンチを設定した(T1～T7)。

T1において、170cmの盛土直下から縄文時代後期～晚期と思われる土器を含む遺物包含層を確認した。遺物包含層は厚さ80cm前後であった。トレンチの半分は田面を作る際に採石場から運んできた採石により搅乱されていた。T2、T3、T4と斜面の下位に進むにつれ遺物包含層の厚さは薄くなり、T4では5cmであった。T5では、盛土直下砂礫層となっており湧水を確認した。T7においては盛土直下崖錐性礫が130cm堆積しておりその下層は砂層であった。T5～T7の付近は開田や住宅建設で地形が変更されているが、それ以前は、沢が流れていた場所であったそうである。

このことから調査対象区は、東側の緩斜面に生活の場があり、西は沢筋であったと推測される。



第143図 上鷹生遺跡位置図



第144図 上鷹生遺跡調査区位置図

44 広域農道整備事業 軽米九戸2期地区

板子屋敷3遺跡 (I F74-0096)

所在地：九戸郡軽米町大字上館字板子屋敷地内

事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成16年10月27日、11月5日

11月29日、11月30日

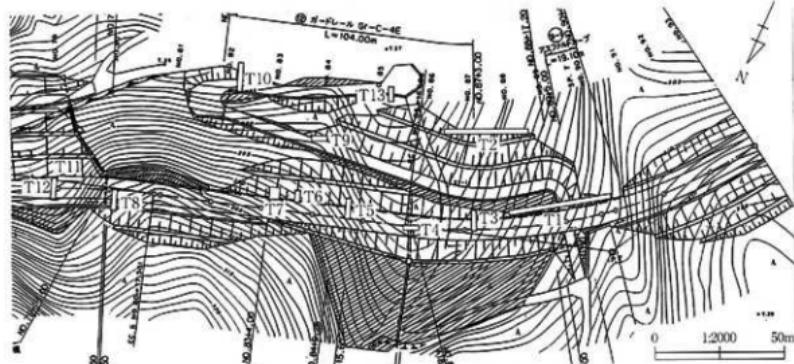
本遺跡は、軽米町役場の北東約5kmに位置し、雪谷川支流の沢により形成された河岸段丘上に立地し、埋没谷を挟んで南向きと東向きの緩斜面となっている。遺跡の標高は、280~290m前後を測り、現況は山林及び原野となっている。平成8年に軽米町教育委員会によって分布調査が行われ、縄文時代の土器が表採されている。調査対象箇所は、広域農道整備事業に伴うものである。調査対象箇所に13本のトレンチを設定した (T1~T13)。

東向きの斜面では、T1において土坑2基を確認した。いずれの土坑も直径200cmの円形を呈していた。埋没谷に設定したT4においては、基本層序第II層において縄文土器を確認した。さらに掘り下げるに、トレンチを広げなかつたため全体の大きさは確認できなかつたが、長軸200cm以上、短軸300cm、遺構埋土暗褐色土の土坑1基を確認した。T4の下位に設定したT13では、T4と同様に基本層序第II層において縄文土器を確認した。両トレンチで確認された縄文土器は摩滅している部分がほとんど無いため現地性の遺物と考えられ、付近に住居跡が存在すると推測される。埋没谷から10m高位の南向きの緩斜面に設定したT7では、斜面の基本層序第II層中に埋設土器1基を確認した。埋設土器は直径が約30cmの円形で破片から壺型の土器であると推測される。時期は縄文時代後期～晩期のものと思われる。付近に別個体の破片を確認していることから、埋設土器が他にも存在する可能性があると思われる。埋設土器が確認された場所は尾根がら舌状にのびた緩斜面であるが、一部は木の切り出し道路のために掘削されている。

以上のことから、今回の調査対象箇所は住居跡は確認されていないが、縄文時代後～晩期の集落跡の一部であり、墓域や捨て場が所在する可能性が考えられる。



第145図 板子屋敷3遺跡位置図



第146図 板子屋敷3遺跡調査区位置図

45 一般県道上斗米金田一線 豊年橋地区

道路整備事業

川口 I 遺跡 (I E79-1188)

所在地：二戸市金田一字川口地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成16年12月2日

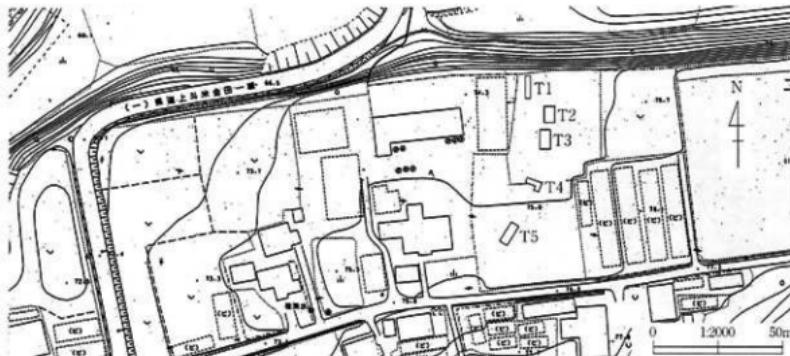
本遺跡は、IGRいわて銀河鉄道金田一温泉駅の北西約2.8kmに位置し、馬淵川左岸の河岸段丘上に立地している。標高は74~77mを測り、現況は主に畠地と宅地である。

今回の調査は、一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業に係るもので、段丘線となる調査地にT1~T5の5本の試掘トレンチを設定した。トレンチの観察からは、調査地となった南北2枚の畠地の基本層序は一致しておらず南側畠地では第II層灰白色土(十和田a火山灰?)第III層黒褐色土(遺物包含層?)が確認されたが、北側畠地では第I層耕作土下は灰白色土ブロック(十和田a火山灰?)が全体的に混入する黒褐色土が厚さ約60cmほど堆積しており、この下位は第IV層褐色砂質土となっていた。南北畠地の状況からみて北側畠地では本来の第II層と第III層が攪拌されたものと推測された。

調査の結果、北側畠地では、T3の第IV層面で直径約25cmの柱穴が1基検出された。南側畠地では、T4・T5のII層面で方形基調の不明瞭なプランが検出されたことから、比較的のプランが把握できたT4においてサブトレンチをいれて確認したところ、第III層を切る壁の立ち上がりと埋土中で第II層起源の灰白色ブロックが確認されたことから古代の堅穴住居跡と推定されたため、T5で検出されたものも同様と判断した。いずれも一辺約4mほどの規模と思われる。遺物は縄文土器、土師器、須恵器が北側畠地の攪拌土中から数点とほかは表採されたものであり、遺構埋土やプライマリーな層位中からは認められなかったが、南側畠地の第III層以下には縄文時代の遺物が包含されている可能性が高い。今回の調査結果からは、北側畠地では古代面は破壊され消滅しているが、南側畠地では古代の遺構検出面が第II層の上下2面、また全体では縄文時代の遺構検出面が1面と考えられる。



第147図 川口 I 遺跡位置図



第148図 川口 I 遺跡調査区位置図

46 緊急地方道路整備事業

館II遺跡（JE37-0075）

所在地：二戸郡淨法寺町御山字館地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成16年7月26日、8月2日、9月30日

本遺跡は、淨法寺役場の東約1.2kmに位置し、安比川右岸の丘陵上に立地している。標高は220～230mを測り、現況は主に山林である。

今回の調査は、緊急地方道路整備事業に係るもので、平成10年度実施の分布調査で、遺跡範囲を拡大した北西部の舌状に張り出した緩斜面とこの南側の丘陵中腹にある緩斜面の二ヶ所を対象として、舌状張出部緩斜面に3本（T1～T3）と南側高位の緩斜面に4本（T4～T7）の試掘トレレンチを設定した。なお、事業地内では「いわてレッドデータブック」に収載されている岩手県の希少な植物（B・Cランク数種）が存在することから、これらに注意してトレレンチの設定は最小限に止めた。

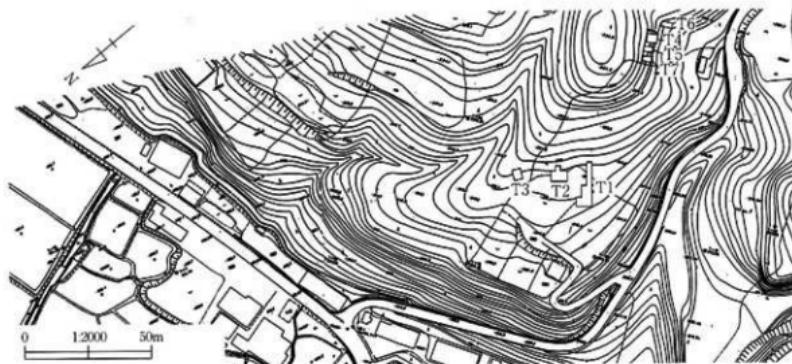
調査の結果、およそ全体的には耕作土下が黄褐色粘質土（地山）の遺構検出面となっており、検出された遺構は、北西側低位部では、T1において径約70cmの円形土坑3基、楕円形の土坑として1.4m×0.7mの2基、1.8m×1mと4.0m×1.0mが各1基、北側斜面下方側では遺構埋土と周辺に廃棄焼土の不整な広がりが多く確認された。T2では長軸約6.0m、短軸約3.5mの不整長方形の堅穴住居跡と考えられる1棟と径約70cmの円形土坑3基。T3では堅穴住居跡2棟のそれぞれ一部が確認された。

南側高位部では、T4～T6で上幅約13m、基底部幅約3mを測る沢地形を利用した堀跡とT4で曲輪と考えられる平坦部の存在が確認された。

今回の調査では遺物は出土しなかったものの、T2で検出された堅穴住居跡ではカマド芯材と推測される人頭大の礫が壁際に、これと対応する位置関係で焼り出しと思われる柱穴状ビットが検出されたことから古代に属するものと推測され、T4～T7の堀と曲輪の存在から中世城館との複合遺跡となる。



第149図 館II遺跡位置図



第150図 館II遺跡調査区位置図

47 一般国道455号北山バイパス事業

果子VI遺跡 (K E 76-1251)

所在地：岩手郡滝沢村滝沢字果子地内

事業者：盛岡地方振興局土木部道路都市課

調査期日：平成16年12月3日、

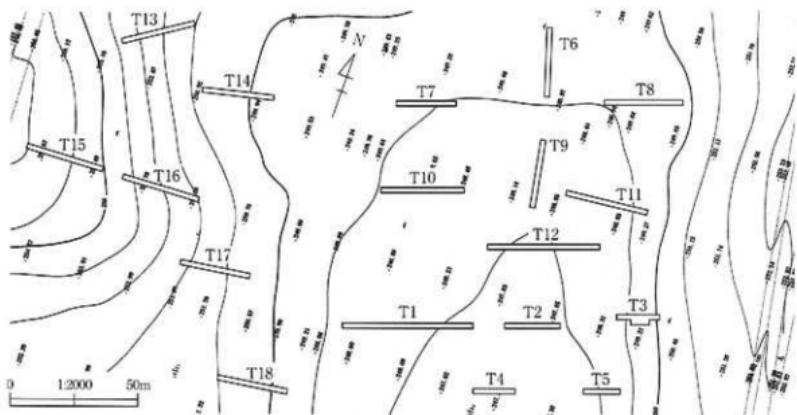
平成17年1月20日

本遺跡は、IGRいわて銀河鉄道滝沢駅の西方約1.6kmに位置し、北上川右岸の中位段丘に立地している。遺跡の現況は牧草地となっており、標高はおよそ250m前後を測る。今回の調査は、北山バイパス工事（トンネル工事）におけるトンネル残土処理地として3m以内の盛土を行うことによるものである。調査対象箇所に18本の試掘トレンチを設定した（T1～T18）。

調査の結果、T2から溝跡を1条と土抗1基を検出し、T3から土抗を1基検出した。T2で検出した溝跡は幅が40cmで、表土から検出面までの深さは125cmであった。埋土は、しまりのある暗褐色土で炭化物を微量に含んでいた。溝跡は北西方向から南東方向に伸びていた。T2から検出した土抗は長軸が140cmで短軸は35cmを測り、表土から検出面までの深さは125cmであった。埋土はしまりのある暗褐色土であった。2つの遺構は1mも離れない場所から確認されたが、遺物等が出土しなかったことから関連については不明である。T3から検出した土抗は長軸は390cmで、短軸は140cmを測り、表土から検出面までの深さは80cmであった。埋土は暗褐色土であり、形状は小判型であった。T15～T18の調査区周辺は削平を受けており、もともと厚かったと思われるII層の黒褐色土を掘削し、T1周辺に盛ったものと思われる。多くのトレンチから風倒木跡が多数確認されたことから、調査区一帯は森林地帯であった可能性がうかがえる。遺物等は出土しなかったことから構築の時代等は不明であるが、陥し穴の可能性が高いと考えられる。



第151図 果子VI遺跡位置図



第152図 果子VI遺跡調査区位置図

48 市町村整備代行事業

大平野Ⅱ遺跡 (N E30-2300)

所在地：胆沢郡胆沢町若柳字大平野地内

事業者：水沢地方振興局土木部道路河川環境課

調査期日：平成16年11月4日、

11日・12日

本遺跡は、胆沢町役場の西方約17.5kmに位置し、前川左岸の中位段丘上に立地する。遺跡の標高はおよそ370m～380mで、現況は原野となっている。今回の試掘調査は、大平野地内にダム建設に係る道路を造るための土石採取によるものである。該当箇所に試掘トレンチを14本設定した (T1～T14)。

調査の結果、T9とT11から縄文土器が出土し、T8とT9から陥し穴状遺構を検出した。調査区は、前川上流部で砂防ダムを建設する際に、作業員の駐車場になつたところであった。場所によっては重機による削平を受け、石を敷き詰めて固められたところもあった。T9とT11から出土した縄文土器は、削平により旧地形が壊された箇所の盛土と思われるⅡ層(黒褐色土)より出土し、摩滅が激しかった。T9の陥し穴状遺構は、表土から10cm～15cmの深さで検出し、長さが3m以上で幅は40cmを測り、埋土は褐色土であった。この陥し穴状遺構の20cm東側には埋土があり粒状の炭化物を含んでいた。埋土の径は、15cmでは円形で呈していた。T11から検出した陥し穴状遺構は長さ120cmで幅は60cmを測り、表土からの深さは38cmであった。埋土は黒褐色土で粒状の炭化物を含んでいた。調査区は部分的にローム層が削られて、砂礫層が剥き出しになっている箇所がある。ローム層がそのまま残っている箇所は、埋蔵文化財が遺存している可能性が高い。

この調査区は遺跡の東端部分にあたり、西側は登り斜面となっている。遺跡の中心は小高い西側であり、土器は上方向からの流れ込みの可能性が高い。



第153図 大平野Ⅱ遺跡位置図



第154図 大平野Ⅱ遺跡調査区位置図

49 通常砂防事業

沼里遺跡（L G53-1225）

所在地：宮古市津軽石地内

事業者：宮古地方振興局土木部

調査期日：平成16年11月11日

本遺跡は、JR山田線津軽石駅から西へ4.5kmの山地に位置し、現況は、山林、林道、原野となっている。

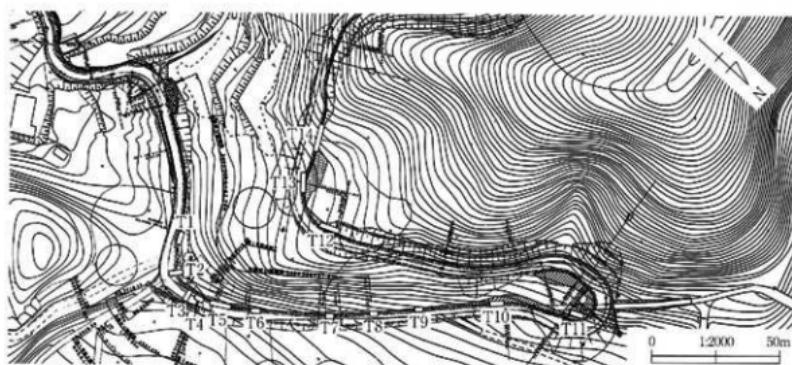
今回、周知の埋蔵文化財包蔵地である沼里遺跡及び隣接する箇所において林道が設置されることになり、埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施した。林道工事では掘削箇所、盛土箇所の両方があり、両者とも試掘対象とした。

試掘調査は昨年度も行われており、今回のT1よりも標高の低い林道沿い箇所が対象で、一部で埋蔵文化財が確認されている。今回は都合14箇所の試掘トレンチ（T1～T14）と2地区での断面観察を行った。その結果、T5において7世紀末から8世紀にかけての土師器壺が1点出土し、竪穴住居跡が確認された。竪穴住居跡は、表土直下から掘り込まれ、長さ3.3mで幅1.5m以上、深さは0.8m程度で、貼床、炭化物の集中箇所が確認された。なお、T3～T5に隣接する畑地において土師器が分布していた。

その他のトレンチでは遺構、遺物とも確認できなかった。また、林道工事予定範囲に接するカッティング面、露頭でも遺構、遺物は確認できなかった。山地の中腹よりも標高の高い所では表土直下にマサ土が堆積していた。以上のことから、遺構が分布する範囲は山地の裾を取り巻く、標高の緩い範囲と考えられた。



第155図 沼里遺跡位置図



第156図 沼里遺跡調査区位置図

50 緊急地方道路整備事業

伏屋 II 遺跡 (K F 77-1318)

所在地：下閉伊郡岩泉町大川地内

事業者：宮古地方振興局岩泉土木事務所

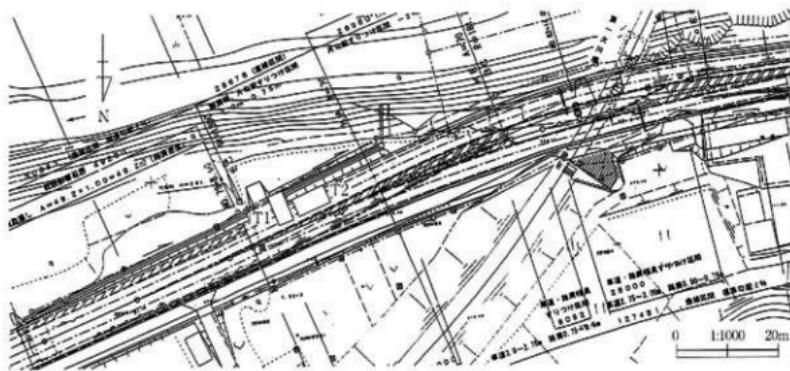
調査期日：平成16年5月14日

本遺跡は、JR岩泉線岩手大川駅より西約0.3kmに位置し、小本川支流の東流する大川の左岸に形成された狭小な河岸段丘上に立地している。標高は約360m前後を測り、現況は主に畠地と道路となっている。調査対象区の道路拡幅部分は、現道及び東側畠地より一段低くなっている。削平整地されたものと思われる。今回の調査は、道路整備事業に伴うもので、道路拡幅部分に2つのトレンチを設定した(T1・T2)。

調査の結果、T1では、深さ30cmの地点から直徑約2mの土坑1基を確認した。検出面直上から羽口片が出土しており、古代以降の鍛冶関連遺構の可能性も考えられる。T2では、一辺が7mの大の住居状遺構を確認したが、多くが現道直下に延びるため全容は不明である。このほかに、流れ込みと考えられる摩滅した縄文土器が出土している。遺跡は、当遺構が検出された北東側の緩斜面にさらに広がると思われる。



第157図 伏屋 II 遺跡位置図



第158図 伏屋 II 遺跡調査区位置図

51 中山間地域総合整備事業 日野沢地区

ウチマ鉄山跡 (J F 5-1134)

所在地：九戸郡山形村日野沢地内

事業者：久慈地方振興局農政部

農村整備室農村計画課

調査期日：平成16年9月29日、

10月7日・8日

調査地は、山形村役場のおよそ北北東約3.7kmに位置し、日野沢北川左岸の河岸段丘上に立地する。調査地の標高は約285m前後で、現況は主に水田となっている。

今回の調査は、は場整備事業に伴い水路の設定箇所と切土となる田面が対象で、該当箇所に試掘トレンチを23本設定した。(T1-T23)

調査の結果、T9とT11から同様のものと思われる溝状遺構を検出した。溝状遺構は砂礫層を掘り刻むたちで北から南に延びていた。埋土の第1層は褐色土で30cmの厚さであり、第2層は黒褐色土で層厚は10cmだった。黒褐色土中には、炭化物粒を微量に含んでおり、溝状遺構の検出面までの深さはT9では100cmで、T11では115cmであった。

土器等の遺物は検出されなかったことから、溝状遺構が構築された時代や目的等は不明である。調査区南側は、大きな疊が多数あることから日野沢北川の旧河道であったことが推測され、北東側は氾濫原であったと考えられる。

以前に川岸の近くから使途不明の径30cm大の鉄滓が見つかっているが、近所の人の話から鉄滓が家の周りから多数見つかったことから、おそらく遺跡の中心は、東側にある小高い民家のあたりと考えられる。



第159図 ウチマ鉄山跡位置図



第160図 ウチマ鉄山跡調査区位置図

52 ほ場整備事業 更木新田地区

市の川 I 遺跡 (ME 46-0343)

所在地：北上市更木地区

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期間：平成17年1月26日、

2月8日・9日

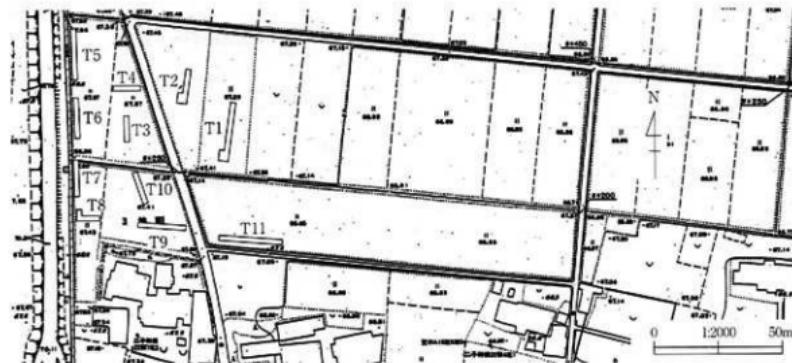
本遺跡は、北上市役所の北北東約6.6kmに位置し、北上川左岸の沖積地平野に立地している。遺跡の現況は宅地と水田、畑地となっており、標高はおよそ67m前後を測る。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い、農道及び排水路の設定箇所と切土となる田面が対象である。調査該当箇所に試掘トレーンチを11本設定した (T1~T11)。

調査の結果、T1・T2から土坑を各1基と、T9から焼土を検出し、T8からは土器片を出土した。T1から検出した土坑は、長軸65cmで単軸が45cmの楕円形で、暗褐色土の埋土には炭化物を粒状に含んでいた。地表から検出面までの深さは110cmであった。T9から検出した焼土は風割木痕と思われる黄褐色土(地山)周辺3箇所から検出された。焼土の検出面までの深さは40cmと周囲より浅かったため掘り下げたところ、地表から検出面までの深さ70cmの所にまとまった焼土を検出した。検出面は、第IV層中で旧表土と思われる黒褐色土中であった。焼土の径は、およそ40cmで燈色を呈していた。もともと焼土を包蔵したところに木が生えて、その後倒れたことが推測されることから、焼土は広範囲に拡散した可能性がある。T8の第III層から土器片が出土した。第III層は褐色土で砂を多く含む洪水堆積層であることから、出土した土器片は流れ込みであると判断した。

調査区の南側は宅地となっており、調査区よりやや標高が高い所である。おそらく遺跡の中心はこの宅地周辺と考えられ、古代の集落であった可能性が考えられる。



第161図 市の川 I 遺跡位置図



第162図 市の川 I 遺跡調査区位置図

53 ほ場整備事業 更木新田地区

小川屋敷遺跡 (ME46-0335)

所在地：北上市更木新田地区

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期間：平成17年1月25日・26日

本遺跡は、北上市役所の北北東約6.8kmに位置し、北上川左岸の沖積地平野に立地している。遺跡の標高は67m前後で、現況は宅地と水田になっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴い、農道及び水路設定箇所と切土となる田面が対象で、昨年行った調査の未了区が対象である。事業予定箇所に試掘トレンチを6本設定した（昨年からの続き番号T47～T52）。

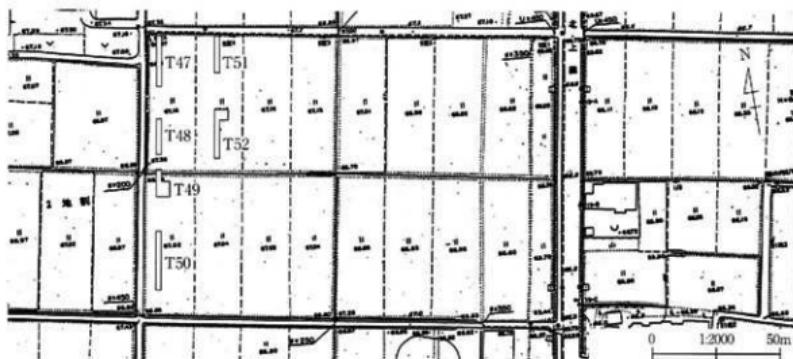
調査の結果、T49において陥し穴状遺構を検出した。

陥し穴状遺構の規模は、幅65cm・長さは350cm以上で溝状を呈していた。地表から検出面までの深さは65cmを測り、埋土はしまりのある暗褐色土であった。

調査区一帯は、昭和30年代には場整備が行われ現在の規模の田圃にしたところである。当時の工事は大型重機によるものでなく、遺跡は大きな掘削を免れ、比較的良好な状態に保たれているところが多い。これまでの調査において遺跡の中心は、竪穴住居跡が多数検出されていることから、中央部から東側と考えられる。今回遺跡の西側においても、陥し穴状遺構が検出されたことから、遺跡の範囲は西側に広がるものと思われる。



第163図 小川屋敷遺跡位置図



第164図 小川屋敷遺跡調査区位置図

54 ほ場整備事業 更木新田地区

六日市遺跡(ME 46-0381)

所在地：北上市更木新田地区

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

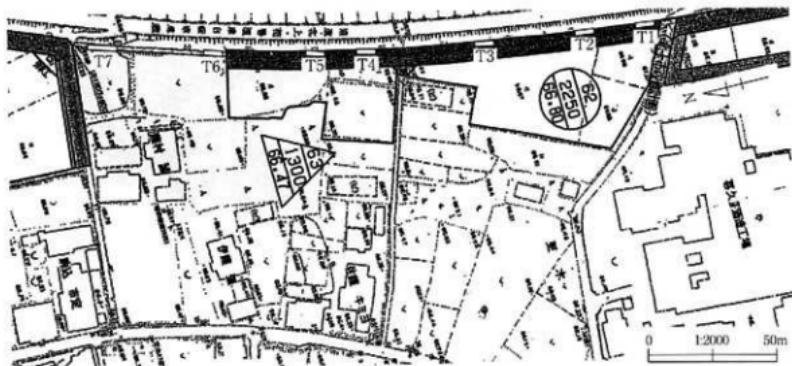
調査期間：平成17年1月25日・26日

本遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北東約4.5kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地に立地している。遺跡の標高は67m前後を測る。現況は主に水田になっている。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、事業予定地内の切土田面を対象として、道路予定地に7本のトレンチを設定した(T1～T7)。

調査の結果、第Ⅳ層面(褐色砂質土)においてT2では幅約110cmの溝跡1条と直径約200cmの土坑1基、T4では直径約40cm、柱痕直径約25cmの柱穴1基、T3・T5・T6ではそれぞれ幅約80cm～150cmの溝跡が各1条検出された。いずれの遺構からも検出クリーニングの際に土師器(赤焼き土器含む)破片が数点出土している。T2の土坑は規模的に竪穴住居跡の一部とも考えられ、T4の柱穴の状況からは掘建柱建物跡の存在も窺え、東側の遺跡主体には平安時代の集落が広がるものと推測される。



第165図 六日市遺跡位置図



第166図 六日市遺跡調査区位置図

55 ほ場整備事業 更木新田地区

市の川II遺跡 (ME46-0374)

所在地：北上市更木新田地区

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

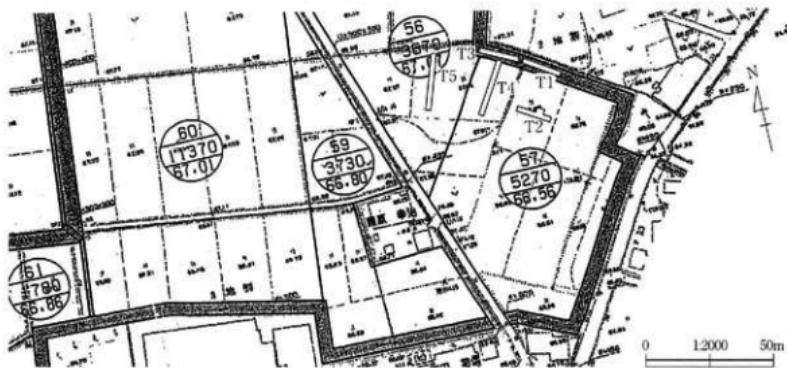
調査期間：平成17年1月25日・26日

本遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北東約4.7kmに位置し、北上川左岸の沖積の微高地上に立地している。遺跡の標高は67m前後を測る。現況は主に水田になっている。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、事業予定地内の切土田面及び水路を対象として7本(T1~T7)のトレンチを設定したが、遺跡南部と西側隣接地が未了区となった。

調査の結果、第IV層面(褐色砂質土)にてT1では幅約40cmの溝跡1条、T2では直径約30cmの柱穴2基と長軸約210cm、幅約70cmの溝状の陥し穴1基が検出された。T3~T5では遺構・遺物とも検出されなかったことから、遺跡の主体は今回未了区となった南側と思われる。



第167図 市の川II遺跡位置図



第168図 市の川II遺跡調査区位置図

56 は場整備事業 更木新田地区

山口遺跡 (ME46-0315) 隣接地

所在地：北上市更木地区

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期間：平成17年3月1日

本遺跡は、JR東北本線村崎野駅の北東方向約4kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防状上に立地しており、現況は水田及び宅地となっている。今回の調査は、は場整備事業に伴うものであり、昨年度試掘調査を実施し、旧来の遺跡範囲を超えて遺構が確認されていることから、隣接箇所を対象としたものである。

調査対象区内には、現在排水路が敷設されており、現排水路を敷設替える設計ではあったが、この排水路は来年度の耕作のために使用することから、現水路下については、調査することはできなかった。また、現農道下についても、地盤が緩み自動車走行等に危険をもたらす可能性が高いことから、試掘トレレンチを設定しなかった。さらに、農道南側の調査区内には、電力関係の水路が地中深く埋設されていることから、すでに遺構等は所在していないものと判断し試掘トレレンチを設定しなかった。以上のことから、調査対象区域に2本のトレレンチを設定した(T1・T2)。

T1の中央付近から西端にかけて、表土直下に第V層の黄褐色土地山があらわれることから、すでに地形改変を受けていることを伺わせた。T1の中央部から東側にかけては旧河道と思われる部分があり、第V層までは150cm以上もあった。T2においては、トレレンチ東側に向かって、第V層までの深さは徐々に浅くなり、時期は不明であるが40×60cmの土坑1基が検出された。T1及びT2においては、遺物は確認できなかった。



第169図 山口遺跡隣接地位置図



第170図 山口遺跡隣接地調査区位置図

57 畑地帯総合整備事業 藤崎地区

十文字遺跡（O F 10-2292）

所在地：東磐井郡藤沢町西口字十文字地内

事業者：千葉地方振興局農林部農村整備室

調査日：平成17年3月10日・11日

本遺跡は、藤沢町役場の北西約3kmに位置し、北上山地南端の丘陵地帯に立地している。標高はおよそ150～158m前後を測り、現況は主に宅地と畠地である。

今回の調査は畠地帯総合整備事業に係るもので、現道下に埋設する灌漑用パイプライン予定地を対象として、テストピット9本（T1～T9）を設定した。

試掘に先立ち、調査区周辺の畠地の表面観察をしたところ、縄文土器が多く表採されたことから、地形状況等からも遺跡範囲が南側に拡大するものと判断された。

調査の結果、基本層序としては道路下ということもあって、第Ⅰ層は舗装（碎石）が約70cm、第Ⅱ層は褐色土（遺物包含層か造構検出面？）、第Ⅲ層が黄褐色土（地山）となっていた。調査区幅が1mほどと狭く、状況から坪掘りのテストピットとしたため、不明確ではあるが、T4では第Ⅰ層直下で縄文土器と炭化物粒が多量に出土したことから、竪穴住居跡の可能性が考えられる。T5・T6・T7では第Ⅱ層上位で縄文土器が少量出土しており、同層は遺物包含層とも考えられる。T1～T3・T7・T9では第Ⅰ層下は黄褐色土となっていたが、周辺の地形状況からみて第Ⅲ層についてもかなり削平されているものと推測された。



第171図 十文字遺跡位置図



第172図 十文字遺跡調査区位置図

58 農用地総合整備事業 下閉伊北地区

大岩遺跡 (K F59-2236)

所在地：下閉伊郡岩泉町大岩地内

事業者：独立行政法人緑資源機構

東北支社下閉伊北建設事業所

調査期日：平成15年11月6日・7日、

平成16年2月25日・26日

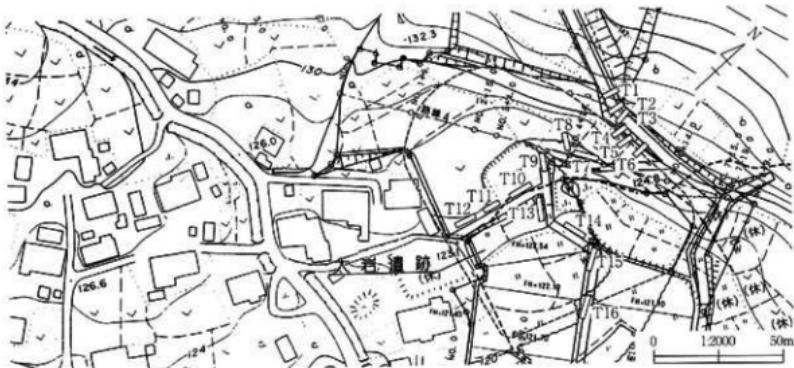
本遺跡は、岩泉町役場の西方3.7kmに位置し、小本川左岸の河岸段丘上に立地する。遺跡の標高は121m～126mを測り、現況は主に水田と畠地になっている。今回の試掘調査は、農道の予定箇所が対象で、該当箇所に試掘トレンチを16本設定した (T1～T16)。

調査の結果、T6からはフ拉斯コ状土坑を2基検出し

T4、T5、T6から縄文土器が出土した。フ拉斯コ状土坑は第IV層の黒灰色上、地表25cm下層から検出された。土坑の深さは、傾斜地のため山側40cm～谷側20cmであった。径が80cmという規模を考慮すると畠地を広げる際に土坑の上部は掘削された可能性が高い。埋土の中からも縄文土器が出土している。田面部分は、水はけがよくない部分がほとんどで、トレーナー削削中にも水が湧き出てくる状態であった。この箇所からの埋蔵文化財は確認されなかった。南斜面からは、土坑と縄文土器が確認されているが、出土の状況をみると縄文土器が数点ということから集落の本体はさらにその上の部分に存在する可能性がある。



第173図 大岩遺跡位置図



第174図 大岩遺跡調査区位置図

59 下水道施設整備事業

跡前遺跡 (J E19-2323)

所在地：二戸郡一戸町藤前地内(県立一戸高等学校内)

事業者：岩手県教育委員会学校財務課

調査期日：平成17年3月28日・29日

本遺跡は、(株)IGRいわて銀河鉄道一戸駅の北1.3kmに位置し、馬瀬川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の現況は主に校地と宅地、畠地となっており、標高は130~140m前後を測る。遺跡は、縄文時代晩期の遺跡として周知されており、完形の土器、石器、土偶など完形で数多く出土している。特に「鼻曲がり土面」始め一戸町教育委員会所蔵の253点は、国の重要文化財に指定されている。今回の調査は下水道施設整備事業に係るもので、下水道を浄化槽から公設糞に配置換えるものである。既存の下水道からすでに設置されている公設糞の間にトレチを設定した(T1)。

調査の結果、黒褐色土(基本層序第Ⅳ層)上面において縄文土器2片が出土した。トレチの壁などを注意しながら掘り下げたが、上記の土器以外に遺構および遺物は確認できなかった。トレチを設定した箇所が遺跡の中位面に当たることから、今回出土した土器は上位面からの流れ込みと考えられる。

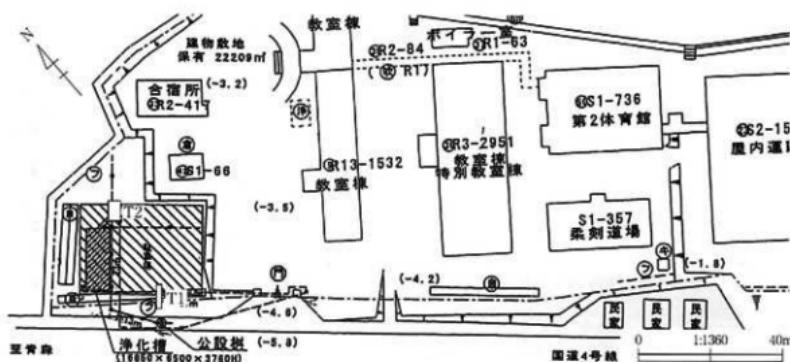
下水道配置換え後に現在使用されている浄化槽は解体される予定である。解体の際に工事立会が必要か浄化槽の脇にトレチを入れ調査した(T2)。

調査の結果、表土直下100cmの盛土直下で縄文土器片が数多く出土した。埋土に炭化物粒が多く見られたこと、断面に壁の立ち上がりが確認できたことから、住居状遺構であると判断した。

今回は校舎・屋内運動場改築部分の下水道敷設予定箇所も行う予定であったが既存の施設があるため、改めて当課と協議を行うこととした。



第175図 藤前遺跡位置図

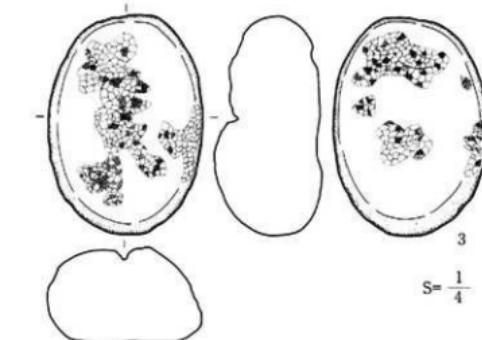


第176図 藤前遺跡調査区位置図

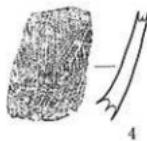
瀬戸遺跡



長久保V遺跡



中屋敷上遺跡



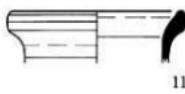
野里上遺跡



野里上II遺跡



瀬原I遺跡



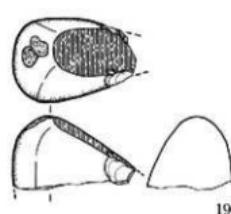
音庭IV遺跡



0 1 : 3 10cm

第177図 県内遺跡試掘調査 出土遺物 1

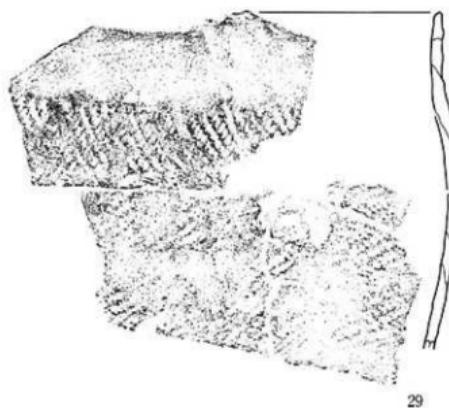
普産IV遺跡



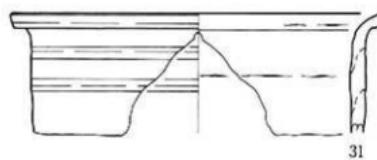
千足南遺跡



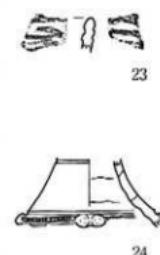
ME36-2352遺跡



芦蒼遺跡



ME36-2330遺跡



0 1 : 3 10cm

第178図 県内遺跡試掘調査 出土遺物2

合野遺跡



32



33



35



34



37

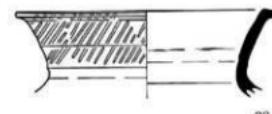
道上遺跡



39



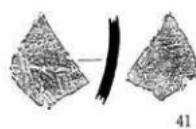
40



38



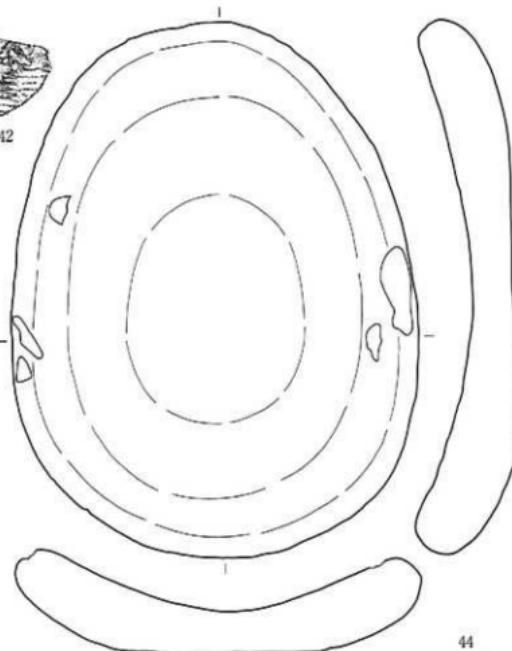
42



41



43



44

$S = \frac{1}{4}$

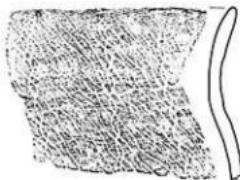
0 1 : 3 10cm

第179図 県内遺跡試掘調査 出土遺物3

板子屋敷3遺跡



45



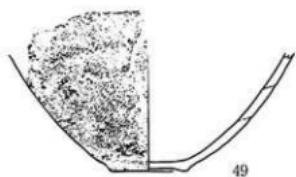
47



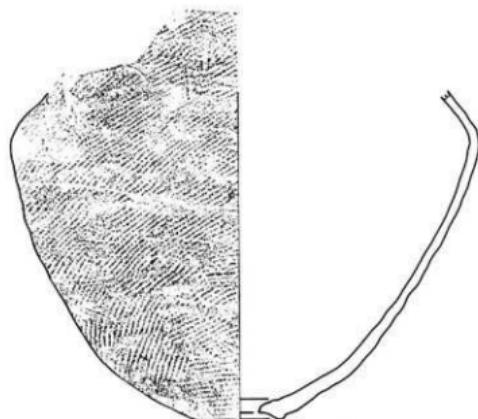
46



48



49



50

川口 I 遺跡



51



52



53

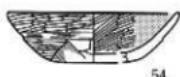


伏屋 II 遺跡



55

沼里 遺跡



54

0 1 : 3 10cm

第180図 県内遺跡試掘調査 出土遺物 4

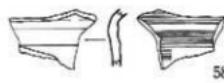
六日市遺跡



57



60

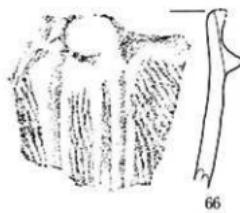


58



59

十文字遺跡



66



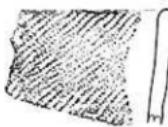
67

大岩遺跡



69

蔵前遺跡



68

0 1 : 3 10cm

第181図 県内遺跡試掘調査 出土遺物5

試掘調査揭露遺物一覧

掲載番号	遺構名	出土地点	層位	特徴
1	西塙道路	T 8	Ⅱ層中	LR 陰帶
2	疑久保V道路	T12	椚出面	貝殻骨縁文
3	疑久保V道路	T42	表土	鐵石
4	中層敷上道路	南部T 1	Ⅱ層	熱糸文
5	野里上道路	T12		LR RL 扇状網文 織維土器 外面塗付着
6	野里上Ⅲ道路	T11	Ⅱ層	LR 沈縫 貼瘤
7	野里上Ⅲ道路	T11	Ⅱ層	0段多条RL 多面塗付着
8	野里上Ⅲ道路	T11	Ⅱ層	RL 沈縫 磨消網文 多面塗付着
9	野里上Ⅲ道路	T11	Ⅱ層	LR 沈縫 磨消網文 内面塗付着
10	野里上Ⅲ道路	T18	Ⅱ層SR	LR 外面塗付着
11	画面I道路	T 4		須恵器 豆 自然釉
12	画面I道路	T27		須恵器 豆 タタキ目
13	音雀N道路	T 2	S I 檜出面	陰帶 斑紋
14	音雀N道路	T 2	S I 檜出面	貝殻骨縁文 実底土器
15	音雀N道路	T 2	S I 檜出面	0段多条LR 実底土器
16	音雀N道路	T 5		LR 沈縫 キザミ目
17	音雀N道路	T20	S I 檜出面	L
18	音雀N道路	T20	S I 檜出面	0段多条LR 内面塗付着
19	音雀N道路	T 1		散・磨石 欠損
20	音雀N道路	T19	S I 檜出面	磨石
21	千足南道路	T 2 - 3	Ⅲ層褐色土	外面LR 内面LR 表裏網文
22	ME36-2330	T13	包含層	口縁内外に沈縫
23	ME36-2330	T13	包含層	壺頸部 沈縫
24	ME36-2330	T13	包含層	壺頸部 沈縫 貼瘤
25	ME36-2330	T8	包含層	土師器 内黑坏 内面ヘラミガキ
26	ME36-2330			RL
27	ME36-2352			
28	ME36-2352	T27	黑色土	RL
29	ME36-2352	T42	Ⅱ層暗褐色土下	単輪絞条体 第1種
30	芦苦道路	T27		土師器 壺 底部 回転系切 切り離し
31	芦苦道路	T27		赤焼き 豆 内面織
32	合野道路	T71	Ⅱ層中	壺口縁(佛生)
33	合野道路	T75	Ⅱ層中	内外面沈縫
34	合野道路	T71	Ⅱ層中	土師器 豆 外面 刷毛目
35	合野道路	T3	Ⅱ層中	須恵器 壺口縁 自然釉
37	合野道路	T71	Ⅱ層中	須恵器 壺 底部 回転系切再調整
38	合野道路	T71	Ⅱ層中	須恵器 壺 外面 カタ目
39	道上道路	T 4	理土中	壺口縁 黏瘤
40	道上道路	不明	不明	須恵器 豆 タタキ目
41	道上道路	T32薄	理土	須恵器 外面ケズリ
42	道上道路	T136付近	表様	須恵器 豆 タタキ目
43	道上道路	T136付近	表様	陶器
44	道上道路			石皿 完形
45	板子屋敷3道路	T 4	理土中	RL
46	板子屋敷3道路	T 6	表様	単輪絞条体第1種
47	板子屋敷3道路	T 4	理土中	単輪絞条体第1種 一部交叉
48	板子屋敷3道路	T 7	理設土器	沈縫文 磨消網文
49	板子屋敷3道路	T 7	理設土器	LR
50	板子屋敷3道路	T 7	理設土器	LR
51	川口I道路		表様	土師器
52	川口I道路		表様	見込 コンニャク印判 蛇目釉剥
53	川口I道路		表様	見込 蛇目釉剥
54	沼乳道路	T 5		土師器 内黒坏
55	伏屋II道路	土坑	上面	輪羽口 先端部
57	六日市道路	T 2 SK SD	理土	土師器 内黒坏
58	六日市道路	T 2 SK SD	理土	ロクロ 土師器
59	六日市道路	T 2 SK SD	埋土	ロクロ 泰焼き
60	六日市道路	T 5 SD	椚出面	土師器 壺
66	十文字道路	陶接南側烟	表様	RL 陰帶
67	十文字道路	陶接南側烟	表様	LR 满巻状隆葉
68	森前道路	T 2	遺物包含層	LR
69	大岩道路	包含層		組織縫文 実底土器 織維含む

公有制參一瞥

調査期日 平成16年6月1日									
調査期日 平成16年6月10日									
事業者：千葉地方振興局土木部	所 在 地 東山町長坂字中倉	種 別 敷地	調査期日 平成16年6月10日	備 考 遺跡なし	時 代	遺 物 遺構・遺物	時 代	遺 物 遺構・遺物	No. 道路コード 道路名
1 1 国道1号平塚バイパス改築工事	1 1 NE24-4号平塚バイパス改築工事	事業者：東北農政局さわ南部農地整備事業所	散布地	NE24-1263 岩淵堤防跡	繩文	土器、土師器	古代	土器、土師器	No. 道路コード 道路名
2 2 国道1号平塚バイパス改築工事	2 2 NE24-2089 北丘軒道跡	事業者：東北地方整備局岩手河川国道事務所	散布地	NE66-1047 濑原Ⅰ遺跡	古代	土器、土師器	古代	土器、土師器	No. 道路コード 道路名
3 3 一般国道4号平塚バイパス改築工事	3 3 NE66-1086 濑原Ⅱ遺跡	事業者：東北地方整備局岩手河川国道事務所	散布地	NE76-0051 衣問遺跡	平安	土器、土師器	古代	土器、土師器	No. 道路コード 道路名
4 4 一般国道4号平塚バイパス改築工事	4 4 NE76-0000 坂下遺跡	事業者：東北地方整備局岩手河川国道事務所	散布地	NE76-0001 坂下遺跡	平安	土器、土師器	古代	土器、土師器	No. 道路コード 道路名
5 5 緊急地方道路整備事業	5 5 MG62-0251 逆輸道跡	事業者：釜石地方振興局土木部	散布地	LG43-2363 横井遺跡	中世	土器、土師器	中世	土器、土師器	No. 道路コード 道路名
6 6 中山間地域総合整備事業	6 6 JG70-1009 日形井遺跡	事業者：久慈地方振興局農村整備室	散布地	JG70-1009 日形井遺跡	弥生	土器、土師器	古代	土器、土師器	No. 道路コード 道路名

事業者: 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所					調査期日 平成16年7月26日、7月29日	
No.	遺跡コード	遺路名	時代	種別	所在地	備考
1		新道Ⅰ遺跡	縄文・古代	集落跡	盛岡市門角下	
2		新道Ⅱ遺跡	縄文・古代	集落跡	盛岡市門角下	
3		新道Ⅲ遺跡	縄文・古代	集落跡	盛岡市門角下	
4		可能性あり①			盛岡市東中野谷8地割	
5	LE28-1021	田ノ沢B遺跡	縄文	散布地	盛岡市東中野谷内	
6		可能性あり②			盛岡市川日地内	
7		可能性あり③			盛岡市川日第5地割	
8		川日△遺跡	縄文	集落跡	盛岡市川日字戸仲	
9		可能性あり④			盛岡市川日地内	
10		戸仲遺跡	縄文	散布地	盛岡市川日字小屋野	
11		可能性あり⑤			盛岡市川日字小屋野	
12		小屋野遺跡	縄文	散布地	盛岡市川日字小屋野	
8	一関港水地事業(衣川本川)				平成16年7月30日	
No.	遺跡コード	遺路名	時代	種別	調査期日	備考
1		可能性あり			平成16年8月19日	
9	県管治産經營環境整備事業				調査期日	遺跡なし。
No.	遺跡コード	遺路名	時代	種別	所在地	備考
1					一戸町中山字上家向	
10	東北横断自動車道釜石秋田線(宮守~兼利長び(通称一宮))				平成16年8月24日	
No.	遺跡コード	遺路名	時代	種別	調査期日	備考
1	MF51-2383	落合館遺跡	中世	城館跡	宮守村大字下鷲沢23地割	
2	MF62-0136	愛宕館遺跡	中世	城館跡	宮守村大字下鷲沢31地割	
3	MF62-0125	陣ヶ森遺跡	縄文	散布地	宮守村大字下鷲沢31地割	
4		可能性あり 1			宮守村大字下鷲沢	
5		可能性あり 2			宮守村大字下鷲沢	

11	中山間地域総合整備事業	日野沢地区	事業者：久慈地方振興局農政部農村整備室長	調査期日 平成16年9月10日
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	可能性あり①			種 別
2	可能性あり②			所 在 地
12	松川地区急傾斜地崩壊対策事業	事業者：千葉地方振興局土木部長	調査期日 平成16年9月17日	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1				種 別
13	畑地帯総合整備事業	事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室長	調査期日 平成16年9月27~28日	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	JE88-0344	大加口道跡	古墳	種 別
2	JE88-0346	上家向道跡	繩文	散布地
3	JE88-1305	上家向Ⅱ道跡	古代	散布地
14	地方特定道路整備事業	事業者：千葉地方振興局土木部長	調査期日 平成16年10月8日	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	OE29-2138	黄海川沿場	近世	種 別
15	一関遊水地事業(国造衣川橋架け替え)	事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	藤沢則黄海子本沢	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	NE76-0000	坂下道跡	平安、近世	種 別
16	森林管理道 箕森線改築工事	事業者：久慈地方振興局林務部長	調査期日 平成16年10月14日	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	JF47-0060	ウバドワヤ緊急跡		散在地、社寺跡、居跡跡
17	物流支援道路整備事業	事業者：花巻地方振興局土木部長	調査期日 平成16年10月22~2	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1	可能性あり①			種 別
2	可能性あり②			所 在 地
18	河川等災害復旧事業	事業者：北上地方振興局土木部長	調査期日 平成16年12月8日	
No.	道跡コード	道 路 名	時 代	事業者：道 構・道 物
1				種 別
				所 在 地
				調査地内

19 相地総合整備事業

No.	道路コード	道 路 名	時 代	遺 備・遺 物	種 别	所 在 地	調査期日	平成17年2月8日
1	JE89-1340	桟ノ木Ⅲ	繩文		散布地	-1丁町字別字龍ノ本地内		備 考
2	JE89-1363	桟ノ木Ⅱ	繩文		散布地	-1丁町字別字龍ノ本地内		
3	JE89-1357	桟ノ木	繩文		散布地	-1丁町字別字龍ノ本地内		

20 殿県道水海大渡線水海地区道路改良事業

No.	道路コード	道 路 名	時 代	遺 備・遺 物	種 別	所 在 地	調査期日	平成17年1月17日、3月2日
1		可能性あり①						
2		可能性あり②						
3		可能性あり③						
4		可能性あり④						
5		可能性あり⑤						
6		可能性あり⑥						
7		可能性あり⑦						
8		可能性あり⑧						

21 道路災害防除事業

No.	道路コード	道 路 名	時 代	遺 備・遺 物	種 別	所 在 地	調査期日	平成17年3月2日
1	MF68-0334	板山運転軌道線跡	近代	軌道跡、カルバー跡	鉄道軌道跡	笠石市甲子町幕1地測50番地内		備 考

22 相地総合整備事業

No.	道路コード	道 路 名	時 代	遺 備・遺 物	種 別	所 在 地	調査期日	平成17年3月11日
1	OF10-2292	十文字遺跡	繩文		散布地	藤沢市西口字十文字地内		備 考
2		可能性あり						

平成16年度試験調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成16年4月17日	川肥合宿營1.14	個人	西詫野 浜詫野道路	西詫野町
2	平成16年4月17日	谷七宿營1.14	個人	西詫野 浜詫野道路	西詫野町
3	平成16年4月8日	上安地区道路整備事業	花巻市 花巻市長	原の下道路	花巻市
4	平成16年4月14日	物流支援道路整備事業	本部長 本部長	可曾佐生 駒込山道路	江刺市
5	平成16年4月16日	中山間総合整備事業	協同地区	宮守村 宮守村	宮守村
6	平成16年4月19日～20日	一般運水事業	一般運水事業	衣川村 衣川村	衣川村
7	平成16年4月19日～20日	一般運水事業	一般運水事業	高畠道路	花巻市
8	平成16年4月21日～22日	一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事	河川内監事事務所 河川内監事事務所	河川内監路	花巻市
9	平成16年4月23日	一般国道4号小鳥谷バイバス改築工事	河川内監事事務所 河川内監事事務所	杉の京道路	本庄市
10	平成16年4月23日	特定交通安全対策整備事業	丸尾川河川内監事事務所 河川内監事事務所	小坂道路	田代町
11	平成16年4月26日	1組田・北・令賀新設工事	東北電力	駒山山道	安代町
12	平成16年4月26日	1組田・北・令賀新設工事	東北電力	湯の沢山道	安代町
13	平成16年4月27日	1組田・北・令賀新設工事	東北電力	笠置山道路接続地	安代町
14	平成16年4月27日	1組田・北・令賀新設工事	東北電力	湯の沢山道新接続地	安代町
15	平成16年4月28日	一般国道4号小鳥谷バイバス改築工事	河川内監事事務所 河川内監事事務所	中川敷上道路	上野村
16	平成16年5月10日	費賃割免除事業実施地区	久慈地方林業課農林整備室長 河川内監事事務所	下木田1道路	大野村
17	平成16年5月26日	緊急地方道路整備事業	宮古地 宮古地	伏石山道路	呂泉明
18	平成16年6月9日	一般運水事業	一般運水事業	衣川村 衣川村	衣川村
19	平成16年6月9日～10日	一般運水事業	一般運水事業	長持前道路	衣川村
20	平成16年6月16日	中山間総合整備事業 井手地区	北上地方林業課農林整備室長 河川内監事事務所	駒山1道路	田代内村
21	平成16年6月21日	一般国道4号小鳥谷バイバス改築工事	河川内監事事務所 河川内監事事務所	野里上道路	一ノ町
22	平成16年6月28日～29日	中山間総合整備事業 井手地区	北上地方林業課農林整備室長 河川内監事事務所	日出野上道路	田代内村
23	平成16年7月1日～2日	中山間総合整備事業	防災治山事業	日出野II道路	田代内村
24	平成16年7月5日	防災治山事業	宮古地 宮古地	下根山道路	宮古市
25	平成16年7月8日～9日	一般国道4号小鳥谷バイバス改築工事	野里上道路	野里上道路	一ノ町
26	平成16年7月6日	国際いざわ野開拓農地整備事業	浜入道路	照沢町	照沢町
27	平成16年7月15日	地方特定道路整備事業	中村道路	中村	中村
28	平成16年7月21日	駐在所新築事業	港下野警察本部長	港下野道路	遠野市
29	平成16年7月22日	車庫新築工事	制人	大見I(A)道路	西根町

30	平成16年7月26日	緊急地方道路整備事業	「」地方整備局上本部長	鹿児島県 鹿児島市	鹿児島県 鹿児島市
31	平成16年8月2日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	いさきの南都農地整備事務所長	「」台風路 鹿児島市	「」台風路 鹿児島市
32	平成16年8月2日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	いさきの南都農地整備事務所長	「」台風路 鹿児島市	「」台風路 鹿児島市
33	平成16年8月2日	緊急地方道路整備事業	「」地方整備局上本部長	「」地方整備局 鹿児島市	「」地方整備局 鹿児島市
34	平成16年8月3日	県平野交通安全整備事業(参道設置)	「」地方整備局上本部長	下総元郷町 九戸村	下総元郷町 九戸村
35	平成16年8月4日	鹿川ダム建設事業	鹿岡地場整備局上本部鹿姿ダム建設事務所長	水俣町 盛岡市	水俣町 盛岡市
36	平成16年7月5日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	東北農政局いさきの南都農地整備事務所	台一道路 鹿児島市	台一道路 鹿児島市
37	平成16年8月2日～3日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	東北農政局いさきの南都農地整備事務所	台一道路 鹿児島市	台一道路 鹿児島市
38	平成16年8月5日～6日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	東北農政局いさきの南都農地整備事務所	台一道路 鹿児島市	台一道路 鹿児島市
39	平成16年8月9日～10日	鹿屋地合整備事業	練習原訓練東北北海道整備局下別伊比建設事務所	手本郷村 田野畠村	手本郷村 田野畠村
40	平成16年8月9日～10日	鹿屋地合整備事業	練習原訓練東北北海道整備局下別伊比建設事務所	千足瀬村 田野畠村	千足瀬村 田野畠村
41	平成16年8月9日～10日	鹿屋地合整備事業	練習原訓練東北北海道整備局下別伊比建設事務所	可能性あり 田野畠村	可能性あり 田野畠村
42	平成16年8月9日～11日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	東北農政局いさきの南都農地整備事務所	鹿児島県道 鹿児島市	鹿児島県道 鹿児島市
43	平成16年8月18日	鹿児島道整備事業「人森3期地[区]」	水俣地場整備局鹿児島道整備室長	可能性あり 鹿児島市	可能性あり 鹿児島市
44	平成16年8月18日	鹿児島道整備事業「人森3期地[区]」	水俣地場整備局鹿児島道整備室長	可能性あり 鹿児島市	可能性あり 鹿児島市
45	平成16年8月19日～20日	一般国道4号小谷谷川バス改修工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	野川上郷林 鹿児島市	野川上郷林 鹿児島市
46	平成16年8月19日～20日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	東北農政局いさきの南都農地整備事務所	鹿児島県道 鹿児島市	鹿児島県道 鹿児島市
47	平成16年8月23日	一般県道矢野1・松坂緊急地方法整備事業	花巻市 花巻市	方八丁道路 花巻市	方八丁道路 花巻市
48	平成16年8月26日	一般県道矢野1・松坂緊急地方法整備事業	花巻市 花巻市	方八丁道路 花巻市	方八丁道路 花巻市
49	平成16年8月31日	中川町地蔵影合整備事業「黒石丸[区]」	水俣地場整備局鹿児島本部長	黒石郡久賀島町 水俣市	黒石郡久賀島町 水俣市
50	平成16年9月1日	[内閣]「さきの南都農地整備事業	いさきの南都農地整備事務所長	鹿児島県道 鹿児島市	鹿児島県道 鹿児島市
51	平成16年9月2日～3日	一間通水道事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	前川町 鹿児島市	前川町 鹿児島市
52	平成16年9月6日	一間通水道事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	前川町 鹿児島市	前川町 鹿児島市
53	平成16年9月10日	主要地方道路開拓工事「川内川地区歩道設置工」工事	北上地方整備局上本部長	小坂町 鹿児島市	小坂町 鹿児島市
54	平成16年9月21日	鹿児島県野路整備事業	官古地方整備局岩屋土木事務所	木本郷地場整備地 鹿児島市	木本郷地場整備地 鹿児島市
55	平成16年9月22日	別計2ム建設事業(御領ダム谷子(地山対策工事))	国・交通省東北地方整備局別計ダム工事事務所	下原江1道路 鹿児島市	下原江1道路 鹿児島市
56	平成16年9月22日	別計2ム建設事業(御領ダム谷子(地山対策工事))	国・交通省東北地方整備局別計ダム工事事務所	鹿児島県教育委員会事務局財政財務課 鹿児島市	鹿児島県教育委員会事務局財政財務課 鹿児島市
57	平成16年9月23日	学校持合会事業	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	栗子1道路開発地 鹿児島市	栗子1道路開発地 鹿児島市
58	平成16年9月23日	学校持合会事業	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	栗子前川整備地 鹿児島市	栗子前川整備地 鹿児島市
59	平成16年9月24日	花巻農業学校整備事業	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課
60	平成16年9月24日	花巻農業学校整備事業	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課	岩手県教育委員会社会事務局学校財務課

61	平成16年9月27日～28日	烟葉販賣組合整備事業	中村Ⅱ道路	鶴野道整備	一丁目
62	平成16年9月27日	田原立場開拓整備事業	医療局皆生病院長	二戸市	二戸市
63	平成16年9月29日～30日	中山間地域整備合意整備事業	久慈地方振興局農政部農村整備室	山形村	ウチマ山川断道跡
64	平成16年9月30日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局上本部	静法寺町	館日道跡
65	平成16年10月1日	北上川上流域「水道」	北上川上流域地下水道事務所	玉山村	武道Ⅲ道路
66	平成16年10月4日～5日	一関港水道事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	平泉町	可能性あり
67	平成16年10月5日	県営地盤総合整備事業	盛岡地場整備局農政部農村整備室	盛岡市	鶴岡山断道跡
68	平成16年10月6日	中の京防砂事業	盛岡地場整備局上本部	紫波町	土田湖Ⅲ道路
69	平成16年10月6日	新宮体育館基盤整備事業	永代地場整備局農政部農村整備室	南波町	南波町
70	平成16年10月12日～13日	一般道路「片瀬江戸バス改築」工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	玉山村	道久保V道路
71	平成16年10月15日	地域活性化文化道路整備事業	大船渡地方振興局上本部	住田町	船越路
72	平成16年10月18日	中山間地域合意整備事業「天龍ヶ岳」	北上地方振興局農林部農村整備室	船山Ⅱ道路	船山Ⅱ道路
73	平成16年10月18日	中山間地域合意整備事業「天龍ヶ岳」	北上地方振興局農林部農村整備室	洞内村	船山Ⅱ道路
74	平成16年10月20日	新宮体育館基盤整備事業「江釣子第1地区」	北上地方振興局農林部農村整備室	北上市	新平道新
75	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江釣子西部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	天差老婆道跡
76	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	消航道路
77	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	沼の上Ⅰ道路
78	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	沼の上Ⅰ道路
79	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	林道跡
80	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	阿弥陀堂道路
81	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	北上川Ⅰ道路
82	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「江刺内部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	岩谷空蝉V道路
83	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「増設東部地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	江刺市	金打道跡
84	平成16年10月18日～19日	新宮体育館基盤整備事業「奥石地区」	永代地場整備局農政部農村整備室	水沢市	大久保道路
85	平成16年10月20日	中山間地域合意整備事業「奥石地区」	北上地方振興局農林部農村整備室	北上市	轟野Ⅱ道路
86	平成16年10月21日	新宮体育館基盤整備事業「江釣子第1地区」	北上地方振興局農林部農村整備室	北上市	芦堂道路
87	平成16年10月20日～21日	新宮体育館基盤整備事業「江釣子第1地区」	北上地方振興局上本部	釜石市	可能性あり 1
88	平成16年10月20日～21日	緊急地方道路整備事業「釜石市本城」	釜石地方振興局上本部	釜石市	可能性あり 2
89	平成16年10月20日～21日	緊急地方道路整備事業「釜石市本城」	釜石地方振興局上本部	釜石市	可能性あり 3
90	平成16年10月21日	緊急地方道路整備事業「釜石市本城」	釜石地方振興局上本部	釜石市	幹谷道路
91	平成16年10月22日	階段ダム建設事業「明治ダム原石山材料採取第1期工事」	国土交通省東北地方整備局函館ダム工事務所	胆沢町	

92	平成16年10月22日	緊急地方道路整備事業 神崎地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	田園道路	花巻市
93	平成16年10月22日	緊急地方道路整備事業 神崎地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	氣候道路	花巻市
94	平成16年10月25日	一般国道4号平泉バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手川国道事務所	可能性あり	平泉町
95	平成16年10月25日～26日	農用地地総合整備事業 下閉伊地区	緑資源機構東北北海道整備局下閉伊北建設事務所	暫定許可路	田野畠村
96	平成16年10月25日～26日	農用地地総合整備事業 下閉伊地区	緑資源機構東北北海道整備局下閉伊北建設事務所	暫定許可路	田野畠村
97	平成16年10月26日	駐車交通安全施設整備事業	官古地方法務局上木部	官古地方法務局上木部	官古市
98	平成16年10月26日	駐車交通安全施設整備事業	官古地方法務局上木部	官古地方法務局上木部	官古市
99	平成16年10月26日	駐車交通安全施設整備事業	官古地方法務局上木部	官古地方法務局上木部	官古市
100	平成16年10月27日	流域貯留事業 鮎沢1丁2別地区	二戸地方振興局農政部農村整備室	板木屋敷3道筋	鮎来町
101	平成16年10月27日	緊急地方道(宮城)事業	二戸地方振興局上木部	大道1道筋	鮎来町
102	平成16年10月27日～28日	新宮体育館整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西道筋	石鳥谷町
103	平成16年10月27日～28日	新宮体育館整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	荒野道筋	石鳥谷町
104	平成16年10月27日～28日	新宮体育館整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	石鳥谷1道筋	石鳥谷町
105	平成16年10月27日～28日	新宮体育館整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西2道筋	石鳥谷町
106	平成16年11月1日～2日	新宮体育館整備事業 榛沢東部地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	岩谷堂駅前Ⅱ道筋	江刺市
107	平成16年11月1日～2日	新宮体育館整備事業 榛沢東部地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	金行道筋	江刺市
108	平成16年11月2日	一般国道397号新山地区道路災害復旧工事	水戸地方振興局上木部	下船道筋	江刺市
109	平成16年11月4日	中川則地城総合整備事業 田野瀬地区	久慈地方振興局農政部農村整備室	可能性あり	山形村
110	平成16年11月5日	新宮体育館整備事業 大森上野地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	矢松小幡道筋	花巻市
111	平成16年11月5日	新宮体育館整備事業 大森上野地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	小松原道筋	花巻市
112	平成16年11月5日	流域貯留事業 鮎来1丁2別地区	一戸地方振興局農政部農村整備室	板木屋敷3道筋	鮎来町
113	平成16年11月12日	観光免震整備事業 大森上野地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	可能性ありNo6	金ヶ崎町
114	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	細野道筋	南只町
115	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	鶴道筋	南只町
116	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	南船道筋	南只町
117	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	本只地方振興局農政部農村整備室	八郎船道筋	南只町
118	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	本只地方振興局農政部農村整備室	宗内船道筋	南只町
119	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	本只地方振興局農政部農村整備室	明後見道筋	南只町
120	平成16年11月8日～10日	新宮体育館整備事業 鮎沢1野地区	本只地方振興局農政部農村整備室	烏子見道筋	南只町
121	平成16年11月8日～10日	経営体行方未定整備事業 更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	駄馬道筋	花巻市
122	平成16年11月8日～10日	経営体行方未定整備事業 更木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME26-2230道筋	花巻市

123	平成16年11月8日～10日	新宮体育館施設整備事業 見木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36-2552道路
124	平成16年11月9日～10日	新宮体育館施設整備事業 白山地区	水戸地方振興局農政部農村整備室	道1道路
125	平成16年11月11日	通常移転事業	宮古地方振興局農林部農村整備室	沼田道路
126	平成16年11月11日～12日	新宮体育館施設整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西道路
127	平成16年11月11日～12日	新宮体育館施設整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	大西Ⅱ道路
128	平成16年11月11日～12日	新宮体育館施設整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	鳥飼湯原路
129	平成16年11月11日～12日	新宮体育館施設整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	中村道路
130	平成16年11月11日～12日	新宮体育館施設整備事業 八重畠地区	花巻地方振興局農政部農村整備室	大沢鍋川道路
131	平成16年11月15日	新宮体育館施設整備事業 朝浜古流地区	水沢地方振興局農政部農村整備室	要道路
132	平成16年11月16日	一般国道1号バイパス改築工事	国十交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	要人保育道路
133	平成16年11月11日～12日	敷職員住宅八重畠整備事業	本丸地方振興局農林部	荒沢町
134	平成16年11月15日	学校財産購入事業	遠野地方振興局農林部	荒沢町
135	平成16年11月17日	ふるさと林道事業	遠野地方振興局農林部	荒沢町
136	平成16年11月18日	新宮体育館施設整備事業 猪川左岸地区	遠野地方振興局	荒沢町
137	平成16年11月19日	新宮体育館施設整備事業 猪川左岸地区	遠野地方振興局	荒沢町
138	平成16年11月18日～19日	一般国道1号小谷バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	荒野市
139	平成16年11月18日～19日	一般国道1号小谷バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	一ノ町
140	平成16年11月19日	馬淵川治山雨水利害事業	馬淵川治山雨水利害事業所	二日市
141	平成16年11月18日～19、22日	新宮体育館施設整備事業 御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室	牛石町
142	平成16年11月1日～2日	新宮体育館施設整備事業	本丸地方振興局農政部農村整備室	岩手郡宮田村Ⅱ道路
143	平成16年11月1日～2日	新宮体育館施設整備事業	本丸地方振興局農政部農村整備室	江刺市
144	平成16年11月4日～5日	新宮体育館施設整備事業	本丸地方振興局農政部農村整備室	前沢町
145	平成16年11月5日	新宮体育館施設整備事業 柳沢東部地区	本丸地方振興局農政部農村整備室	江刺市
146	平成16年11月5日	新宮体育館施設整備事業 磐沢東部地区	本丸地方振興局農政部農村整備室	金打越路
147	平成16年11月8日～11日	新宮体育館施設整備事業 磐沢地区	本丸地方振興局農政部農村整備室	合野道路
148	平成16年11月15日	新宮体育館施設整備事業 舎代地区	本丸地方振興局農政部農村整備室	湯瀬河跡
149	平成16年11月24日～25日	中山間地域公共施設整備事業 日切山内地区	大幡渡市	上郷牛糞路
150	平成16年11月24日～25日	新宮体育館施設整備事業 1塊地区	花巻地方振興局農林部農村整備室	石島谷町
151	平成16年11月24日～25日	新宮体育館施設整備事業 見木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36-2330道路
152	平成16年11月24日～25日	新宮体育館施設整備事業 見木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36-2342道路
153	平成16年11月24日～25日	新宮体育館施設整備事業 見木新田地区	北上地方振興局農林部農村整備室	ME36-2352道路

154	平成16年(11)月26日	大平地区(地主へ)助成工事 区域費負担補修事業 稲末丸山2割地(区)	一間地方振興局農林部 区域費負担補修課農村整備係	中里流域 轟米町
155	平成16年(11)月28日～29日	区域費負担補修事業 稲末丸山2割地(区)	二間地方振興局農林部農業課 KDDI株式会社新幹線シニアリングセンター	轟米町 石鳥谷町
156	平成16年(11)月30日	携帯電話用無線施設建設事業 経営体育成促進整備事業 神坂地区	花巻市 花巻市	
157	平成16年(12)月2日	経営体育成促進整備事業 神坂地区 一般国道上木金川～根毛山地(区)道路整備	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
158	平成16年(12)月2日	物流支援道路整備事業 一般国道165号北山バイパス事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
159	平成16年(12)月3日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
160	平成16年(12)月3日	一般国道165号北山バイパス事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
161	平成16年(12)月3日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
162	平成16年(12)月6日～7日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巻市
163	平成16年(12)月6日～7日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巻地方振興局農林部農村整備係 花巻地方振興局農林部農村整備係	花巻市 花巒町
164	平成16年(12)月6日～7日	一般国道1分岐点～八八久改築工事 一般国道1分岐点～八八久改築工事	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
165	平成16年(12)月6日～7日	一般国道1分岐点～八八久改築工事 一般国道1分岐点～八八久改築工事	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
166	平成16年(12)月9日	一般国道1分岐点～八八久改築工事 地方特定道路整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
167	平成16年(12)月8日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
168	平成16年(12)月10日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
169	平成16年(12)月10日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
170	平成16年(12)月10日	新宮体育館整備事業 新宮体育館整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
171	平成16年(12)月10日	新宮体育館整備事業 八重瀬地区(区)	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
172	平成16年(12)月10日	新宮体育館整備事業 大平地区(区)	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
173	平成16年(12)月12日	新宮体育館整備事業 江鶴～第一地区	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
174	平成16年(12)月13日	新宮体育館整備事業 貴原リサイクル資源整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
175	平成16年(12)月13日～14日	新宮体育館整備事業 頸椎合併症整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
176	平成16年(12)月16日	新宮体育館整備事業 頸椎合併症整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
177	平成16年(12)月16日～17日	新宮体育館整備事業 頸椎合併症整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
178	平成16年(12)月16日～17日	新宮体育館整備事業 頸椎合併症整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
179	平成16年(12)月16日～17日	新宮体育館整備事業 更木新田地区	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
180	平成16年(12)月16日～17日	新宮体育館整備事業 更木新田地区	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
181	平成16年(12)月16日～17日	新宮体育館整備事業 白山地区	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
182	平成16年(12)月20日～22日	新宮体育館整備事業 費用複合整備事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
183	平成16年(12)月20日	費用複合整備事業 下野伊北事業所	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町
184	平成16年(12)月21日	北上川上流域城下水道事業	花巒町 花巒町	花巒町 花巒町

216	平成17年2月24日	北上川上流域「水道事業 新宮体育館易燃物備事業	北上川上流域地下水道事務所	大崎古道跡	施設村
217	平成17年3月7日	木足地方林野局農政部農村整備室	木足地方林野局農政部農村整備室	道上遺跡	崩沢町
218	平成17年3月8日～9日	一圓港水施事業(UR緑衣川橋架け替え)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	坂下遺跡	平泉町
219	平成17年3月8日～9日	一圓港水施事業(UR緑衣川橋架け替え)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり2遺跡	平泉町
220	平成17年3月8日～9日	一圓港水施事業(UR緑衣川橋架け替え)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり3遺跡	平泉町
221	平成17年3月10日	緊急地方道路整備事業荒尾地区	花巻地方振興局上木部	山上遺跡	石鳥谷町
222	平成17年3月10日	緊急地方道路整備事業荒尾地区	花巻地方振興局上木部	猪鼻遺跡	石鳥谷町
223	平成17年3月10日	緊急地方道路整備事業荒尾地区	花巻地方振興局上木部	猪鼻遺跡	石鳥谷町
224	平成17年3月11日	特定交通安全会議常磐中央道筑波区	花巻地方振興局上木部	下根子遺跡	花卷市
225	平成17年3月10日	頸地菅原合掌村事業 頸城地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	十文7遺跡	施設町
226	平成17年3月11日	頸地菅原合掌村事業 頸城地区	千厩地方振興局農林部農村整備室	十文7作の前遺跡	施設町

III 写真図版





金打道路 土層断面



金打道路 4号土坑土器検出状況



金打道路 3号土坑遺物出土状況



金打道路 土坑群



金打道路 調査区全景



兵法田道路 西区全景



兵法田道路 東1区全景



兵法田道路 東3区全景

写真図版 1 県内遺跡調査状況 (1)



大道口遺跡 調査区全景



蓮池遺跡 3号竪し穴断面



蓮池遺跡 調査区全景



駒板遺跡 1号土坑断面



駒板遺跡 調査区全景



屋敷遺跡 1号竪し穴完掘

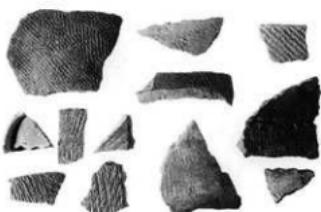


屋敷遺跡 溝断面図



屋敷遺跡 溝全景（南側調査区）

写真図版2 県内遺跡調査状況(2)



大西遺跡（第8図 1~12）



大西遺跡（第8図 13~24）



金打道路（第14図 1~14）



金打道路（第14、15図 15~23）



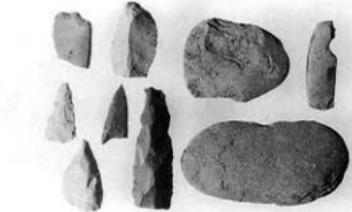
金打道路（第15図 24~32）



金打道路（第15、16図 33~41）



金打道路（第16図 45~50）



金打道路（第16、17図 1~9）

写真図版3 県内遺跡出土遺物(1)



金打道跡（第17図 10~14, 16~20）



大道口道跡（第28図 1~4）



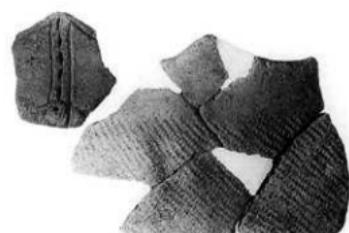
大道口道跡（第28図 1~3）



胸板道跡（第36図 1~5, 7~9）



胸板道跡（第36図 6）



胸板道跡（第36図 10, 11）



胸板道跡（第36, 37図 12~17a,b）



胸板道跡（第37図 18~21）

写真図版4 県内遺跡出土遺物（2）



駒板遺跡（第37図 1~3）



一の台IV遺跡（第47図 1~3）



大曲遺跡（第58図 1）



灌渠・中星敷上・野里上Ⅱ遺跡
(第177図 1、4~10)



瀬原I遺跡（第177図 11、12）



苔塚IV遺跡（第177、178図 13~20）



千足南遺跡（第178図 21表）

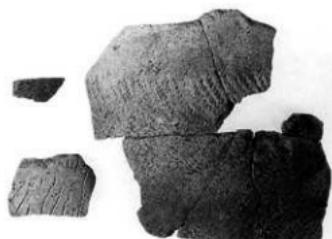


千足南遺跡（第178図 21表）

写真図版5 県内遺跡出土遺物(3)



ME36-2330遺跡（第178図23～24）



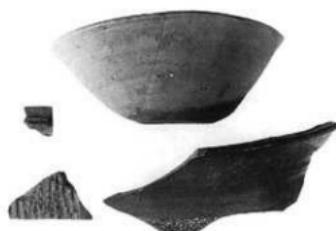
ME36-2352遺跡（第178図27～29）



芦萱遺跡（第178図 30、31）



合野遺跡（第179図 32～34）
道上遺跡（第179図 39）



合野遺跡（第179図 35、37、38）
道上遺跡（第179図 40）



道上遺跡（第179図 41、42）

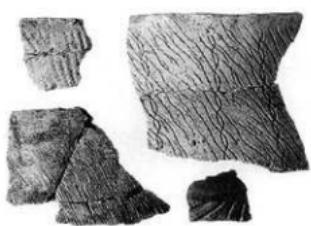


道上遺跡（第179図 44）



道上遺跡（第179図 44）

写真図版6 県内遺跡出土遺物(4)



板子屋敷3遺跡（第180図 45～48）



板子屋敷3遺跡（第180図 49、50）



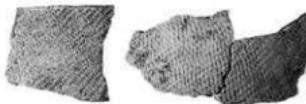
川口1遺跡（第180図 51～53）



六日市遺跡（第181図 57～60）



大文字遺跡（第181図 66、67）



菖前遺跡（第181図 68）
大岩遺跡（第181図 69）

写真図版7 県内遺跡出土遺物(5)

岩手県文化財調査報告書第120集
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成16年度）

発行日 平成18年3月31日

発行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編集 岩手県教育委員会生涯学習文化課

印刷 株式会社陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。